

熊本高等専門学校

学外関係者アンケート報告

平成28年3月

熊本高等専門学校自己点検評価委員会

目 次

はじめに ― 学外関係者へのアンケート調査の目的と方法	p. 1.
第一部 分 析 結 果	p. 3
I 平成21年度本科卒業生・編入大学・企業アンケート調査の分析	
1. 調査対象	p. 4
2. 調査対象別回収率	p. 4
3. 質問項目の構成	p. 4
4. 調査結果の分析	
(1) フェイスシート ― 教育目的と進路との適合性 ―	p. 4
(2) 学習・教育到達目標の社会的要求度 ― 目標設定の適切さ ―	p. 5
(3) 学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度 ― 到達度評価 ―	p. 5
(4) 卒業生の優れている点・劣っている点・本校への提言（自由記述）	p. 7
5. 総括 ― まとめと課題 ―	
(1) まとめ	p. 10
(2) 今後の課題	p. 11
II 平成21年度専攻科（熊本キャンパス）修了生・進学大学院・企業アンケートの分析	
1. 調査対象	p. 13
2. 調査対象別回収率	p. 13
3. 質問項目の構成	p. 13
4. 調査結果の分析	
(1) フェイスシート ― 教育目的と進路との適合性 ―	p. 13
(2) 学習・教育到達目標の社会的要求度 ― 目標設定の適切さ ―	p. 14
(3) 学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度 ― 到達度評価 ―	p. 15
(4) 修了生の優れている点・劣っている点・本校への提言（自由記述）	p. 16
5. 総括 ― まとめと課題 ―	
(1) まとめ	p. 17
(2) 今後の課題	p. 19

Ⅲ 平成21年度専攻科（八代キャンパス）修了生・進学大学院・企業アンケートの分析

1. 調査対象	p. 20
2. 調査対象別回収率	p. 20
3. 質問項目の構成	p. 20
4. 調査結果の分析	
(1) フェイスシート — 教育目的と進路との適合性 —	p. 20
(2) 学習・教育到達目標の社会的要求度 — 目標設定の適切さ —	p. 21
(3) 学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度 — 到達度評価 —	p. 22
(4) 修了生の優れている点・劣っている点・本校への提言（自由記述）	p. 24
5. 総括 — まとめと課題 —	
(1) まとめ	p. 24
(2) 今後の課題	p. 26
第二部 分 析 資 料	p. 27

I 平成21年度本科卒業生・編入大学・企業アンケート資料

(1) フェイスシート — 教育目的と進路との適合性 —	p. 29
(2) 学習・教育到達目標の社会的要求度 — 目標設定の適切さ —	p. 32
(3) 学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度 — 到達度評価 —	p. 41
(4) 卒業生の優れている点・劣っている点・本校への提言（自由記述）	
・卒業生の優れている点	p. 50
・卒業生の劣っている点	p. 54
・卒業生の本校への提言	p. 61

Ⅱ 平成21年度専攻科（熊本キャンパス）修了生・進学大学院・企業アンケート資料

(1) フェイスシート — 教育目的と進路との適合性 —	p. 67
(2) 学習・教育到達目標の社会的要求度 — 目標設定の適切さ —	p. 70
(3) 学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度 — 到達度評価 —	p. 79
(4) 修了生（熊本キャンパス）の優れている点・劣っている点・本校への提言（自由記述）	
・修了生（熊本キャンパス）の優れている点	p. 88
・修了生（熊本キャンパス）の劣っている点	p. 90
・本校専攻科（熊本キャンパス）への提言	p. 92

Ⅲ 平成21年度専攻科（八代キャンパス）修了生・進学大学院・企業アンケート資料

（１）フェイスシート ― 教育目的と進路との適合性 ― p. 95

（２）学習・教育到達目標の社会的要求度 ― 目標設定の適切さ ― p. 97

（３）学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度 ― 到達度評価 ― p. 106

（４）修了生の優れている点・劣っている点・本校への提言（自由記述）

・修了生（八代キャンパス）の優れている点 p. 115

・修了生（八代キャンパス）の劣っている点 p. 117

・本校専攻科（八代キャンパス）への提言 p. 119

第三部 依頼文・アンケート設問 p. 121

（１）依頼文 p. 122

（２）アンケート設問 p. 133

はじめに ― 学外関係者へのアンケート調査の目的と方法

(1) アンケート調査の目的

熊本高等専門学校は、「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成することを目的」とし、「専門分野の知識と技術を有し、技術者としての人間力を備えた、国際的にも通用する実践的・創造的な技術者の育成及び科学技術による地域社会への貢献を使命とする」ことを理念として、学則第一条に掲げてあります。この目的や理念に基づき、本科・専攻科にそれぞれ6つの「育成する人材像」を定め、その人材像に備わる個々の能力を「学習・教育到達目標」として設定してあります。

熊本高等専門学校は、平成21年10月1日に旧熊本電波高等専門学校と旧八代工業高等専門学校が高度化再編され、新たに設立されましたが、この6年間の間にも技術革新はめざましく、またグローバル化が一層進展しています。こうした社会の急激な変化に、本校は対応していかなければなりません。そのため、本科卒業生や専攻科修了生、また彼らの編入大学や進学大学院の指導教員、就職先企業の方など学外関係者の御意見を賜り、本校の育成する人材が社会のニーズに合っているか検証するとともに、本校の教育の質の向上及び改善のために活かしていく必要があります。そこで、この度、自己点検評価委員会では、本校独自の総合的な自己点検評価を行うのに合わせて、学外関係者を対象にアンケート調査を行い、その貴重な御意見をもとに点検評価を図ることにしました。そのアンケート結果をまとめたものがこの報告書です。

(2) アンケートの内容と対象

アンケートの内容は、①学習・教育到達目標の各項目の社会的要求度（選択式）、②学習・教育到達目標の各項目に対する本校教育への満足度（選択式）、③本校卒業生・専攻科修了生の優れている点・劣っている点、本校への提言（自由記述）の三つに分かれています。調査対象は、ある程度職場経験を積んだもの、大学や大学院を卒業・修了したもの（大学院在学中のものも含む）で、本校での教育経験をまだ記憶に留めているであろう人ということで、熊本高等専門学校が誕生した平成21年度、すなわち平成22年3月に卒業または修了した本科卒業生・専攻科修了生、並びに彼らの編入大学・進学大学院の指導教員、就職先企業の方を選びました。

対象者の平成21年度卒業生・修了生は、熊本電波工業高等専門学校と八代工業高等専門学校で在学期間のほとんどを送った人たちですが、熊本高等専門学校が誕生してから入学し卒業したものは社会人経験が少ないので評価しづらいと考え、彼らを調査の対象として選びました。厳密な意味で熊本高等専門学校の評価とはいえませんが、学外関係者の本校に対する大まか評価は把握できるものと考えています。

(3) アンケートの調査方法

調査方法は、調査対象に「アンケート調査への御協力をお願い」という依頼文を郵送し（卒業生や修了生へは実家から転送してもらった）、SurveyMonkey という外部のアンケート専門 Web サイトにアクセスしてもらって回答してもらう方法をとりました。

(4)アンケートの分析について

企業向けのアンケートは、依頼文を卒業生や修了生から上司に手渡してもらう方法をとったため、残念ながら回答率は低い結果となってしまいました。そのため、分析にあたっては、自己点検評価委員会が平成 24 年度に実施した「企業アンケート（平成 24 年度）の分析結果」（アンケート送付先企業数：409 社 回答数：137 社 回答率：33.5%）を必要に応じて利用しました。

また、熊本キャンパスの「電子情報システム工学専攻」には、JABEE 対応教育プログラムの「電子・情報技術応用工学コース」と JABEE 非対応教育プログラムの「電子情報技術専修コース」の 2 つが設けてありますが、後者についてはもともとコース選択者が少なく、今回のアンケートでは回答者が 1 人であったため、前者についてのみ学習・教育到達目標の分析を行いました。

(5)謝辞

今回の学外関係者アンケートには、企業の方、大学及び大学院の指導教員並びに事務局職員の方、専攻科修了生や本科卒業生並びにご家族の方など多くの皆様の御協力を賜りましたこと、誠にありがとうございました。本校への御提言には、厳しくも暖かいたくさん示唆に富む御意見を賜りました。本校を支えてくださっている学外関係者の皆様の貴重な御意見を活かして、今後とも教育の質の向上及び改善に努めていく所存です。今後とも皆様の御支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

平成 27 年 3 月

熊本高等専門学校 自己点検評価委員会委員長
熊本キャンパス共通教育科 伊藤利明

第 一 部

分 析 結 果

I 平成 21 年度本科卒業生・編入大学・企業アンケート調査の分析

1. 調査方法

平成 26 年 5 月から 6 月に自己点検評価委員会より卒業生の実家宛てに「アンケート調査への御協力をお願い」（保護者宛て）と「熊本高等専門学校第 1 回卒業生アンケート調査への御協力をお願い」（卒業生宛て）という依頼状を送付し、卒業生が別居している場合は、同封した封筒で本人に依頼状を転送してもらった。編入大学の指導教員へは、大学事務部宛てに「熊本高等専門学校卒業編入生の指導教員へのアンケート依頼状について」（事務部宛て）と「熊本高等専門学校卒業生編入大学様アンケート調査への御協力をお願い」（指導教員宛て）という依頼状を送付し、事務部より編入生の指導教員に依頼状を転送してもらった。企業の方には、「企業様アンケート調査への御協力をお願い」という依頼状を卒業生から直属の上司の方に手渡してもらった。アンケートへの回答は、いずれも SurveyMonkey という外部のアンケート専門 Web サイトにアクセスして回答してもらう方法をとった。

2. 調査対象別回答率

調査対象別回収率は、以下の通りである。

- ・本科卒業生 平成 21 年度本科卒業生 296 人 回答者数 134 人 回答率 45.3%
- ・編入大学の指導教員 平成 21 年度編入大学のべ 35 校 回答者数 31 人 回答率 88.6%
- ・企業〔職場の上司〕 平成 21 年度就職企業のべ 168 社 回答者数 17 人 回答率 10.1%

企業の方の回答率が低いのが、これは企業に直接依頼文を送るのではなく、卒業生から直属の上司の方に手渡してもらう方法をとったことが原因と思われる。

3. 質問項目の構成

質問項目は、大別して以下の 4 つに分けられている。

- (1) フェイスシート（選択式）
- (2) 学習・教育到達目標の社会的要求度（選択式）
- (3) 学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度（選択式）
- (4) 卒業生の優れている点・劣っている点・本校への提言（自由記述）

4. 調査結果の分析

(1) フェイスシート — 教育目的と進路との適合性 —

調査対象者は、平成 21 年度本科卒業生であるため、平成 27 年度が始まった時点で卒業して 6 年経った人たちである。回答のあった 134 人のうち無職(1.5%)とその他(3.7%)を除いた 94.8%が就業(88.8%)しているか、大学院に在学中(6.0%)である。その業種を見ると、製造業(34.9%)が最も多く、情報通信業(21.0%)、電気・ガス・水道(12.3%)、サービス業(8.7%)、運輸業(5.1%)、建設業(3.6%)と続いている。また、業種としては、システムエンジニア(17.4%)が最も多く、設計(18.6%)、研究・開発(13.2%)、製造・生産技術(12.0%)、品質管理(10.2%)と続いている。当然ながら企業の方の回答は、業種や卒業生の配属された職種など卒業生の回答と同様の傾向である。

卒業生が編入した大学の指導教員の所属学部は、工学部(60.7%)が最も多く、情報系ある

いは理工系学部、医学系研究所(32.1%)、農学部(7.1%)がこれに続いている。その所属学科をみると、名称は異なるが、電気・電子系や情報系、理数系、建築系、機械系、生物・化学系や薬学系が多い。

このことから、ほとんどの卒業生は、卒業してすぐ、あるいは高専での所属学科と同系統の大学に編入して後に、専門性が活かされている職業に就いていることが分かる。

(2) 学習・教育到達目標の社会的要求度 — 目標設定の適切さ —

(1) 学習・教育到達目標の社会的要求度についての全般的傾向

学習・教育到達目標の社会的要求度の調査は、本学の「育成する人材像」や「学習・教育到達目標」の設定の適切さを検討する指標となる。卒業生や進学大学の指導教員、企業の方の学習・教育到達目標の社会的要求度についての評価は、一部を除いてほとんどが「必ず必要である」と「どちらかという必要である」の合計（以下、「肯定意見」という）の割合が全体の3分の2を超えている。このことから、学習・教育到達目標については概ね社会的要求度が高い、すなわち目標設定は適切だと評価されているということができよう。

(2) 英語力の必要性について

卒業生にあつては、「1-3：自分の考え方を簡単な英語で表現できる」が肯定意見 58.7%とやや低く、企業の方の評価でもこの目標については肯定意見が 50.0%と同様の傾向を示している。また、企業の方の評価は「1-2：日常的に使用される英語で書かれた文章の概要・要旨がつかめる」でも「あまり必要ない」という回答が 35.7%と3分の1を超えている。「企業アンケート（平成24年度）」でも技術者として必要な能力として、33項目中「英語を読む力」（29位）、「英語を書く力」（31位）、「英会話力」（30位）はそれほど重要視されてはいなかった（同アンケート、p.4）。同じ質問で大学の指導教員は、「1-2」で100%、「1-3」で92.6%と非常に肯定意見の割合が高い。後述する到達度評価や自由記述では、英語力の不足の指摘や英語力の向上の要望がある。このことから、英語力については、職種によっては必ずしも必要とされないものが、半数教の卒業生は必要と考えており、大学に進学するものにとっては英語の能力は必須とされているということが分かる。

(3) 学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度 — 到達度評価 —

(1) 「本校が育成する人材像」の2、3、6に関する目標の到達度評価

学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度の調査は、本科の「育成する人材像」や「学習・教育到達目標」の到達度を評価する指標となる。学習・教育到達目標の到達度評価のうち、「本校が育成する人材像」の「2. ICTに関する基本的技術および工学への応用技術を身に付けた技術者」と「3. 各分野における技術の基礎となる知識と技能への応用技術を身に付けた技術者」、「6. 知的探究心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組むことができる技術者」に関する目標については、調査対象者の如何に関わらず、いずれも「十分に身につけさせている」と「概ね身につけさせている」の合計（以下、「肯定意見」という）の割合が全体の3分の2を超えている。このことから、「本校が育成する人材像」の2、3、6に関する目標については、概ね達成されているということが出来る。

(2) 「本校が育成する人材像」の1に関する目標の到達度評価

「本校が育成する人材像」の「1. 日本語および英語のコミュニケーション能力を有する技術者」に関する目標の到達度評価については、卒業生の評価は芳しくなく「1-1：日本語における適切な文章表現及び口頭の意味伝達ができる」では肯定意見 57.3%と辛うじて上回っているが、「1-2：日常的に使用される英語で書かれた文章の概要・要旨がつかめる」では肯定意見が 39.5%、「1-3：自分の考え方を簡単な英語で表現できる」では 29.0%しかない。

「1-1」については、大学の指導教員も企業の方も肯定意見がともに 100%で、卒業生が主観的に思うほどには能力不足とは受け取られていないようである。「1-2」について、企業の方は肯定意見が 61.6%と他の目標に比べて割合が低くなっており、「1-3」にいたっては 38.5%と目標の到達度評価の中で最も低い結果になっている。「企業アンケート（平成 24 年度）」では、本科卒業生の採用時のレベルについて、33 項目中「日本語力」は 8 位と比較的高いと評価されているが、「英語を読む力」（29 位）、「英語を書く力」（31 位）、「英会話力」（30 位）についてはかなり低く評価されており（同アンケート、p. 8）、今回の結果もそれと一致する。

大学の指導教員は、「1-2」については肯定意見の割合が 74.0%あり前二者に比べれば高いが、これは大学の編入試験に英語を課すところがあるから、多少は英語力を身につけて入学しているからではなかろうか。それでも他の目標の到達度評価の中では低い方であり、「1-3」については肯定意見 55.5%と最も低い結果になっている。このことから、英語の読解力や表現力については社会の要求水準を満たしているとはいいがたい。

(3) 「本校が育成する人材像」の4に関する目標の到達度評価

「本校が育成する人材像」の「4. 知徳体の調和した人間性および社会性・協調性を身に付けた技術者」に関する目標のうち「4-1：広い視野で物事を考えることができる」について、卒業生の評価は肯定意見が 62.9%、また、「4-3：社会参加のための、人間的基礎力を身につける」についても肯定意見が 54.0%でやや低い評価となっている。この2つの目標については、大学の指導教員や企業の方は、肯定意見が8割を越えている。「企業アンケート（平成 24 年度）」では、本科卒業生の採用時のレベルについて、33 項目中「協調性」（1 位）、「社会性」（5 位）ともに高く評価されていた。

「4-2：日本と世界との関わりに関心を持つことができる」については、卒業生は肯定意見が 35.4%で大変低く、大学の指導教員が 70.4%、企業の方が 61.6%とやや低くなっている。「企業アンケート（平成 24 年度）」では、本科卒業生の採用時のレベルについて、33 項目中「地球的視点」（30 位）や「異文化理解」（29 位）の能力はかなり低く評価されていた（同アンケート、p. 8）ので、今回の結果もそれと一致する。

このように人間性や社会性・協調性について、客観的にはある程度身につけているように見えても、卒業生自身は主観的には身につけていないと考えている人が多い。これらの指標は本人の性格に関わることなので、主観的評価と客観的評価が大きく分かれるのかもしれない。「4-2：日本と世界との関わりに関心を持つことができる」の目標については、主観的にも客観的にも到達度が低いと考えられる。

(4) 「本校が育成する人材像」の5に関する目標の到達度評価

「5. 広い視野と技術のあり方に対する倫理観を身に付けた技術者」に関する2つの学習・教育到達目標「5-1：技術者が持つべき倫理観の必要性を認識できる」と「5-2：社会における倫理的な問題を認識することができる」について、卒業生は肯定意見がそれぞれ65.9%、58.9%とやや低い評価となっている。この2つの目標について、大学の指導教員や企業の方は肯定意見が8割を越えている。「企業アンケート（平成24年度）」では、本科卒業生の採用時のレベルについて、33項目中「倫理的問題について理解・指摘する力」というのは24位である。この時は5段階評価の平均で3.44であるので、100分率で68.8%となり、今回の卒業生の回答に近い。

このことから、倫理観の涵養に関わる目標については、人間性や社会性・協調性の到達度評価同様、少なくとも卒業生自信は主観的には身につけていないと考えているようである。

（4）卒業生の優れている点・劣っている点・本校への提言（自由記述）

(1) 卒業生の優れている点について

「熊本高等専門学校卒業生の優れている点をお聞かせください。」という本校卒業生の長所を問う自由記述の設問には、卒業生からは134人中80人、大学の指導教員からは28人中23人、企業の方からは17人中9人からの回答があった。

内容を分類すると、専門的知識やそれに関連する幅広い基礎知識、基礎的な技術力をあげる者が多かった。また、それらの専門的知識や技術が就職してから仕事にすぐに役立つという実践性や即戦力を上げる意見があった。大学の指導教員からも専門的知識や技術の習得に関する意見が多かった。同様に企業の方からも専門能力の高さがあげられている。

これらの意見は、先の学習・教育到達目標の到達度評価の結果と一致するものであり、本校の理念に掲げる「専門分野の知識と技術」を有する「実践的・創造的な技術者の育成」という点については、卒業生の評価は高いといえる。

また、卒業生の性行についての意見もかなりあった。卒業生からは、主体性や行動力、問題解決能力の高さをあげる意見が多く見られ、職場の先輩や同僚に活躍している優秀な人材が存在するという意見があった。信頼性や真面目さ、責任感があるといった人格に関わる意見や、コミュニケーション力・協調性など人間関係の処理能力の高さをあげる意見もあった。大学の指導教員も行動力・積極性・自主性・真面目さ・責任感・継続性・探究心・協調性の言葉を用いて、卒業生の性行の良さを表している。また、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、総合能力としての卒業生の優秀さをあげる意見もあった。企業の方からの意見は、専門知識や技術の高さよりも卒業生の性行についての意見が多く、向上心・積極性・探究心・真面目さ・責任感の高さなどの言葉が見られた。また、応用力や発想力の高さを指摘する意見があった。

このように卒業生の優れている点についての自由意見から、専門知識や技術の高さだけでなく、「本校が育成する人材像」の1にあげてあるコミュニケーション能力や3にあげてある人間性・社会性・協調性、6にあげてある知的探究心・主体性・創造性を身につけて社会の第一線で働く卒業生の姿が浮かび上がってくる。自由意見からは数量的評価はできないが、人材像を体現している卒業生がおり、社会で評価を受けていることは分かる。

(2) 卒業生の劣っている点について

「熊本高等専門学校卒業生の劣っている点をお聞かせください。」という本校卒業生の短所を問う自由記述の設問には、卒業生からは134人中83人、大学の指導教員からは28人中22人、企業の方からは17人中7人からの回答があった。

卒業生の内容を分析すると、英語力という回答したものが33件と最も多かった。一般教養や一般常識、基礎学力についても劣っていると考えている。これも学習・教育到達目標の到達度評価の結果と符合している。大学の指導教員の回答にも英語力不足を指摘する意見が3件あったほか、知識の不足をあげる意見が1件あった。企業の方の意見にも英語力不足をあげる意見が1件あった。

ここで、卒業生の比較対象として想定されているのは、他高専の卒業生ではなく、大学卒・大学院修了の学歴をもつ者であると思われる。大学受験の功罪は別にして、普通高校を経て大学に進学した者は、一般科目の知識量では高専卒業生をはるかに凌駕することは想像に難くなく、高等専門学校のカリキュラム上致し方ないことかもしれない。しかし、劣っている点の指摘や後述する本校への提言は、本校に対する社会的要求の表れであるから、本校としてこれに答えていく責務があると思われる。

一方で、優れている点として最も多かった専門的知識や技術の習得については、卒業生には「広く浅く」の学習内容が広範な分野にわたって対応できる反面、専門性が高まると対応できないということに対して、劣っている点として感じられている。これも上記と同様で実践的な技術者の育成を目指すことを目的とした高等専門学校の性格上、大学や大学院と比較すると学習の深さにおいて劣っていると感じられるのは当然であると思われる。しかし、大学の指導教員や企業の方の回答にはそうしたあまり意見はみられず、高等専門学校の性格上、そこはあまり問わないのかもしれない。

卒業生の性行やその他の能力に関するものについて、卒業生からの回答で多かったのが、コミュニケーション能力の不足である。コミュニケーション能力に関連するであろう社交性や社会的適応能力、リーダーシップや積極性、向上心が不足していると感じている意見が多く見られる。大学の指導教員の回答には、コミュニケーション能力の不足というものはなかったが、消極性や劣等感など卒業生の性行についての意見が5件あり、探究心・創造性の不足、真摯な姿勢や勤勉性・継続性の欠如など研究・勉学への取り組みに関するものが3件あった。また、両者ともプレゼンテーション能力の不足という点を指摘している。企業の方の回答には、業務遂行に関わる性行の問題を指摘する回答があった。体調管理の悪さや業務の優先度の理解不足、継続力・探究心の欠如などの意見があげられている。

ここで注目すべきは、優れている点として評価された性行や能力について、劣っていると指摘されている点である。つまり、本校の育成する人材像に目標として盛り込まれている指標によって優劣の判断がされているということは、人材像にあげてある性行や能力が社会的に要求されているということの証左となる。本校の育成する人材像とはかけ離れている卒業生を社会に送り出していることは事実であり、これを厳粛に受け止めなければならない。多分に個人の性格に関わる部分が大きい事柄であるが、卒業生の質の確保するために何らかの方策を立てなければならない。また、大学の指導教員から勉学姿勢の問題を指摘されているが、個人の問題として片付けるのではなく、進路指導の問題として捉えるべ

きだと思われる。

その他の回答では、卒業生からは国際競争力や恋愛経験の乏しさ、知識習得の意味の理解不足という意見が見られる。進路選択能力の不足や進路指導の方法の問題を指摘する意見があったが、就職・進学情報の提供だけでなく、自己実現のために自分に相応しい進路が選択できる判断能力を養うキャリア教育を行うべきという指摘はもっともだと思われる。また、進路指導に関する不信感があってはならないことなので、「希望と納得」の原則通り適切に指導が行われているか点検する必要がある。

(3) 本校への提言について

「熊本高等専門学校への御提言がございましたら、お聞かせください。」という本校への提言を問う自由記述の設問には、卒業生からは 134 人中 39 人、大学の指導教員からは 28 人中 14 人、企業の方からは 17 人中 6 人からの回答があった。

卒業生の提言は、内容的には「劣っている点」と指摘された事項についての提言が多かった。英語力の向上に力を入れるべきであるというものや、一般教養や一般常識、社会への関心を高めるべきであるというものが多かった。技術者であると同時に社会人として、必要な知識の重要性を肌で感じている卒業生の声であると思われる。「実践的な英語運用能力」と表現されている高専生が身につけるべき英語力についての提言など傾聴に値する意見だと思われる。

教育内容や教育方法については、具体的な提案の意見があり、特に最先端の技術を紹介したりして「学生の興味関心を高める授業」を望む内容であった。学生の研究のあり方については、研究を通じて得られる能力に注目する意見が多かった。学習支援については、学校としての組織的なサポート体制が必要ではないかという貴重な提言をいただいている。性行については、自由の尊重や自主性、創造性、協調性を育む教育の必要性の意見があり、これと関連して論理的思考や問題解決能力、コミュニケーション力、プレゼン力などを高める教育が大切だという意見があった。これらの性行に関わる提言は、本校の育成する人材像に掲げられているものと合致する。

就職や進学に関しては、高専卒という学歴の社会における位置づけに関する意見が見られる。高専卒が就職で有利に働くこともあれば、不利に働く場合もあり、その点を進路説明の際に詳しく説明すべきだという意見である。また、就職指導の際に教員の指導への不満の意見が見られる。先述したとおり学生の選択能力を高めるキャリア教育と適切な進路指導の実施がなされているか、点検する必要がある。その他、もっと地域貢献をすべきという意見や卒業生とのつながりを強める施策を考えるべきではないかという意見があった。

大学の指導教員からは、専門教育についてはこれまで通り実践的教育という高専の特徴を維持すべきという意見や、優秀な学生の大学編入への進路指導を要望する意見があった。また、大学編入を受け入れる側は、大学院まで進学する学生を求めていることをうかがわせる意見があった。大学の指導教員と編入する学生とのミスマッチを防ぐために、適切な進路指導をする必要がある。さらに、劣っている点で指摘されていた劣等感の払拭や研究姿勢についての教育への提言があった。高専卒であるということが劣等感を抱かせ、それが消極性やその他の性行や能力の発達の妨げになっているとしたら由々しき問題である。個人的な問題かもしれないが、指導教員の信頼を損ねる行動をとった編入生がいたような

ので、誠実さなどの品性をどのように涵養していくのか、検討する必要がある。

企業の方からの提言は、劣っている点に関連して、英語力の向上を求める回答があったほか、感謝のお言葉をいただいた。

5. 総括 ― まとめと課題 ―

(1) まとめ

以上の分析結果をまとめると、次のようになる。

まず、選択式評価から分かることは、

(1)教育目的と進路との適合性について

卒業後6年経った就業状況を見ると、ほとんどの卒業生が本校の教育目的で意図している職業を続けていることから、教育目的と進路は適合しているといえる。

(2)学習・教育到達目標の設定の適切さについて

本校の掲げる学習・教育到達目標は、ほとんどの目標において社会的要求度が高いと評価されていることから、目標設定は概ね適切であると考えられる。

(3)英語力の社会的要求度について

英語力は、学生の進路によって必要度が異なる。

(4)「本校が育成する人材像」の2, 3, 6に関する目標の到達度評価について

「本校が育成する人材像」のうち「2. ICTに関する基本的技術および工学への応用技術を身に付けた技術者」と「3. 各分野における技術の基礎となる知識と技能への応用技術を身に付けた技術者」、「6. 知的探究心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組むことができる技術者」に関わる学習・教育到達目標について到達度評価が高かったことから、概ね目標は達成されていると考えられる。

(5)「本校が育成する人材像」の1に関する目標の到達度評価について

「本校が育成する人材像」のうち「1. 日本語および英語のコミュニケーション能力を有する技術者」に関わる学習・教育到達目標（特に英語の読解力や表現力）の到達度評価が低かったことから、社会の要求水準を満たしておらず、目標を達成しているとはいえない。

(6)「本校が育成する人材像」の4に関する目標の到達度評価について

「本校が育成する人材像」の「4. 知徳体の調和した人間性および社会性・協調性を身に付けた技術者」に関わる学習・教育到達目標のうち、卒業生は主観的には人間性や社会性・協調性について到達度評価が低く、日本と世界との関わりへの関心についてはどの評価者も到達度評価が低いことから、目標を達成しているとはいえない。

(7)「本校が育成する人材像」の4に関する目標の到達度評価について

「本校が育成する人材像」の「5. 広い視野と技術のあり方に対する倫理観を身に付けた技術者」に関わる学習・教育到達目標についての卒業生の到達度評価はやや低い評価となっていることから、目標の到達度は十分だとはいえない。

ということである。

自由記述から分かることは、

(8)専門的知識や技術の習得について

評価者を問わず専門分野やその周辺領域の幅広い基礎学力や基礎的な技術力の習得、

またその実践的教育が高く評価されている。一方で、卒業生のなかには勉学の浅さを劣っている点として指摘する意見がある。提言には本校の実践的教育の継続を望む声がある。

(9) 英語力の不足について

卒業生は英語力の不足が劣っている点としてあげるものが最も多く、大学の指導教員からもその意見が見られる。それに対応するように提言にも英語力の向上に力を入れるべきという意見がある。

(10) 一般教養や一般常識の習得について

卒業生は大学卒や大学院修了の学歴をもつ者に比較して、一般教養や一般常識が欠けていると思っており、その点が劣っている点と指摘する意見がある。それに対応するように提言にも一般常識や一般教養、社会への関心を高めるべきという意見がある。

(11) 卒業生の性行に関わる評価について

人間性や社会性・協調性、倫理観、探究心、主体性、創造性など卒業生の性行に関わる評価は、同じ性質について優れている点とする意見と劣っている点とする意見が両方見られる。また、大学の指導教員からは消極性や劣等感の払拭を求める提言があった。企業の方からは自己管理能力や継続力・探究心の欠如などの指摘がある。

(12) コミュニケーション能力について

卒業生は主観的にはコミュニケーション能力が劣っていると感じている。

(13) 教育方法と学習支援について

学生の興味関心を高める授業や組織的な学習支援を望む声があった。

(13) キャリア教育・進路指導について

卒業生からは進路選択能力の不足や進路指導への不信感を抱く声があった。大学の指導教員からは、大学院進学まで視野に入れた研究意欲のある学生の編入を希望しているようである。

(14) その他

国際競争力の不足や恋愛経験の乏しさ、知識習得の意味の理解不足などを指摘する声がある。

ということである。

(2) 今後の課題

選択式評価や自由記述の内容から、総じて本校の学習・教育到達目標で掲げているものは社会的要求度が高く、おおむね到達度評価が高かった。専門的知識や技術の習得については、幅広く基礎的な知識や技術を習得させている点や、それが就職して役立つという実践力を身につけさせている点では、実践的な技術者の育成という本校の教育目的はある程度達成していると思われる。

その専門知識量は、大学卒業生と比較しても遜色ないと感じているものがある一方で、大学院修了生と比べると専門的知識が浅薄であると感じているようである。また、一般教養や一般常識、基礎学力についても不足の声があがっていた。大学卒や大学院修了など高専よりも長い期間教育を受けてきた者に比べて、知識の量や深さにおいて引けを取るのは致し方なく、かといって本校がこれらの教育機関と同レベルの知識の量や深さの教育を目

指すというのは、実践的技術者の育成という社会的使命からいって方向性が異なる。社会や職場で必要とされる一般教養・一般常識や専門の知識・技術を、就業しつつ生涯にわたって自ら学んでいけるだけの基礎学力と知的探究心を育む教育を本校はめざすべきであろう。

教授内容を精選し、効率よく目標を達成できるように科目間で連携を図ることはもちろんのこと、未知のものに対する学習意欲や吸収力、いうなれば「学ぶ力」を伸ばすことに力を注ぐべきだと思われる。技術革新が急速に進む分野で将来にわたって活躍する人材を育成するためには、環境の変化に対応できる「可塑性」を高めるほかない。そのため、育成する人材像の「6. 知的探究心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組むことができる技術者」に掲げてある性行に関わる学習・教育到達目標を、カリキュラムでどのように達成し、検証していくのかを検討する必要がある。また、カリキュラム上の科目の配置だけでなく、能動的学修（アクティブラーニング）を取り入れるなど授業方法の工夫も必要となる。近年、アクティブラーニングの研修会が学内でも盛んに開催されるようになったのはこの方向に沿うものである。

注意しなければならないのは、学習において学生の主体性を重んじることが、学生任せに終わってしまう危険性をはらむことである。卒業生から学習意欲を高める授業を望む声や学習が遅れている学生への支援を望む声があがっていることは、教員が個人として学生の興味関心を高める授業をしているか、また、学校が組織的な学習支援の取り組みをしているか、問われているといえよう。

就職して英語を使う機会が多い職場では、英語力不足を痛感している卒業生が多いことが分かる。大学卒や大学院修了の人と同レベルの英語力をつけるというよりも、卒業生の提言にもあったように、高専卒業生として必要な英語力とは何かを考えて、英語力の向上に取り組むべきだと思われる。両キャンパスでの英語力の向上に向けての取り組みは、この方向に沿って改善計画を立てて実施しているものであり、その実施過程を点検していく必要がある。

卒業生の中には高専卒という職場での立ち位置に疑問を感じているものがある。高学歴化する社会の中で高等専門学校としての本校の役割と教育方針を明確に学生に伝え、将来学生が後悔しないようなキャリア教育を実施する必要がある。キャリア教育が単なる就職斡旋や進学案内などの進路指導に終わることなく、学生の職業観を育み、主体的に進路を選択する能力を育成するものとなっているか、検討する必要がある。

Ⅱ 平成 21 年度専攻科（熊本キャンパス）修了生・進学大学院・企業アンケート調査の分析

1. 調査方法

平成 26 年 5 月から 6 月に自己点検評価委員会より修了生の実家宛てに「熊本高等専門学校専攻科第 1 回修了生へのアンケート御依頼状について」（保護者宛て）と「熊本高等専門学校専攻科第 1 回修了生アンケート調査への御協力をお願い」（修了生宛て）という依頼状を送付し、修了生が別居している場合は、同封した封筒で本人に依頼状を転送してもらった。進学大学院の指導教員へは、大学院事務局宛てに「熊本高等専門学校専攻科修了編入生の指導教員へのアンケート依頼状について」（事務局宛て）と「熊本高等専門学校専攻科修了生入学大学院様アンケート調査への御協力をお願い」（指導教員宛て）という依頼状を送付し、事務局より大学院の指導教員に依頼状を転送してもらった。企業の方には、「企業様アンケート調査への御協力をお願い」という依頼状を修了生から直属の上司の方に手渡してもらった。アンケートへの回答は、いずれも SurveyMonkey という外部のアンケート専門 Web サイトにアクセスして回答してもらう方法をとった。

2. 調査対象別回答率

調査対象別回収率は、以下の通りである。

・専攻科修了生 平成 21 年度専攻科修了生 40 人 回答者数 16 人 回答率 40.0%

・進学大学院の指導教員 平成 21 年度進学大学院のべ 15 校

回答者数 10 人 回答率 66.7%

・企業〔職場の上司〕 平成 21 年度就職企業のべ 25 社 回答者数 1 人 回答率 4.0%

企業の方の回答率が低い、これは企業に直接依頼文を送るのではなく、修了生から直属の上司の方に手渡してもらう方法をとったことが原因と思われる。

3. 質問項目の構成

質問項目は、大別して以下の 4 つに分けられている。

（1）フェイスシート（選択式）

（2）学習・教育到達目標の社会的要求度（選択式）

（3）学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度（選択式）

（4）修了生の優れている点・劣っている点・本校への提言（自由記述）

4. 調査結果の分析

（1）フェイスシート — 教育目的と進路との適合性 —

調査対象者は、平成 21 年度専攻科修了生であるため、平成 27 年度が始まった時点で修了して 6 年経った人たちである。回答のあった 16 人のうち全員が就業(93.8%)しているか、大学院に在学中(6.3%)である。その業種を見ると、情報通信業(40.0%)が最も多く、製造業(26.7%)がそれに次ぎ、その他として、運輸業・警察職員・研究開発・自動車開発・ソフトウェアエンジニアリング（いずれも 6.7%）となっている。修了生が進学した大学院の指導教員の所属専攻は、ユーザー感性学専攻・量子プロセス理工学専攻(以上、22.2%)・人間知

能システム工学専攻・情報電子電気工学専攻・情報科学専攻・物質創成科学専攻（以上、11.1%）となっている。このことから、ほとんどの修了生は、修了してすぐ、あるいは専攻科での所属専攻と同系統の大学院に進学して後に、専門性が活かされている職業に就いていることが分かる。

（２）学習・教育到達目標の社会的要求度 — 目標設定の適切さ —

（１）学習・教育到達目標の社会的要求度についての全般的傾向

専攻科修了生の学習・教育目標の設定の適切さについての評価は、全ての項目について「必ず必要である」と「どちらかという必要」の合計（以下、「肯定意見」という）の割合が3分の2を越えている。大学院の指導教員の評価は「F-2 スポーツやグループワークを通して協力・連携の意識を育み、社会性・協調性・チームワーク力を身につける」だけが肯定意見が33.3%と低い以外は肯定意見がどれも8割近いので、全般的に修了生よりも肯定意見の割合が高い。肯定意見が3分の2を越えている。このことから、学習・教育到達目標については概ね社会的要求度が高い、すなわち目標設定は適切だと評価されているということができよう。

（２）「(D) 電子・情報系技術の一分野において専門技術に関する知識・能力」に関する目標の社会的要求度評価

修了生の社会的要求度評価の中で比較的评价が低かったのが、「D-2 人の行動・感性を工学に生かす技術を身につける」と「D-3 与えられた課題について、問題解決の過程を通じてデザイン能力を身につける」という目標で肯定意見はいずれも66.6%に止まった。大学院の指導教員の評価は、それぞれ77.8%と88.9%と8割前後の評価はある。職場によっては、「人の行動や感性を生かす技術」や「デザイン能力」は必要とされないのかもしれない。

（３）「(F) 人類への貢献意識を持ち、広い視野と倫理観を持った技術姿勢」に関する目標の社会的要求度評価

「D-2」や「D-3」の目標と同様に、修了生の社会的要求度評価の中で比較的评价が低かったのが、「F-2 スポーツやグループワークを通して協力・連携の意識を育み、社会性・協調性・チームワーク力を身につける」の目標で、肯定意見は66.6%に止まっている。大学院の指導教員の社会的要求度評価の中では、「F-2」だけが極端に肯定意見が少なく33.3%しかなかった。「F-2」について大学院の指導教員の肯定意見の割合が低いのは、大学院での勉学においては、「スポーツやグループワーク」を通さなくてもその他の方法で社会性・協調性・チームワーク力が身につくと判断されたのか、院生の個別の勉学が主で社会性・協調性・チームワーク力はあまり必要ないと判断されたからではないだろうか。

（４）「(A) 日本語および英語のコミュニケーション能力」に関する目標の社会的要求度評価

英語の基礎学力についての目標について、卒業生と修了生ではどちらも肯定意見が7割を越えているが、英語によるコミュニケーション能力については両者の間に差がみられる。卒業生の肯定意見が53.7%であったのに対し、修了生は73.4%と比較的高かった。これは修了生が、卒業生よりもこの能力を必要とする仕事に従事しているからかもしれない。

（３）学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度 ― 到達度評価 ―

（１）学習・教育到達目標の(B)(C)(E)に関する目標の到達度評価

学習・教育到達目標の到達度評価のうち、「(B)コンピュータの基本的技術および工学への応用技術」や「(C)電子・情報系技術の基礎知識・能力」、「(E)創造性、チャレンジ性を発揮できる素養」については、いずれも「十分身につけさせている」と「おおむね身につけさせている」の合計（以下、「肯定意見」という）の割合が７割以上を占めている。専攻科修了生（熊本キャンパス 26 名・八代キャンパス 25 名）を採用している企業 30 社を含めた「企業アンケート（平成 24 年度）の分析結果（回答 137 社、回答率 33.5%）」（以下、「企業アンケート」という）では、修了生の持つ能力・資質のなかで、33 項目中「専門分野の知識・技術を使いこなす力」4 位、「コンピュータを使う力」及び「継続力」7 位、「探究心」9 位、「知的好奇心」12 位、「自主性」13 位となっているので、修了生や大学院の指導教員の到達度評価結果と一致する。

これらのことから、(B)(C)(E)に関する目標については、概ね達成されているといえることができる。ただし、「企業アンケート」では「創造力」については 28 位と評価が低い。学習・教育到達目標の一つの目標のなかにもいくつかの能力が併記されているので、各目標についての到達度評価が概ね良好であったとしても、個別の能力を見ていくと到達度が低いものがあるのが分かる。

（２）「(A)日本語および英語のコミュニケーション能力」に関する目標の到達度評価

「(A)日本語および英語のコミュニケーション能力」のうち日本語によるコミュニケーションの力については、「A-1 技術者として、分かりやすいきちんとした日本語での表現、技術報告書の作成、プレゼンテーションなどができる」の肯定意見の割合が、修了生は 80.0%、大学院の指導教員が 88.9%と高く、概ね達成しているといえることができる。しかし、英語によるコミュニケーションの力については、2つの目標、「A-2 英語による基本的な表現（英文読解、英作文、英会話）ができる」と「A-3 技術者としての英語のコミュニケーション能力を身につける」の肯定意見がそれぞれ修了生は 53.3%、33.3%しかない。大学院の指導教員の評価を見ても、肯定意見の割合がそれぞれ 66.6%、55.6%と他の目標の到達度と比較して少ない。「企業アンケート」では、修了生の持つ能力・資質のなかで、33 項目中「コミュニケーション能力」2 位、「日本語力」5 位と到達度評価は高かったが、「英語を読む力」31 位、「英会話力」32 位、「英語を書く力」33 位と低かった。このことから判断して、英語による基本的な表現や英語によるコミュニケーション能力の目標は、残念ながら達成しているとはいえない。

（３）「(D)電子・情報系技術の一分野において専門技術に関する知識・能力」に関する目標の到達度評価

「(D)電子・情報系技術の一分野において専門技術に関する知識・能力」のうち専門応用技術の獲得については、「D-1 通信技術・電子技術・制御技術・情報技術などの中から 1 分野の専門応用技術を身につける」の肯定意見の割合の合計が、修了生は 93.3%、大学院の指導教員も 77.8%あり、専門知識や技術に関する目標(B)(C)の到達度評価が高かったのと同様の結果が出ている。しかし、社会的要求度の評価で修了生の肯定意見の割合が比較的少な

かった「D-2」や「D-3」の目標にある「人の行動や感性を生かす技術」や「デザイン能力」については、到達度評価も肯定意見の割合が60.0%と46.6%と少ない。

「D-2」や「D-3」の目標については、大学院の指導教員の肯定意見の割合は、それぞれ77.8%と66.7%と修了生に比べて多い。「企業アンケート」では、修了生の持つ能力・資質のなかで、33項目中「問題解決の方法を考える力」は19位、「実験を企画・実行する力」は26位と低かったため、「デザイン能力」についての目標は到達度が低いのではないだろうか。「人の行動や感性を生かす技術」についての到達度評価は、修了生がやや低い、職場によってはそのような技術を使う場がなく、判断基準が難しかったからではないかと思う。

(4) 「(F)人類への貢献意識を持ち、広い視野と倫理観を持った技術姿勢」に関する目標の到達度評価

「(F)人類への貢献意識を持ち、広い視野と倫理観を持った技術姿勢」のうち「F-1 諸外国の言語を学び各国の文化、価値観などに触れるとともに、社会の成立に不可欠な諸条件の基礎的知識を習得することにより、多面的に物事を考え価値観の異なる他者との共存ができる素養を身につける」については、修了生の到達度評価の肯定意見の割合が40.0%と低かった。この異文化理解の到達度評価が低いのは、「諸外国の言語を学び」という文言がある(A)の英語力と密接に結びついており、その評価の低さと相関関係があるように思われる。

「F-2 スポーツやグループワークを通して協力・連携の意識を育み、社会性・協調性・チームワーク力を身につける」についても、修了生の到達度評価の肯定意見の割合が33.3%と低くなっている。この2つの目標に対する大学の指導教員の肯定意見の割合は、どちらも55.6%と低く、修了生と同じ傾向を示している。卒業生を対象とするアンケートでも異文化理解に関連する目標(4-2)については、到達度評価の肯定意見の割合が35.4%と2番目に低く、社会性(人間力)に関連する目標(4-3)についても54.0%と高くはなかった。これらのことから、異文化理解と社会性については、専攻科だけの問題というよりも本科から継続する教育プログラムの問題と考えられる。

一方、「企業アンケート」では、修了生の持つ能力・資質のなかで、33項目中「協調性」が1位と最も高く、「コミュニケーション能力」が2位、「社会性」は3位と高い評価を受けているので、修了生・大学院の指導教員と企業の方の評価が大きく食い違っている。「F-2」の目標には社会性・協調性・チームワーク力といくつかの指標が混在しているので、個別に到達度を評価する必要があると思われる。

「F-3 技術が人類社会に及ぼす影響、技術開発が人類社会に与える倫理的な問題について理解する」の倫理観についての到達度評価は、肯定意見の割合が修了生は73.4%と多いのに対し、大学院の指導教員は22.8%と最も評価が低かった。「企業アンケート」でも「倫理的問題について理解・指摘する力」は33項目中23位と低い評価を受けている。修了生の評価と大学院の指導教員や企業の方の評価が大きく異なっている原因を究明することは難しいが、客観的には修了生は倫理的な問題まで考えるに至っていない、と判断されている。企業倫理やコンプライアンスが近年社会の注目するところとなっているので、どのように倫理観を涵養していくか、教育課程を検討する必要があると思われる。

(4) 修了生の優れている点・劣っている点・本校への提言（自由記述）

(1) 修了生の優れている点について

熊本キャンパスの専攻科修了生の優れている点を問う設問には、修了生からは16人中11人の回答があった。専門的知識や技術を身につけているものが多く、大学生のレベルと同じかそれ以上であるとする回答があった。また、それが「どの職場でも応用できる」という実践的教育をあげる意見があった。それと関連して、就職して即戦力や問題解決能力、プレゼン能力を上げる回答があった。その他、7年間の在学期間を通じて自分の興味のある活動を継続でき、人脈を形成できるという回答があった。

大学院の指導教員からは10人中8人の回答があったが、修了生と同じように専門的知識や技術についての意見がみられ、即戦力や基盤的能力の高さ、実験教育の充実、実験スキルなどが優れた点としてあげられている。これらの意見は、修了生や大学院の指導教員の選択的評価で専門的知識や技術の到達度評価が高かったことと符合する。

その他、大学院の指導教員の回答には、修了生の真面目さや継続性、積極性、主体性など性行の面を評価する意見があった。

(2) 修了生の劣っている点について

熊本キャンパスの専攻科修了生の劣っている点を問う設問には、修了生からは16人中12人からの回答があった。最も多かった回答は、英語力の不足であった。また、専門的知識の応用力の不足を指摘する意見があった。その他、積極性やコミュニケーション能力、さまざまな社会性の欠如など、性行の面で劣っている点を上げる回答があった。

大学院の指導教員からは10人中8人の回答があったが、大学出身者と比較して修了生の英語力不足をあげる意見があった。また、英語力だけでなく、日本語の語学力やコミュニケーション能力を含めて劣っているという意見もあった。その他、思考力の浅さ、批判精神の欠如、自由な発想の不足などをあげる意見があった。

(3) 本校への提言について

学校への提言については修了生からは16人中4人の回答があり、実践的教育の継続や、キャリア教育や学校説明に関する提言をいただいた。大学院の指導教員からは10人中6人の回答があり、英語の苦手意識の払拭や修了生の専攻分野の確立、適切な進学指導、大学院と本校との人事交流などについて提言があった。特に進学指導にあたっては、大学院との信頼関係を損なわないよう注意する必要がある。

5. 総括 ― まとめと課題 ―

(1) まとめ

以上の分析結果をまとめると、次のようになる。

まず、選択式評価から分かることは、

(1) 教育目的と進路との適合性について

修了後6年経った就業状況を見ると、ほとんどの修了生が専攻科の教育目的で意図している職業を続けていることから、教育目的と進路は適合しているといえる。

(2) 学習・教育到達目標の社会的要求度について

専攻科の掲げる学習・教育到達目標は、ほとんどの目標において社会的要求度が高いと評価されていることから、目標設定は概ね適切であると考えられる。ただし、大学院の指導教員は「F-2 スポーツやグループワークを通して協力・連携の意識を育み、社会性・協調性・チームワーク力を身につける」という目標について、社会的要求度は低いと考えており、修了生の評価もほかの目標に比べ低かった。また、「D-3」の目標にあげてあるデザイン能力については、修了生の評価は比較的低かった。

(3) 英語によるコミュニケーション能力の社会的要求度について

英語によるコミュニケーション能力は、卒業生よりも修了生の方が必要度を高く評価している。

(4) 学習・教育到達目標の(B) (C) (E)に関する目標の到達度について

主に専門的知識や技術の修得に関わる学習・教育到達目標(B) (C) (E)については、概ね到達度評価が高く、目標は概ね達成されていると考えられる。

(5) 「(A) 日本語および英語のコミュニケーション能力」に関する目標の到達度について

英語による基本的な表現や英語によるコミュニケーション能力の目標は、評価者にかかわらず到達度評価が低く、残念ながら達成しているとはいいがたい。

(6) 「(D) 電子・情報系技術の一分野において専門技術に関する知識・能力」に関する目標の到達度について

「人の行動や感性を生かす技術」や「デザイン能力」について、修了生は主観的には身につけていないと考えている人が多く、「企業アンケート」の結果もそれを支持している。

(7) 「(F) 人類への貢献意識を持ち、広い視野と倫理観を持った技術姿勢」に関する目標の到達度について

異文化理解に関する目標については、評価者にかかわらず、到達度評価が低く、達成されているとはいいがたい。また、社会性・協調性・チームワーク力に関する目標についての到達度評価は、修了生・大学院の指導教員は低く、企業の方の評価と大きく食い違っている。さらに、倫理観に関する目標の到達度評価についても、高いとする修了生と低いと考える大学院の指導教員・企業の方と大きく異なる。

ということである。

自由記述から分かることは、

(8) 専門的知識や技術の修得について

専門的知識や技術の修得については、評価者にかかわらず高く評価されており、実践的教育性や実験的教育および即戦力や問題解決能力の点で評価されている。

(9) 英語力の不足について

評価者にかかわらず英語力の不足をあげる意見が多かった。

(10) 修了生の性行について

大学院の指導教員は、修了生の真面目さや継続性、積極性、主体性など性行について、優れている点として評価している。反対に、修了生の中には積極性やさまざまな社会性の点で劣っている点としてあげるものがいた。両者ともにコミュニケーション能力が劣っているとする意見があった。

(2) 今後の課題

選択式評価や自由記述の内容から、総じて本校の学習・教育到達目標で掲げているものは社会的要求度が高く、おおむね到達度評価が高かった。専門的知識や技術の修得については、その高さとともに実践的教育や実験を重視した教育が、就職してからの即戦力や問題解決力につながっていると評価されている。したがって、本科で修得した基礎知識や技術をさらにも発展させた高度な専門的知識や技術をもつ実践的な技術者を養成するという専攻科の基本的な方針は堅持していくべきだと思われる。

しかし、今日、産業構造のグローバル化に伴い、これに対応できるグローバルエンジニアが求められている。専門的知識や技術の修得においては、修了生は一定の評価を得ているが、英語力や異文化理解の能力においては劣っていると考えられている。特に修了生自身が英語によるコミュニケーション能力が要求されていることを認識しつつ、その実力が伴っていないことを痛感していることがうかがわれる。

また、社会性・協調性・チームワーク力・倫理観・積極性などの指標において、評価者によって大きく評価が異なる結果となっている。学習・教育到達目標には、1つの目標にいくつかの指標が混在しており、個別の評価ではなかったもので、今回のアンケートでは大まかな評価しかできなかったと思われる。性行に関するものは、個人の性格に深く関わるものであるため評価が難しいが、学習・教育到達目標にあげている以上は、カリキュラムのなかでどのようにその能力を高め、また、その到達度をどのような指標で評価するのか、その方法を検討する必要がある。

英語力や異文化理解の能力、コミュニケーション能力、性行に関わる目標など、いずれも専攻科の2か年だけで短期間に養成できるものではない。本科での教育との連続性や継続性を考慮したカリキュラムを考える必要があり、本科と専攻科の科目の連携をより意識したカリキュラム作成が重要になると思われる。

Ⅲ 平成 21 年度専攻科（八代キャンパス）修了生・進学大学院・企業アンケート調査の分析

1. 調査方法

平成 26 年 5 月から 6 月に自己点検評価委員会より修了生の実家宛てに「熊本高等専門学校専攻科第 1 回修了生のへのアンケート御依頼状について」（保護者宛て）と「熊本高等専門学校専攻科第 1 回修了生アンケート調査への御協力をお願い」（修了生宛て）という依頼状を送付し、修了生が別居している場合は、同封した封筒で本人に依頼状を転送してもらった。進学大学院の指導教員へは、大学院事務局宛てに「熊本高等専門学校専攻科修了編入生の指導教員へのアンケート依頼状について」（事務局宛て）と「熊本高等専門学校専攻科修了生入学大学院様アンケート調査への御協力をお願い」（指導教員宛て）という依頼状を送付し、事務局より大学院の指導教員に依頼状を転送してもらった。企業の方には、「企業様アンケート調査への御協力をお願い」という依頼状を修了生から直属の上司の方に手渡してもらった。アンケートへの回答は、いずれも SurveyMonkey という外部のアンケート専門 Web サイトにアクセスして回答してもらう方法をとった。

2. 調査対象別回答率

調査対象別回収率は、以下の通りである。

- ・専攻科修了生 平成 21 年度専攻科修了生 27 人 回答者数 14 人 回答率 51.9%
- ・進学大学院の指導教員 平成 21 年度進学大学院のべ 5 校
回答者数 5 人 回答率 100.0%

回答者 5 人のうち 1 人はほとんど無回答なので、実質 4 人(80%)である。

- ・企業〔職場の上司〕 平成 21 年度就職企業のべ 21 社 回答者数 0 人 回答率 4.0%
- 企業の方の回答がなかったが、これは企業に直接依頼文を送るのではなく、修了生から直属の上司の方に手渡してもらう方法をとったことが原因と思われる。

3. 質問項目の構成

質問項目は、大別して以下の 4 つに分けられている。

- (1) フェイスシート（選択式）
- (2) 学習・教育到達目標の社会的要求度（選択式）
- (3) 学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度（選択式）
- (4) 修了生の優れている点・劣っている点・本校への提言（自由記述）

4. 調査結果の分析

(1) フェイスシート — 教育目的と進路との適合性 —

調査対象者は、平成 21 年度専攻科修了生であるため、平成 27 年度が始まった時点で修了して 6 年経った人たちである。回答のあった 14 人のうち就業しているものが 12 人(85.7%)、無職のものが 2 人(14.3%)である。その業種を見ると、製造業(35.7%)が最も多く、サービス業と建設業(それぞれ 14.3%)がそれに次ぎ、その他として、鉱業・電気・ガス・金融保険・総合建築コンサルタント・専業主婦(いずれも 7.1%)となっている。修了

生が進学した大学院の指導教員の所属専攻は、自然科学研究科(50.0%)、総合理工学府・システム情報工学研究科(それぞれ25.0%)となっている。このことから、ほとんどの修了は、修了してすぐ、あるいは専攻科での所属専攻と同系統の大学院に進学して後に、専門性が活かされている職業に就いていることが分かる。

(2) 学習・教育到達目標の社会的要求度 — 目標設定の適切さ —

(1) 学習・教育到達目標の社会的要求度についての全般的傾向

専攻科修了生の学習・教育目標の社会的要求度についての評価は、専攻科が育成する人材像に対応した全18の目標のうち6目標を除いては、「必ず必要である」と「どちらかという必要」の合計(以下、「肯定意見」という)の割合が3分の2を越えており、目標の設定についてはおおむね適切だと評価されているといえることができる。また、大学院の指導教員の肯定意見の割合は、「3-4:基礎的な実験技術を用いて、実験を企画・実行して結果の分析・評価ができる」の肯定意見の割合が75.0%であった以外は、残る全ての目標で100%であったので、目標設定は適切だと考えられているのが分かる。

(2) 「専攻科が育成する人材像」の1に関する目標の社会的要求度評価

育成する人材像のうち「1. 日本語および英語のコミュニケーション能力を有し、国際的に活躍できる技術者」に関する目標「1-1:日本語による適切な文章表現および口頭の意思伝達ができる」について、修了生の肯定意見の割合が100%であったが、「1-2:英語で書かれた技術文書の概要・要旨がつかめる」と「1-3:研究の英文概要を書くことができ、発表資料などに英語を用いることができる」という英語力の目標については、肯定意見がそれぞれ58.4%と50.0%で回答者の半数くらいは必要性をあまり感じていない。

(3) 「専攻科が育成する人材像」の2に関する目標の社会的要求度評価

育成する人材像の「2. ICTに関する基本的技術および工学への応用技術を身に付けた技術者」に関する目標「2-2:収集したデータや情報を数理的処理を用いて分析し専門工学での問題解決に繋げることができる」について、修了生の肯定意見の割合は91.6%あるのに対し、「2-1:ICT技術を活用した計測技術を使い実験データを収集することができる」というICT技術の修得と活用の目標については、肯定意見の割合は50.0%と低くなっている。

(4) 「専攻科が育成する人材像」の4に関する目標の社会的要求度評価

育成する人材像の「4. 知徳体の調和した人間性および社会性・協調性を身に付けた技術者」に関する目標「4-3:社会参加への意欲と関心をもつことができる」と「4-4:グループでの活動に参加し、他のメンバーと協調して課題に取り組むことができる」について、修了生の肯定意見の割合がどちらも91.7%と非常に高い。一方、「4-1:幅広い知識を身につけ、地球的視点から問題を捉えることができる」と「4-2:異文化を理解し、価値観の多様性を認識することができる」という地球的視点からの問題把握と異文化理解については、それぞれ66.7%と50.0%と比較的低い。

熊本キャンパスの「電子・情報技術応用工学コース」修了生は、同趣旨の英語力(「A-2」と「A-3」)及びコンピュータの基本的技術(「B-1」)については肯定意見の割合がどれも

73.4%である。また、地球的視点からの問題把握と同趣旨の人類社会に与える影響及び倫理的問題把握（「F-3」）や異文化理解（「F-1」）はそれぞれ 93.3%と 73.3%と肯定意見の割合が比較的高いが、社会性や協調性（「F-2」）は 66.7%と低くなっている。

就業している職種の違いからか、数字を見る限りでは、生産システム工学専攻の修了生は、電子・情報技術応用工学コースの修了生よりも、英語力や ICT 技術、異文化理解の能力を必要と考えておらず、社会性や協調性は必須であると考えているのが分かる。

（3）学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度 ― 到達度評価 ―

（1）「専攻科が育成する人材像」の 1 に関する目標の到達度評価

修了生の日本語によるコミュニケーション力（「1-1」）の到達度評価の「十分身につけさせている」と「おおむね身につけさせている」についての合計（以下、「肯定意見」という）の割合は 50.0%しかなく、英語の読解力（「1-2」）と英作文や英語によるコミュニケーション能力（「1-3」）にいたっては 20.0%と大変低い。このように修了生は、日本語や英語を問わずコミュニケーション能力が身につけていないと感じている。英語力の必要性についての評価の低さと到達度評価の低さは関連があるように思われる。

先に見たように、平成 24 年度の「企業アンケート」では、修了生の持つ能力・資質のなかで、33 項目中「コミュニケーション能力」2 位、「日本語力」5 位と到達度評価は高かったが、「英語を読む力」31 位、「英会話力」32 位、「英語を書く力」33 位と低かった。このことから、熊本キャンパスの修了生同様、主観的にも客観的にも英語力は身につけていないと感じられており、英語力の目標に関する到達度は低いといわざるを得ない。

（2）「専攻科が育成する人材像」の 2 に関する目標の到達度評価

修了生の ICT 技術の修得と活用の目標（「2-1」）の到達度評価は、社会的要求度と同様、肯定意見は 50.0%に留まっている。一方、収集したデータや情報の分析（「2-2」）については、社会的要求度の肯定意見が 91.6%と高かったのに対応して、80.0%と高くなっている。このことから、「2-1」の目標にある実験データを「収集する能力」よりも、収集されたデータの「分析能力」が重視されているが分かる。

（3）「専攻科が育成する人材像」の 3 に関する目標の到達度評価

育成する人材像の「3. 多分野における技術の基礎となる知識と技能、およびその分野の専門技術に関する高度な知識と能力を持ち、複眼的な視点から問題を解決し、産業技術分野への活用を实践できる技術者」に関する目標のうち「3-1：数学・自然科学の基礎知識を、専門分野の課題で活用することができる」及び「3-2：多様な専門分野の関連性を理解し、多面的に捉えることができる」、「3-3：基礎知識を活用して工学的問題を理解し、説明できる」という目標については、修了生の肯定意見の割合はいずれも 90.0%と高かった。また、大学院教員の到達度評価では肯定意見は 100.0%であり、「企業アンケート」でも 33 項目中「専門分野の知識・技術を使いこなす力」4 位と評価されていた。このことから、技術的な基礎知識と技能、及び専門的な高度な知識と能力については、目標を達成していると判断して良いのではないかと。

しかし、「3-4：基礎的な実験技術を用いて、実験を企画・実行して結果の分析・評価が

できる」という目標については、修了生の肯定意見が 60.0%とやや低い。この目標も「2-1」と同様に実験に関わるものであり、この点が共通して評価が低いことが分かる。「3-4」の目標の適切さの肯定意見は 83.4%あるので、実験技術の必要は理解しているが、自ら企画・実行する能力、すなわちデザイン能力は身につけていないと考えている修了生が 4 割いるということである。「企業アンケート」では、33 項目中「実験を企画・実行する力」は 26 位と低かったため、このことを裏付けている。これは後述のデザイン能力の到達度評価の低さと符合する結果である。

(4) 「専攻科が育成する人材像」の 4 に関する目標の到達度評価

先に見たように「育成する人材像」の「4. 知徳体の調和した人間性および社会性・協調性を身に付けた技術者」に関わる目標のうち、地球的視点からの問題把握（「4-1」）と異文化理解（「4-2」）について、修了生の社会的要求度の肯定意見の割合がそれぞれ 66.7%と 50.0%と比較的低かったが、到達度評価についてはそれぞれ 70.0%と 40.0%となっており、特に異文化理解についての到達度評価が低い。この目標の肯定意見の割合は、熊本キャンパスの修了生が 40.0%、両キャンパスの卒業生が 35.4%と低く、同様の結果を示している。

「4-3：社会参加への意欲と関心をもつことができる」という社会性や「4-4：グループでの活動に参加し、他のメンバーと協調して課題に取り組むことができる」という協調性などの社会的要求度については、修了生はいずれも肯定意見の割合が 91.7%と非常に高かったが、到達度評価について前者は肯定意見が 40.0%と低かった（後者は 70.0%）。

(5) 「専攻科が育成する人材像」の 5 に関する目標の到達度評価

育成する人材像の「5. 広い視野と技術のあり方に対する倫理観を身に付け、社会への貢献意識を持つ技術者」に関する目標のうち、「5-1：科学技術に関する倫理的問題について理解し、指摘することができる」という倫理的問題の理解と、「5-2：実務上の問題を理解し、技術的・倫理的知識を適用することができる」という実務上の問題への倫理的問題の適応について、修了生の社会的要求度の肯定意見の割合がそれぞれ 83.3%、100%と高かった。この到達度評価についてもそれぞれ肯定意見の割合が 80.0%、70.0%と概ね高い評価を受けている。しかし、「企業アンケート」では、「倫理的問題について理解・指摘する力」は 33 項目中 23 位と低い評価を受けているので、客観的には倫理観が身につけているとはみなされていない。

(6) 「専攻科が育成する人材像」の 6 に関する目標の到達度評価

育成する人材像の「6. 知的探求心を持ち、問題解決へ向けて主体的、創造的に取り組むことができる技術者」に関する目標のうち、「6-1：知的好奇心と探求心を持って、幅広い分野の課題に取り組むことができる」という知的好奇心や探究心の涵養と、「6-3：研究や学習状況を把握・記録して自主的・継続的に学習できる」という自主性や継続性の修養について、修了生の社会的要求度の肯定意見の割合がそれぞれ 100%と 90.0%と非常に高かった。この到達度評価についても肯定意見の割合がそれぞれ 80.0%と 90%と高いので、概ね達成されていると考えてよいと思われる。

「6-2：得意とする専門分野の知識、技術と情報を駆使して、社会の要求に応じた問題解

決の方法を企画、デザインすることができる」というデザイン能力については、修了生の社会的要求度の肯定意見の割合は 66.6%とやや低かった。この到達度評価についても同様に、肯定意見の割合が 60.0%とやや低い。「企業アンケート」では、33 項目中「問題解決の方法を考える力」は 19 位、「実験を企画・実行する力」は 26 位と低かったので、デザイン能力は客観的にも十分身につけているとはいえない状況であると考えてよいと思われる。

(4) 修了生の優れている点・劣っている点・本校への提言（自由記述）

(1) 修了生の優れている点について

修了生の優れている点を設問には、修了生から 14 人中 8 人の回答があった。最も多かったのは、幅広い知識が身につくという回答であった。これは、育成する人材像の 3 に関する到達度が高かったことと符合する。その他、基礎知識が免許取得に役立つという回答や社会性・意欲・実戦力・客観性・真面目さという性行に関わる回答があった。

大学院の指導教員から 5 人中 3 人からの回答があり、基礎学力や技術の修得の高さや積極性・問題解決能力・向上心・真面目さなどの性行についての意見があった。

(2) 修了生の劣っている点について

修了生の劣っている点を問う設問には、修了生から 14 人中 8 人の回答があり、英語力の不足をあげる回答が最も多かった。その他、一般教養やプレゼン能力、問題解決能力、学会発表の不足を上げる回答があった。

大学院の指導教員から 5 人中 3 人からの回答があり、修了生同様、英語力の不足（読解力、作成力、コミュニケーション能力）があげられている。その他、探究心や創造性の不足を指摘されている。

(3) 本校への提言について

学校への提言については、修了生から 14 人中 6 人の回答があり、英語力の向上や一般教養・常識の習得のほか、専門科目と基礎科目との連携強化、実習時間の確保、製図の教育、大学や企業との連携など専門教育への提言があった。その他、就職指導の生活指導のあり方についての提言をいただいた。

大学院の指導教員からは 5 人中 2 人からの回答があり、大学院への優秀な学生の推薦やこれまで通りの指導の継続を望む意見があった。

5. 総括 ― まとめと課題 ―

(1) まとめ

以上の分析結果をまとめると、次のようになる。

まず、選択式評価から分かることは、

(1) 教育目的と進路との適合性について

修了後 6 年経った就業状況を見ると、ほとんどの修了生が専攻科の教育目的で意図している職業を続けていることから、教育目的と進路は適合しているといえる。

(2) 学習・教育到達目標の社会的要求度について

専攻科の掲げる学習・教育到達目標は、一部を除いて社会的要求度は高いと評価さ

れていることから、これらについて目標設定は概ね適切であると考えられる。ただし、修了生の中には英語力や ICT 技術の修得と活用、地球的視点からの問題把握と異文化理解について、必要性を感じていない修了生が3分の1ほどいる。また、これらの目標について両キャンパスの修了生に評価の違いが見られる。

(3) 「専攻科が育成する人材像」の1に関する目標の到達度について

修了生の英語力は、主観的にも客観的にも身についていないと感じられており、英語のみならず日本語によるコミュニケーション能力も身についていないと感じている。

(4) 「専攻科が育成する人材像」の2に関する目標の到達度について

修了生の ICT 技術の修得と活用の目標(「2-1」)の到達度はそれほど高くなく、「2-1」の目標にある実験データを「収集する能力」よりも、「2-2」の目標にある収集されたデータの「分析能力」が重視されているが分かる

(5) 「専攻科が育成する人材像」の3に関する目標の到達度について

修了生は、「3-4」の目標にある実験技術の必要は理解しているが、自ら企画・実行する能力修了生が4割おり、客観的にもそのように感じられている。

(6) 「専攻科が育成する人材像」の4に関する目標の到達度について

異文化理解(「4-2」)と社会参加(「4-3」)についての到達度が低い。

(7) 「専攻科が育成する人材像」の5に関する目標の到達度について

倫理的問題の理解(「5-1」)と実務上の問題への倫理的問題の適応(「5-2」)については修了生の到達度は高いが、客観的には倫理観が高いとは見なされていない。

(8) 「専攻科が育成する人材像」の6に関する目標の到達度について

知的好奇心や探究心の涵養(「6-1」)と自主性や継続性の修養(「6-3」)については到達度が高かったが、デザイン能力の修得(「6-2」)については十分満足しているとは言えず、客観的にもそのように見なされている。

ということである。

自由記述から分かることは、

(9) 専門的知識や技術の修得について

専門的知識や技術の修得については、修了生や大学院の指導教員に高く評価されており、幅広い知識の習得および実践的教育性や実験的教育、即戦力や問題解決能力が優れた点としてあげられている。これに関連して、専門科目と基礎科目との連携強化、や実習時間の確保、製図の教育などの意見が提言としてあがっている。

(10) 英語力の不足について

修了生や大学院の指導教員ともに、英語力の不足をあげる意見が多かった。そのため、両者から英語力の向上を求める提言があった。

(11) 一般教養・常識の習得について

劣っている点として指摘されている一般教養の不足を改善すべく、一般教養・常識を高める教育を望む提言があった。

(12) 修了生の性行について

修了生の性行については、修了生や大学院の指導教員から、社会性・実戦力・客観性・真面目さ・意欲・積極性・向上心が優れていると評価する意見があった。一方で、

大学院の指導教員から探究心や創造性が乏しいという意見があった。修了生の回答の中には、問題解決能力は優れている点と劣っている点の両方にあげられていた。

(13) その他

プレゼン能力や学会発表の不足の指摘や、大学や企業との連携など専門教育への提言があった。

(2) 今後の課題

学習・教育到達目標に掲げる 18 目標のうち、3 分の 1 にあたる 6 目標について、必要度が低いと考えている修了生がいた。熊本キャンパスの「電子情報システム工学専攻」の修了生が電子・制御・情報・通信系の近接領域の職種に就くのに対し、「生産システム工学専攻」の修了生は、機械・情報・建設・生物系のそれぞれの専門性の高い職種に就くので、職種によって必要度の高い知識や技術、重視される性行に差が出てくるのかもしれない。今回のアンケートの対象者が少ないので、今後、対象者を増やし、その調査分析に基づいて目標設定の適切さについて検討を重ねる必要があると思われる。

専門的知識や技術の修得については、その実践的教育を高く評価し、その継続を望む意見がある。しかし、実験データを収集する能力や総合力としてのデザイン能力については、主観的にも客観的にも目標の到達度は低いと認識されているようである。社会的に専攻科に対して、どのレベルの実験技術やデザイン能力が求められているのか、必要であれば面接調査を含めた調査を行い、分析する必要があると思われる。

英語力の必要性を感じていない修了生が少なからずいる一方で、英語力の向上を提言する意見も多く見られる。また、地球的視点からの問題把握と異文化理解についても必要性を感じていないものの割合が多く、特に異文化理解については到達度評価も低かった。社会的に産業構造のグローバル化に対応したグローバルエンジニアが求められており、専攻科の育成する人材像に「国際的に活躍できる技術者」を掲げている以上、本校の専攻科の目指すビジョンを示して、専攻科生の意識を高めていかなければならないと思われる。

修了生は、協調性や社会性、倫理観、知的好奇心や探究心、自主性や継続性など性行についての目標は、社会的要求度は高いと評価しており、主観的には社会性を除いて到達度も高いと評価されている。一方、「企業アンケート」をみると、協調性の評価は高いが、倫理観の評価は高くない。大学院の指導教員からは、探究心や創造性の不足の指摘があっている。このように修了生の性行についての評価は、評価者の主観および対象者の個性による影響を受けるため、評価が分かれると考えられる。熊本キャンパスの「電子情報システム工学専攻」の分析のところで述べたように、学校として性行に関わる目標を達成するための科目や行事のカリキュラム上の配置、及び到達度を評価する方法を確立しておく必要がある。

以上、課題としてあがった実験技術やデザイン能力、英語力や異文化理解の能力、目標に掲げられた性行の修得には、長期間の修養を必要とするので、専攻科の短い在学期間だけの養成は困難である。結論としては、「電子情報システム工学専攻」の分析で述べたように、本科での教育との連続性や継続性を考慮したカリキュラムを考える必要があり、本科と専攻科の科目の連携をより意識したカリキュラム作成が重要になると思われる。

第 二 部

分 析 資 料

I 平成21年度
本科卒業生・編入大学・企業
アンケート資料

(1)本科卒業生のフェイスシート

Q1. 卒業学科を、次の選択肢からお選びください。

学科	割合	人数
情報通信工学科	8.2%	11
電子工学科	10.4%	14
電子制御工学科	23.1%	31
情報工学科	15.7%	21
機械電気工学科	10.4%	14
情報電子工学科	9.7%	13
土木建築工学科	9.7%	13
生物工学科	12.7%	17
合計		134
無回答		0

Q2. 現在の職業等を、次の選択肢からお答えください。

職業	割合	人数
会社員・公務員	85.8%	115
大学院生	6.0%	8
自営業	3.0%	4
無職	1.5%	2
その他（具体的に）	3.7%	5
合計		134
無回答		0

その他（具体的に）	割合	人数
専業主婦	0.7%	1
パート	1.4%	2
会社役員	0.7%	1
アルバイト	0.7%	1

Q3. 現在の業種を、次の選択肢からお答えください(複数選択可)。

業種	割合	人数
製造業	34.8%	48
鉱業	0.7%	1
情報通信業	21.0%	29
電気・ガス・水道	12.3%	17
運輸業	5.1%	7
サービス業	8.7%	12
農林・水産業	0.7%	1
建設業	3.6%	5
商業	0.7%	1
不動産業	0.0%	0
金融・保険業	0.7%	1
教育・学習支援業	2.2%	3
その他（具体的に）	9.4%	13
合計		138
無回答		5

Q4. 現在の職種を、次の選択肢からお答えください(複数選択可)。

職種	割合	人数
設計	18.6%	31
研究・開発	13.2%	22
製造・生産技術	12.0%	20
生産管理	4.8%	8
品質管理	10.2%	17
システムエンジニア	17.4%	29
セールスエンジニア	1.8%	3
営業・販売	6.0%	10
マーケティング・調査	2.4%	4
商品企画・デザイン	3.6%	6
その他（具体的に）	10.2%	17
合計		167
無回答		5

その他（具体的に）	割合	人数
学生	1.4%	2
医療	0.7%	1
専業主婦	0.7%	1
出版	0.7%	1
派遣業	0.7%	1
生命科学分野における研究	0.7%	1
流通業	0.7%	1
人材	0.7%	1
福祉	0.7%	1
公務員	0.7%	1
船舶検査機関	0.7%	1
IT、自動車	0.7%	1

その他（具体的に）	割合	人数
設備保守	1.8%	3
事務職	1.8%	3
学生	1.2%	2
医療事務	0.6%	1
専業主婦	0.6%	1
営業事務、webマーケティング	0.6%	1
運行管理	0.6%	1
発電所の補修業務	0.6%	1
アフターサービス	0.6%	1
フィールドサービス	0.6%	1
サービスエンジニア	0.6%	1
カスタマーエンジニア	0.6%	1

(2)編入大学の指導教員のフェイスシート

Q1. 回答者様の所属学部を、次の選択肢からお答えください。

所属学部	割合	人数
工学部	60.7%	17
理学部	0.0%	0
農学部	7.1%	2
経済学部	0.0%	0
その他（具体的に）	32.1%	9
合計		25
無回答		0

その他（具体的に）	割合	人数
経営情報学部	3.6%	1
情報工学部	7.1%	2
情報学群	3.6%	1
情報理工学部	3.6%	1
理工学部	3.6%	1
パルスパワー科学研究所	3.6%	1
国立研究開発法人の医学系研究所	3.6%	1
名誉教授（以前は工学部に所属）	3.6%	1

Q2. 御回答者の所属学科(学系)について、御記入ください。

所属学科	割合	人数
情報システム工学科	1	3.8%
情報電気電子工学科	1	3.8%
ビジネス情報学科	1	3.8%
機械情報工学科	1	3.8%
知能情報工学研究系	1	3.8%
電気・電子情報工学系	2	7.7%
システム情報工学系	1	3.8%
情報電気電子工学科	1	3.8%
先進理工学専攻	1	3.8%
電子情報工学科	1	3.8%
電気電子工学科	4	15.4%
数理工学	1	3.8%
応用生物科学科	1	3.8%
薬剤治療研究部	1	3.8%
建築学科	3	11.5%
リーディング大学院教育推進機構	1	3.8%
人間コミュニケーション学科	1	3.8%
パルスパワー基盤部門 （パルスパワー発生制御分野）	1	3.8%
知能情報システム学科	1	3.8%
物質生命化学科	1	3.8%
合計		26
無回答		2

Q3. 編入した本校卒業生の学科を、次の選択肢からお答えください(複数選択可)。

卒業学科	割合	人数
情報通信工学科	11.5%	3
電子工学科	26.9%	7
電子制御工学科	3.8%	1
情報工学科	23.1%	6
機械電気工学科	3.8%	1
情報電子工学科	3.8%	1
土木建築工学科	11.5%	3
生物工学科	3.8%	1
情報通信エレクトロニクス工学科	0.0%	0
制御情報システム工学科	0.0%	0
人間情報システム工学科	7.7%	2
機械知能システム工学科	0.0%	0
建築社会デザイン工学科	3.8%	1
生物化学システム工学科	0.0%	0
合計		26
無回答		5

(3)採用企業のフェイスシート

Q1. 御社の業種を、次の選択肢からお答えください(複数選択可)。

業種	割合	人数
製造業	52.9%	9
鉱業	0.0%	0
情報通信業	23.5%	4
電気・ガス・水道	5.9%	1
運輸業	0.0%	0
サービス業	11.8%	2
農林・水産業	0.0%	0
建設業	0.0%	0
商業	0.0%	0
不動産業	0.0%	0
金融・保険業	0.0%	0
教育・学習支援業	5.9%	1
その他(具体的に)	11.8%	2
合計		17
無回答		0

その他(具体的に)	割合	人数
総合科学メーカー	5.3%	1
総合ビル管理	5.3%	1

Q2. 本校卒業生が配属された職種は、どの分野ですか。次の選択肢からお答えください(複数選択可)。

職種	割合	人数
設計	19.0%	4
研究・開発	23.8%	5
製造・生産技術	23.8%	5
生産管理	0.0%	0
品質管理	14.3%	3
システムエンジニア	4.8%	1
セールスエンジニア	0.0%	0
営業・販売	0.0%	0
マーケティング・調査	0.0%	0
商品企画・デザイン	0.0%	0
その他(具体的に)	14.3%	3
合計		21
無回答		0

その他(具体的に)	割合	人数
保全・建設	4.8%	1
品質保証	4.8%	1
空港ターミナル施設の保守管理	4.8%	1

Q3. 採用された当該本校卒業生の学科を、次の選択肢からお答えください。

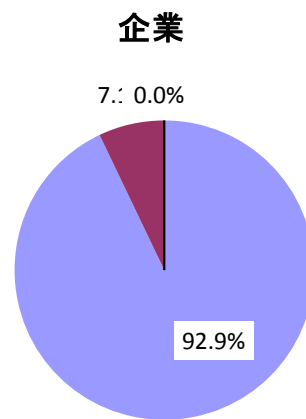
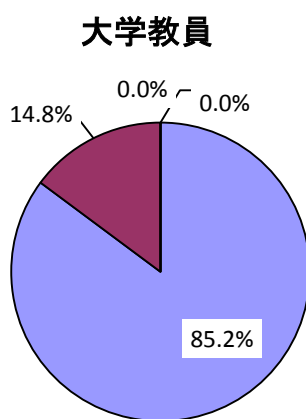
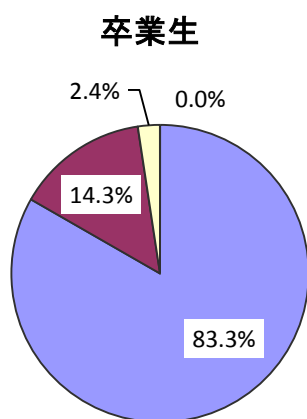
採用学科	割合	人数
情報通信工学科	17.6%	3
電子工学科	11.8%	2
電子制御工学科	11.8%	2
情報工学科	5.9%	1
機械電気工学科	11.8%	2
情報電子工学科	11.8%	2
土木建築工学科	11.8%	2
生物工学科	17.6%	3
合計		17
無回答		0

本科(準学士課程)での学習・教育到達目標の社会的要求度

(1) 日本語および英語のコミュニケーション能力を有する技術者

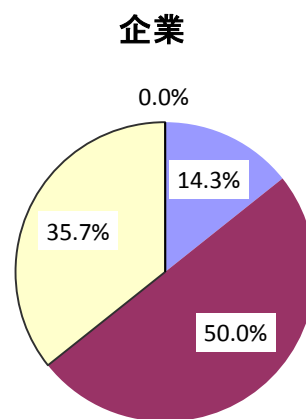
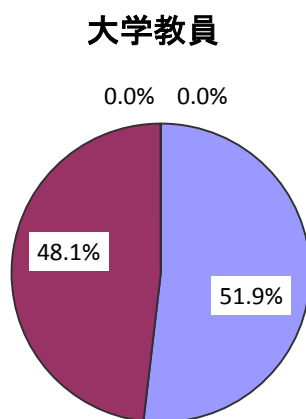
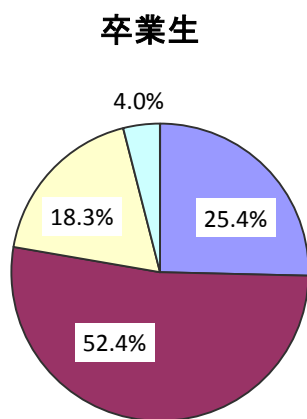
1-1: 日本語における適切な文章表現及び口頭的意思伝達ができる

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
必ず必要である	83.3%	105	85.2%	23	92.9%	13
どちらかという必要である	14.3%	18	14.8%	4	7.1%	1
あまり必要ない	2.4%	3	0.0%	0	0.0%	0
まったく必要ない	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
合計		126		27		14
無回答		8		1		3



1-2: 日常的に使用される英語で書かれた文章の概要・要旨がつかめる

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
必ず必要である	25.4%	32	51.9%	14	14.3%	2
どちらかという必要である	52.4%	66	48.1%	13	50.0%	7
あまり必要ない	18.3%	23	0.0%	0	35.7%	5
まったく必要ない	4.0%	5	0.0%	0	0.0%	0
合計		126		27		14
無回答		8		1		3

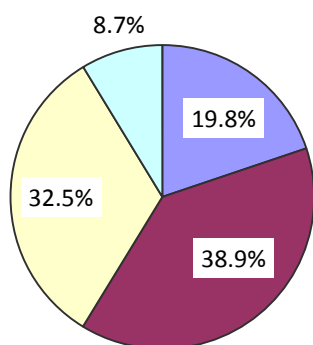


本科(準学士課程)での学習・教育到達目標の社会的要求度

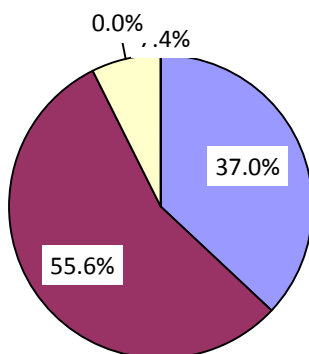
1-3 : 自分の考え方を簡単な英語で表現できる

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
必ず必要である	19.8%	25人	37.0%	10人	7.1%	1人
どちらかという必要である	38.9%	49人	55.6%	15人	42.9%	6人
あまり必要ない	32.5%	41人	7.4%	2人	35.7%	5人
まったく必要ない	8.7%	11人	0.0%	0人	14.3%	2人
合計		126人		27人		14人
無回答		8人		1人		3人

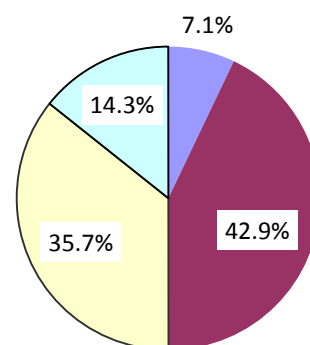
卒業生



大学教員



企業

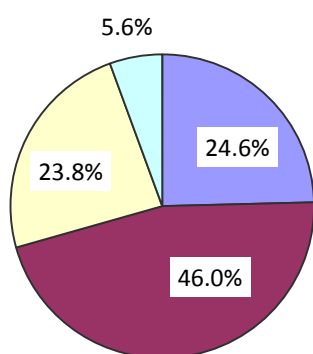


(2) ICTに関する基本的技術および工学への応用技術を身に付けた技術者

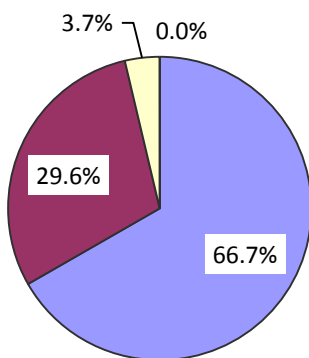
2-1 : ICT技術に関する基礎的技術を身につける

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
必ず必要である	24.6%	31人	66.7%	18人	50.0%	7人
どちらかという必要である	46.0%	58人	29.6%	8人	28.6%	4人
あまり必要ない	23.8%	30人	3.7%	1人	14.3%	2人
まったく必要ない	5.6%	7人	0.0%	0人	7.1%	1人
合計		126人		27人		14人
無回答		8人		1人		3人

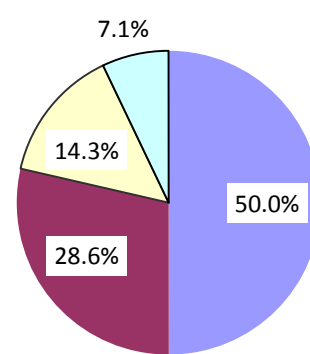
卒業生



大学教員



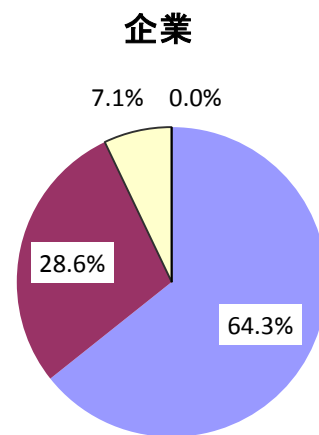
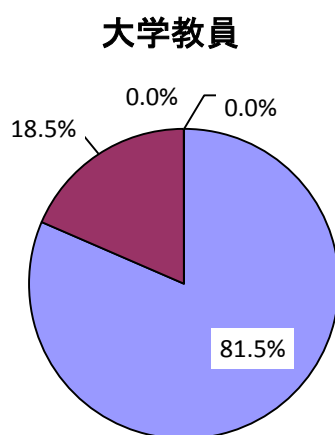
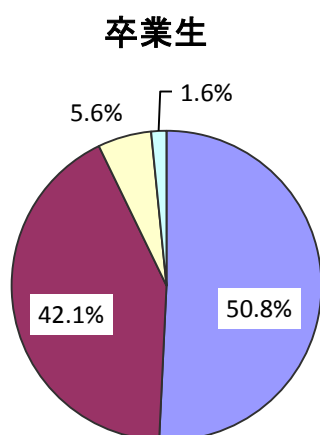
企業



本科(準学士課程)での学習・教育到達目標の社会的要求度

2-2 : 種々の情報を分析する技術を身につける

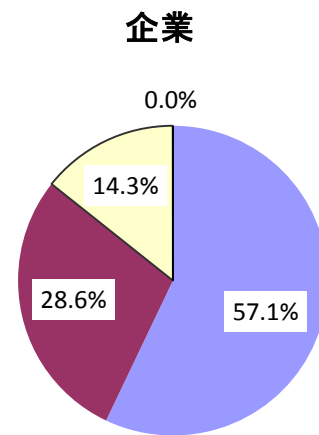
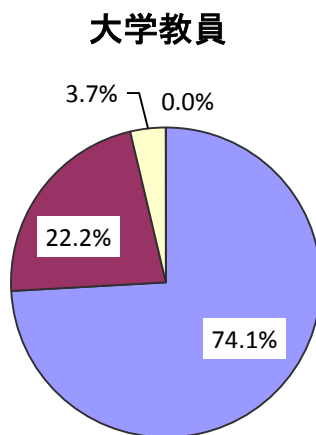
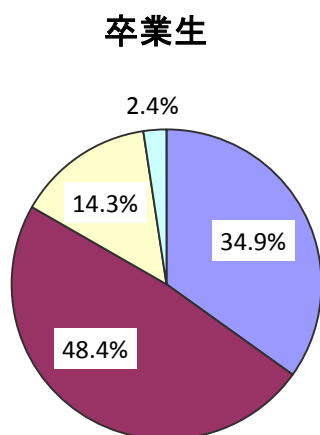
選択肢	卒業生		大学教員		企業	
必ず必要である	50.8%	64人	81.5%	22人	64.3%	9人
どちらかという必要である	42.1%	53人	18.5%	5人	28.6%	4人
あまり必要ない	5.6%	7人	0.0%	0人	7.1%	1人
まったく必要ない	1.6%	2人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		126人		27人		14人
無回答		8人		1人		3人



(3) 各分野における技術の基礎となる知識と技能およびその分野の専門技術に関する知識と能力を持ち、複眼的な視点から問題を解決する能力を持った技術者

3-1 : 工学の基礎となる数学・自然科学の基礎知識を身につける

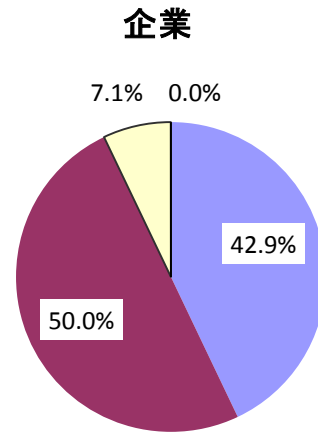
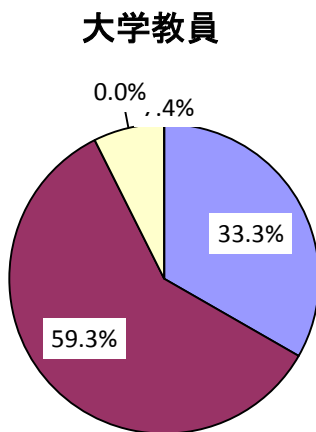
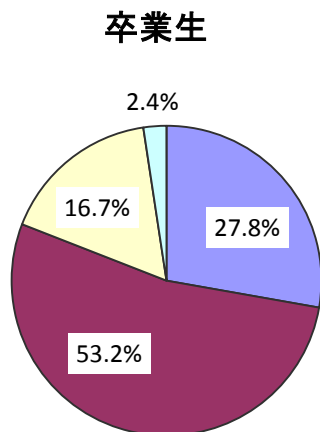
選択肢	卒業生		大学教員		企業	
必ず必要である	34.9%	44人	74.1%	20人	57.1%	8人
どちらかという必要である	48.4%	61人	22.2%	6人	28.6%	4人
あまり必要ない	14.3%	18人	3.7%	1人	14.3%	2人
まったく必要ない	2.4%	3人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		126人		27人		14人
無回答		8人		1人		3人



本科(準学士課程)での学習・教育到達目標の社会的要求度

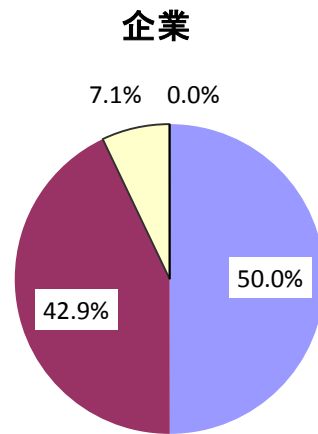
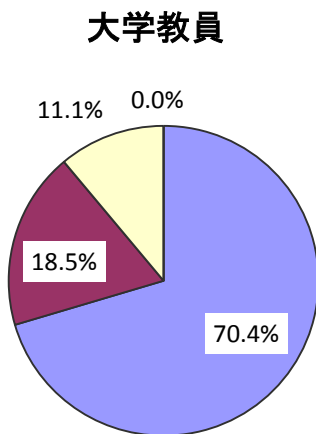
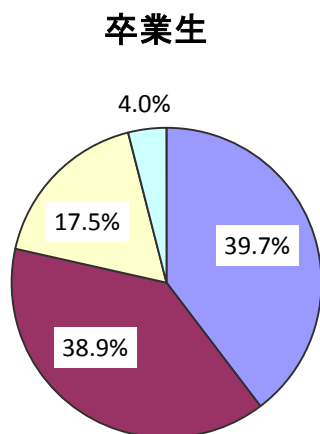
3-2 : 多様な専門分野の関連性を理解することができる

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
必ず必要である	27.8%	35人	33.3%	9人	42.9%	6人
どちらかという必要である	53.2%	67人	59.3%	16人	50.0%	7人
あまり必要ない	16.7%	21人	7.4%	2人	7.1%	1人
まったく必要ない	2.4%	3人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		126人		27人		14人
無回答		8人		1人		3人



3-3 : 基礎知識を活用して工学的問題を理解し、説明できる

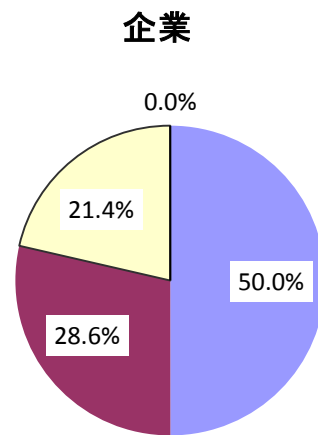
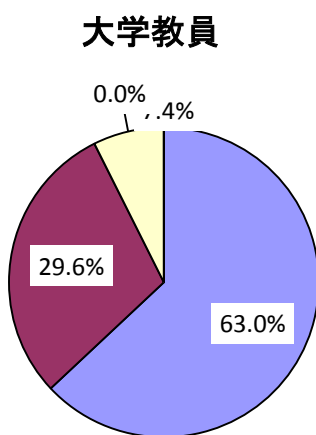
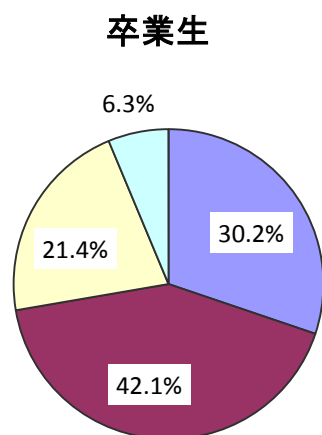
選択肢	卒業生		大学教員		企業	
必ず必要である	39.7%	50人	70.4%	19人	50.0%	7人
どちらかという必要である	38.9%	49人	18.5%	5人	42.9%	6人
あまり必要ない	17.5%	22人	11.1%	3人	7.1%	1人
まったく必要ない	4.0%	5人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		126人		27人		14人
無回答		8人		1人		3人



本科(準学士課程)での学習・教育到達目標の社会的要求度

3-4：基礎的な実験技術を身につける

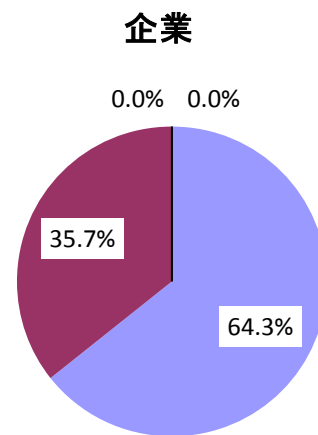
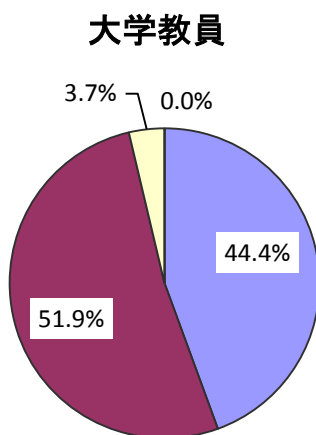
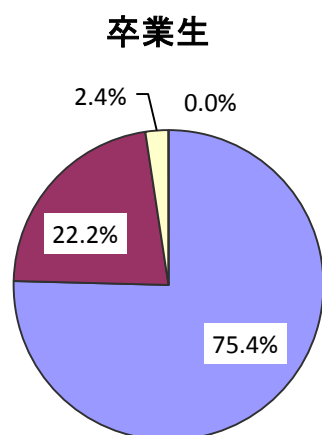
選択肢	卒業生		大学教員		企業	
必ず必要である	30.2%	38人	63.0%	17人	50.0%	7人
どちらかという必要である	42.1%	53人	29.6%	8人	28.6%	4人
あまり必要ない	21.4%	27人	7.4%	2人	21.4%	3人
まったく必要ない	6.3%	8人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		126人		27人		14人
無回答		8人		1人		3人



(4) 知徳体の調和した人間性および社会性・協調性を身に付けた技術者

4-1：広い視野で物事を考えることができる

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
必ず必要である	75.4%	95人	44.4%	12人	64.3%	9人
どちらかという必要である	22.2%	28人	51.9%	14人	35.7%	5人
あまり必要ない	2.4%	3人	3.7%	1人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		126人		27人		14人
無回答		8人		1人		3人

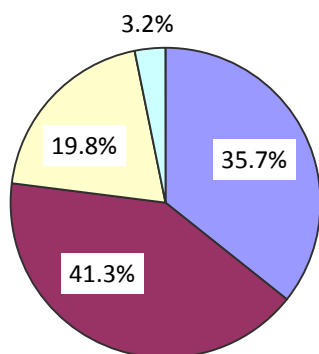


本科(準学士課程)での学習・教育到達目標の社会的要求度

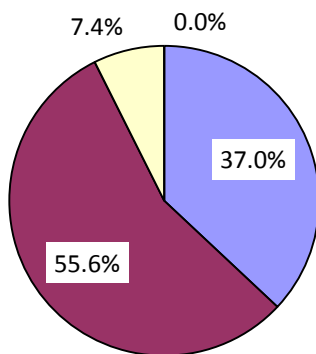
4-2 : 日本と世界との関わりに関心を持つことができる

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
必ず必要である	35.7%	45人	37.0%	10人	28.6%	4人
どちらかという必要である	41.3%	52人	55.6%	15人	57.1%	8人
あまり必要ない	19.8%	25人	7.4%	2人	14.3%	2人
まったく必要ない	3.2%	4人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		126人		27人		14人
無回答		8人		1人		3人

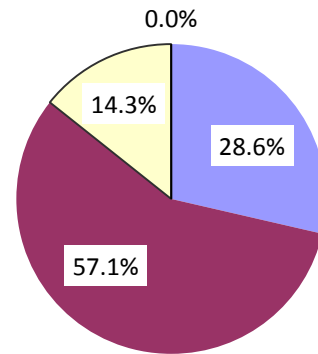
卒業生



大学教員



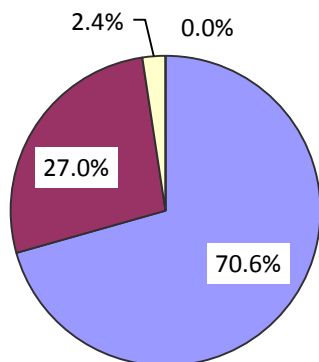
企業



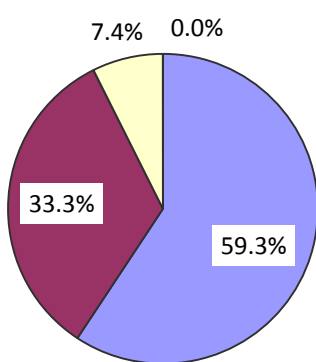
4-3 : 社会参加のための、人間的基礎力を身につける

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
必ず必要である	70.6%	89人	59.3%	16人	64.3%	9人
どちらかという必要である	27.0%	34人	33.3%	9人	21.4%	3人
あまり必要ない	2.4%	3人	7.4%	2人	14.3%	2人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		126人		27人		14人
無回答		8人		1人		3人

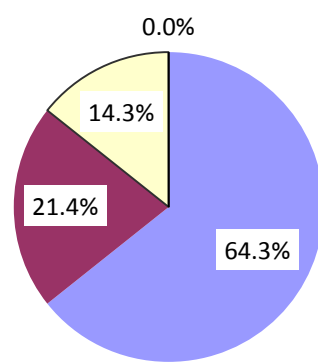
卒業生



大学教員



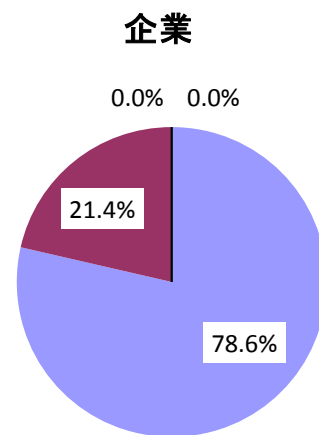
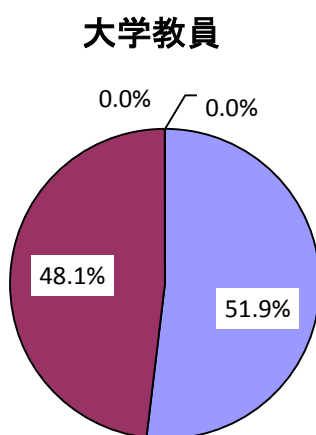
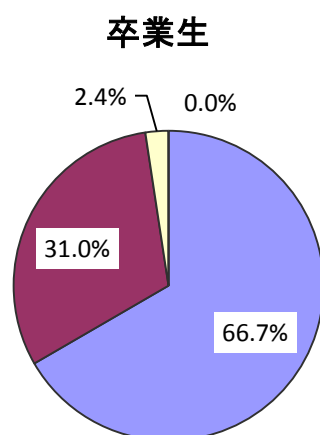
企業



本科(準学士課程)での学習・教育到達目標の社会的要求度

4-4 : グループでの活動に参加し、その中で協調して役割を果たせる

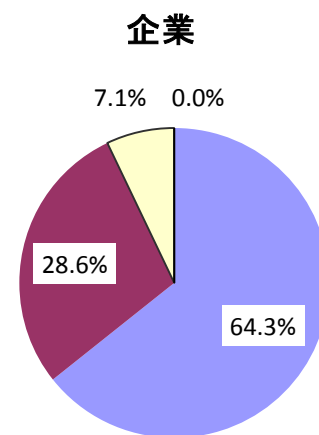
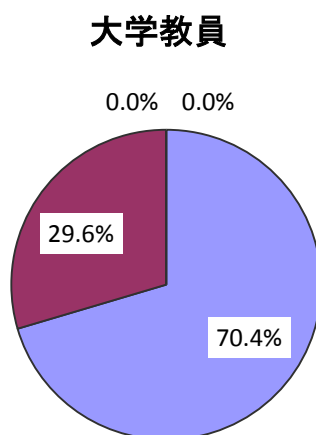
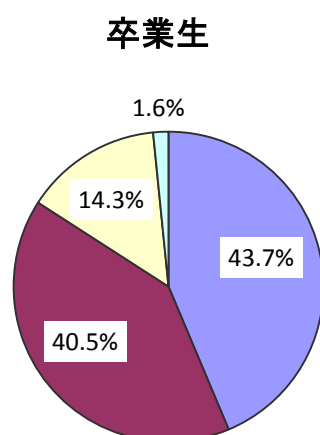
選択肢	卒業生		大学教員		企業	
必ず必要である	66.7%	84人	51.9%	14人	78.6%	11人
どちらかという必要である	31.0%	39人	48.1%	13人	21.4%	3人
あまり必要ない	2.4%	3人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		126人		27人		14人
無回答		8人		1人		3人



(5) 広い視野と技術のあり方に対する倫理観を身に付けた技術者

5-1 : 技術者が持つべき倫理観の必要性を認識できる

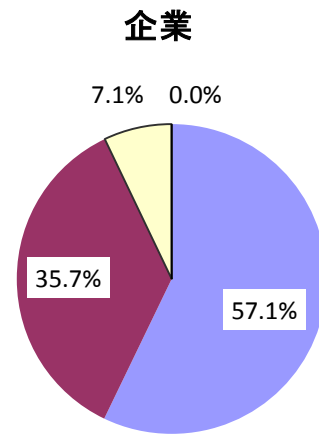
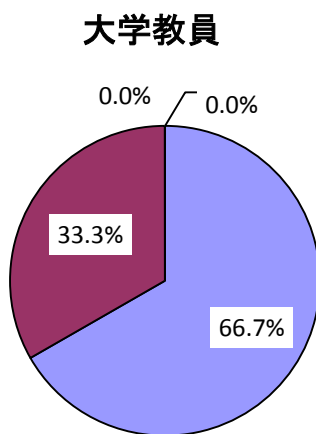
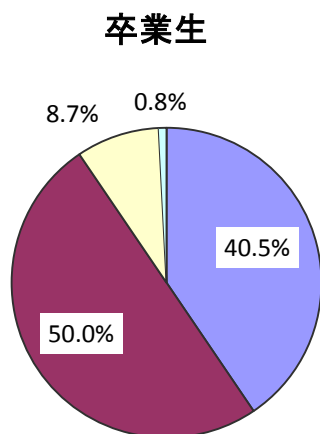
選択肢	卒業生		大学教員		企業	
必ず必要である	43.7%	55人	70.4%	19人	64.3%	9人
どちらかという必要である	40.5%	51人	29.6%	8人	28.6%	4人
あまり必要ない	14.3%	18人	0.0%	0人	7.1%	1人
まったく必要ない	1.6%	2人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		126人		27人		14人
無回答		8人		1人		3人



本科(準学士課程)での学習・教育到達目標の社会的要求度

5-2 : 社会における倫理的な問題を認識することができる

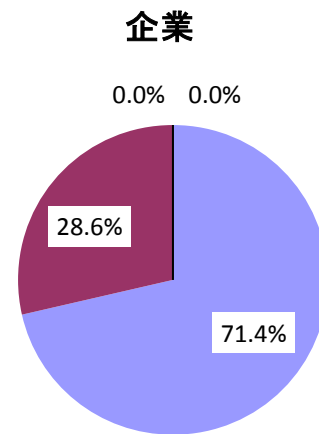
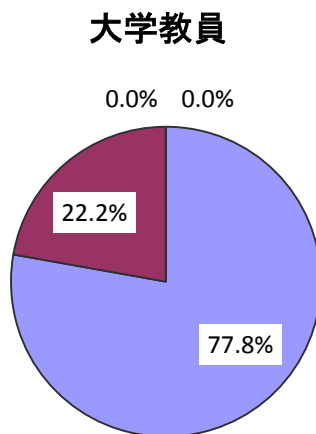
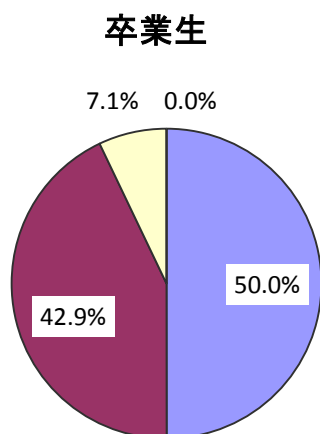
選択肢	卒業生		大学教員		企業	
必ず必要である	40.5%	51人	66.7%	18人	57.1%	8人
どちらかという必要である	50.0%	63人	33.3%	9人	35.7%	5人
あまり必要ない	8.7%	11人	0.0%	0人	7.1%	1人
まったく必要ない	0.8%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		126人		27人		14人
無回答		8人		1人		3人



(6) 知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組むことができる技術者

6-1 : 好奇心と探究心を持って、得意とする専門分野の課題に取り組むことができる

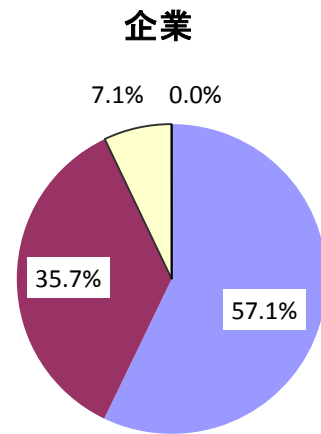
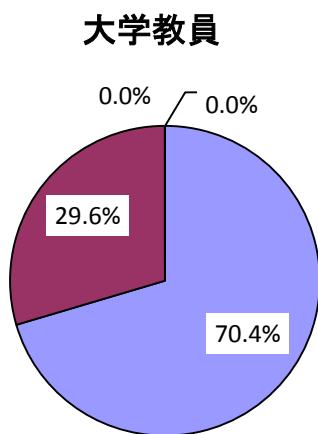
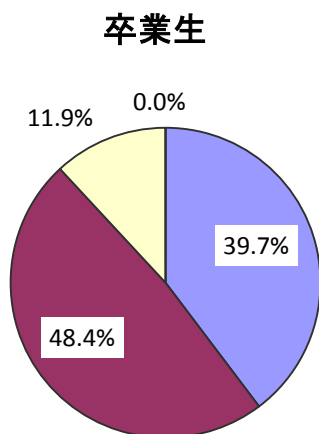
選択肢	卒業生		大学教員		企業	
必ず必要である	50.0%	63人	77.8%	21人	71.4%	10人
どちらかという必要である	42.9%	54人	22.2%	6人	28.6%	4人
あまり必要ない	7.1%	9人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		126人		27人		14人
無回答		8人		1人		3人



本科(準学士課程)での学習・教育到達目標の社会的要求度

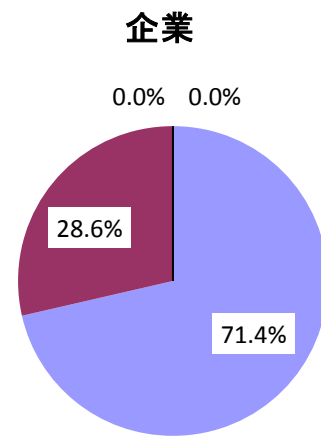
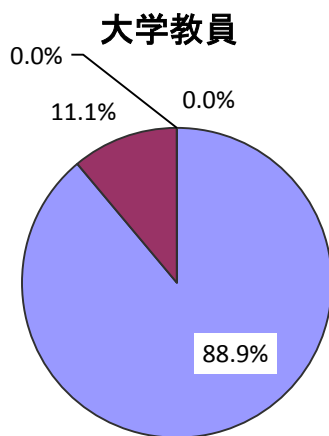
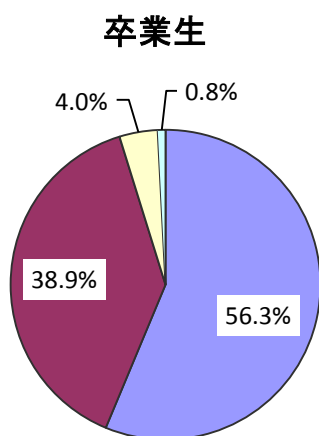
6-2 : 得意とする専門分野の知識、技術を身につけ、社会との関連を理解できる

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
必ず必要である	39.7%	50人	70.4%	19人	57.1%	8人
どちらかという必要である	48.4%	61人	29.6%	8人	35.7%	5人
あまり必要ない	11.9%	15人	0.0%	0人	7.1%	1人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		126人		27人		14人
無回答		8人		1人		3人



6-3 : 主体的に継続的に学習できる

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
必ず必要である	56.3%	71人	88.9%	24人	71.4%	10人
どちらかという必要である	38.9%	49人	11.1%	3人	28.6%	4人
あまり必要ない	4.0%	5人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.8%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		126人		27人		14人
無回答		8人		1人		3人



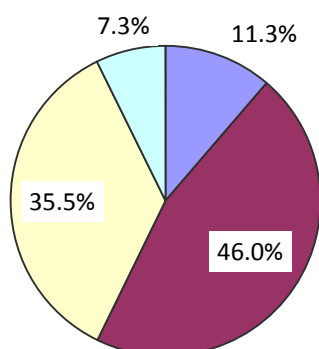
本科(準学士課程)での学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度

(1) 日本語および英語のコミュニケーション能力を有する技術者

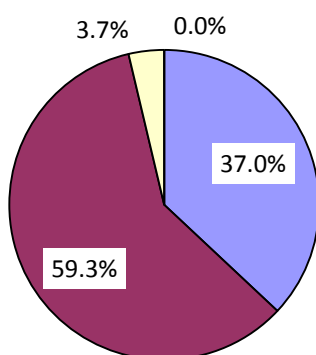
1-1: 日本語における適切な文章表現及び口頭的意思伝達ができる

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
十分に身につけさせている	11.3%	14人	37.0%	10人	38.5%	5人
おおむね身につけさせている	46.0%	57人	59.3%	16人	53.8%	7人
あまり身につけさせていない	35.5%	44人	3.7%	1人	7.7%	1人
全く身につけさせていない	7.3%	9人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		124人		27人		13人
無回答		10人		1人		4人

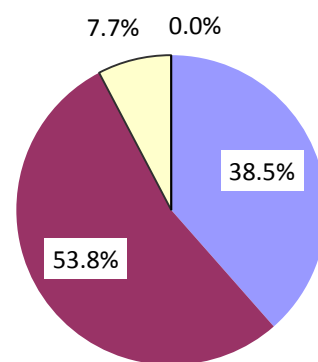
卒業生



大学教員



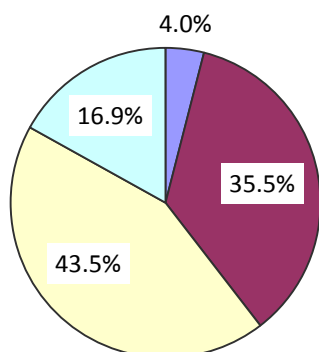
企業



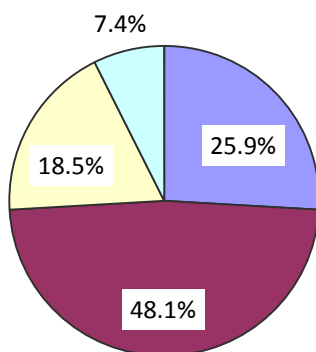
1-2: 日常的に使用される英語で書かれた文章の概要・要旨がつかめる

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
十分に身につけさせている	4.0%	5人	25.9%	7人	15.4%	2人
おおむね身につけさせている	35.5%	44人	48.1%	13人	46.2%	6人
あまり身につけさせていない	43.5%	54人	18.5%	5人	30.8%	4人
全く身につけさせていない	16.9%	21人	7.4%	2人	7.7%	1人
合計		124人		27人		13人
無回答		10人		1人		4人

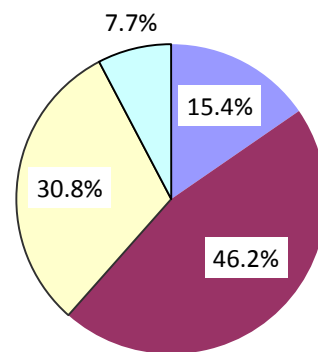
卒業生



大学教員



企業

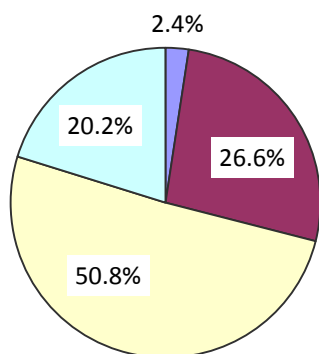


本科(準学士課程)での学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度

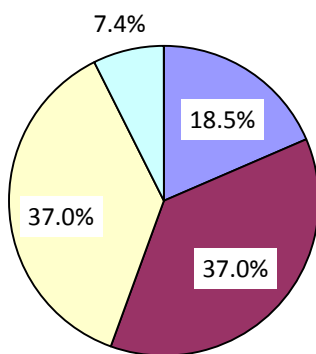
1-3 : 自分の考え方を簡単な英語で表現できる

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
十分に身につけさせている	2.4%	3人	18.5%	5人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	26.6%	33人	37.0%	10人	38.5%	5人
あまり身につけさせていない	50.8%	63人	37.0%	10人	38.5%	5人
全く身につけさせていない	20.2%	25人	7.4%	2人	23.1%	3人
合計		124人		27人		13人
無回答		10人		1人		4人

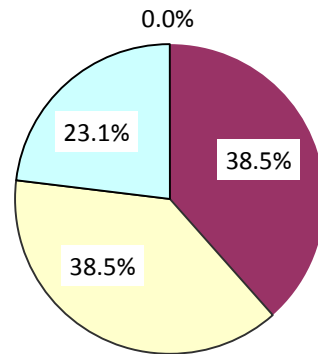
卒業生



大学教員



企業

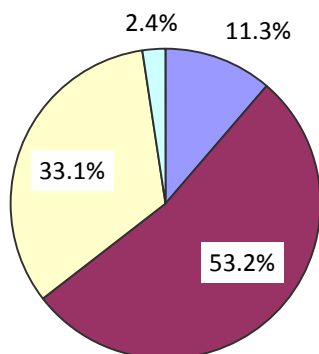


(2) ICTに関する基本的技術および工学への応用技術を身に付けた技術者

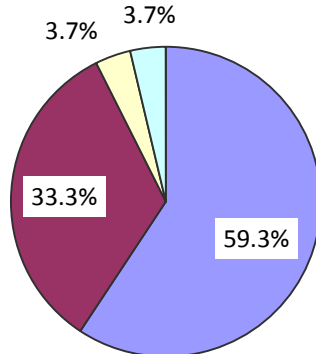
2-1 : ICT技術に関する基礎的技術を身につける

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
十分に身につけさせている	11.3%	14人	59.3%	16人	23.1%	3人
おおむね身につけさせている	53.2%	66人	33.3%	9人	61.5%	8人
あまり身につけさせていない	33.1%	41人	3.7%	1人	0.0%	0人
全く身につけさせていない	2.4%	3人	3.7%	1人	15.4%	2人
合計		124人		27人		13人
無回答		10人		1人		4人

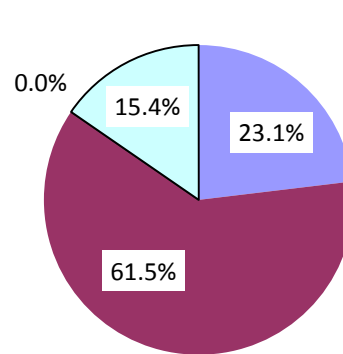
卒業生



大学教員



企業

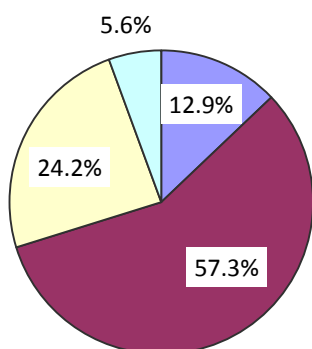


本科(準学士課程)での学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度

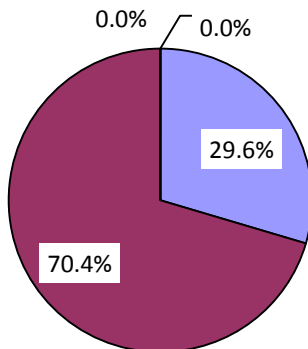
2-2 : 種々の情報を分析する技術を身につける

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
十分に身につけさせている	12.9%	16人	29.6%	8人	30.8%	4人
おおむね身につけさせている	57.3%	71人	70.4%	19人	53.8%	7人
あまり身につけさせていない	24.2%	30人	0.0%	0人	7.7%	1人
全く身につけさせていない	5.6%	7人	0.0%	0人	7.7%	1人
合計		124人		27人		13人
無回答		10人		1人		4人

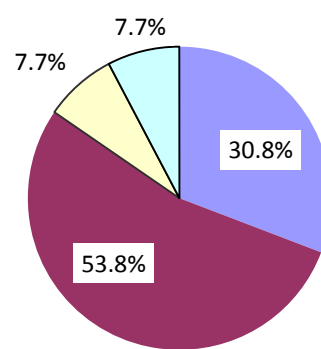
卒業生



大学教員



企業

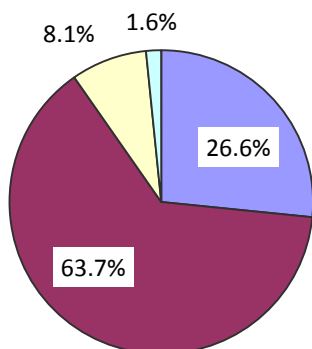


(3) 各分野における技術の基礎となる知識と技能およびその分野の専門技術に関する知識と能力を持ち、複眼的な視点から問題を解決する能力を持った技術者

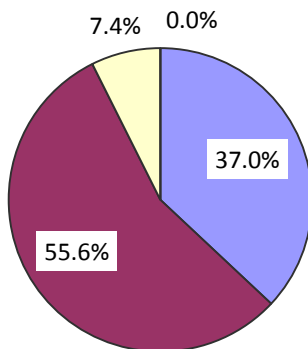
3-1 : 工学の基礎となる数学・自然科学の基礎知識を身につける

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
十分に身につけさせている	26.6%	33人	37.0%	10人	15.4%	2人
おおむね身につけさせている	63.7%	79人	55.6%	15人	61.5%	8人
あまり身につけさせていない	8.1%	10人	7.4%	2人	23.1%	3人
全く身につけさせていない	1.6%	2人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		124人		27人		13人
無回答		10人		1人		4人

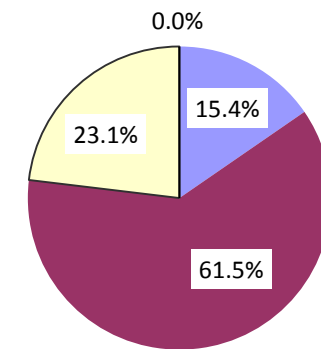
卒業生



大学教員



企業

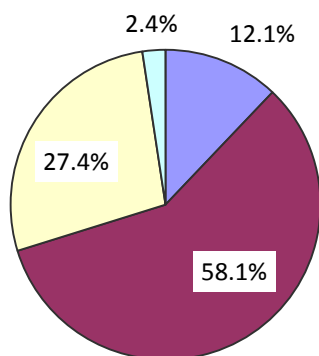


本科(準学士課程)での学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度

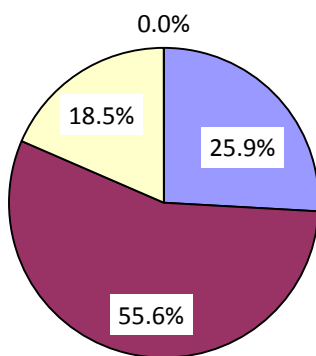
3-2 : 多様な専門分野の関連性を理解することができる

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
十分に身につけさせている	12.1%	15人	25.9%	7人	15.4%	2人
おおむね身につけさせている	58.1%	72人	55.6%	15人	69.2%	9人
あまり身につけさせていない	27.4%	34人	18.5%	5人	15.4%	2人
全く身につけさせていない	2.4%	3人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		124人		27人		13人
無回答		10人		1人		4人

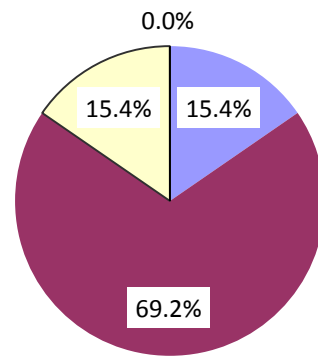
卒業生



大学教員



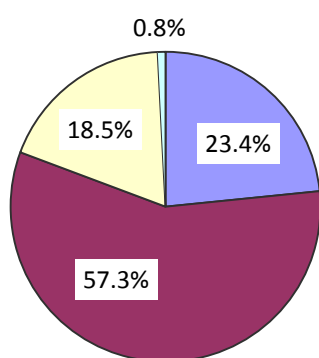
企業



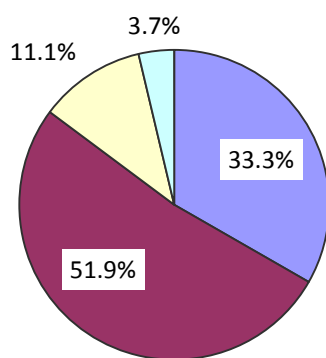
3-3 : 基礎知識を活用して工学的問題を理解し、説明できる

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
十分に身につけさせている	23.4%	29人	33.3%	9人	23.1%	3人
おおむね身につけさせている	57.3%	71人	51.9%	14人	53.8%	7人
あまり身につけさせていない	18.5%	23人	11.1%	3人	23.1%	3人
全く身につけさせていない	0.8%	1人	3.7%	1人	0.0%	0人
合計		124人		27人		13人
無回答		10人		1人		4人

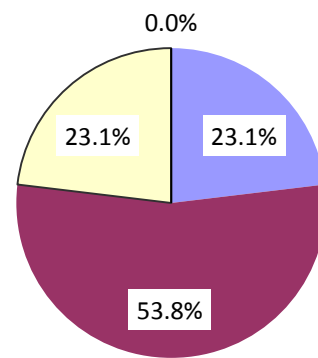
卒業生



大学教員



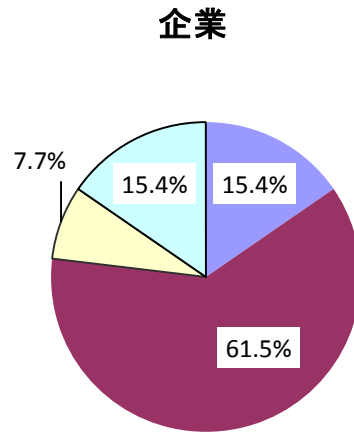
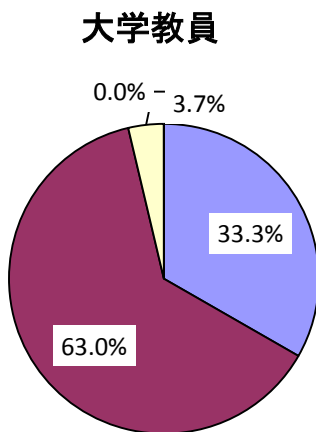
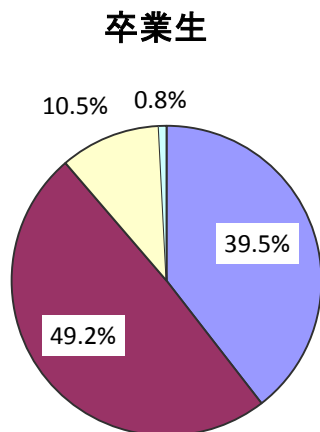
企業



本科(準学士課程)での学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度

3-4 : 基礎的な実験技術を身につける

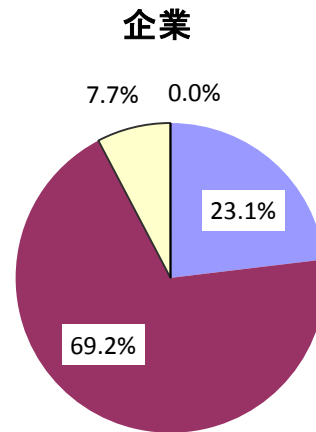
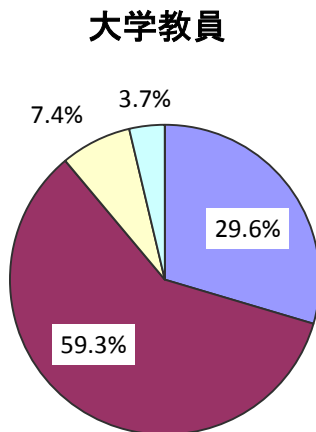
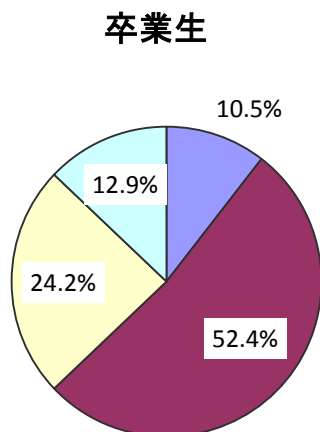
選択肢	卒業生		大学教員		企業	
十分に身につけさせている	39.5%	49人	33.3%	9人	15.4%	2人
おおむね身につけさせている	49.2%	61人	63.0%	17人	61.5%	8人
あまり身につけさせていない	10.5%	13人	3.7%	1人	7.7%	1人
全く身につけさせていない	0.8%	1人	0.0%	0人	15.4%	2人
合計		124人		27人		13人
無回答		10人		1人		4人



(4) 知徳体の調和した人間性および社会性・協調性を身に付けた技術者

4-1 : 広い視野で物事を考えることができる

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
十分に身につけさせている	10.5%	13人	29.6%	8人	23.1%	3人
おおむね身につけさせている	52.4%	65人	59.3%	16人	69.2%	9人
あまり身につけさせていない	24.2%	30人	7.4%	2人	7.7%	1人
全く身につけさせていない	12.9%	16人	3.7%	1人	0.0%	0人
合計		124人		27人		13人
無回答		10人		1人		4人

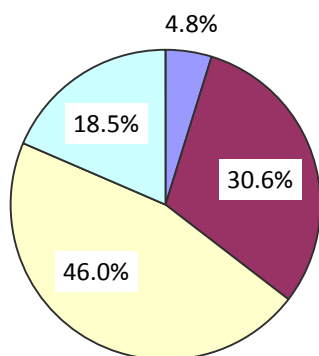


本科(準学士課程)での学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度

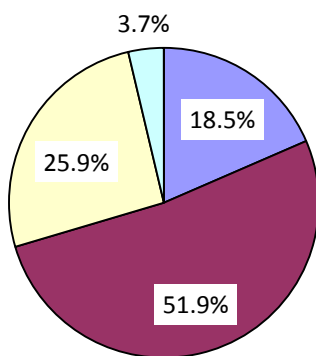
4-2 : 日本と世界との関わりに関心を持つことができる

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
十分に身につけさせている	4.8%	6人	18.5%	5人	15.4%	2人
おおむね身につけさせている	30.6%	38人	51.9%	14人	46.2%	6人
あまり身につけさせていない	46.0%	57人	25.9%	7人	23.1%	3人
全く身につけさせていない	18.5%	23人	3.7%	1人	15.4%	2人
合計		124人		27人		13人
無回答		10人		1人		4人

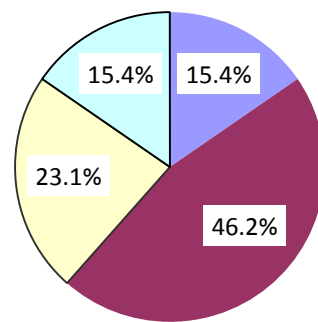
卒業生



大学教員



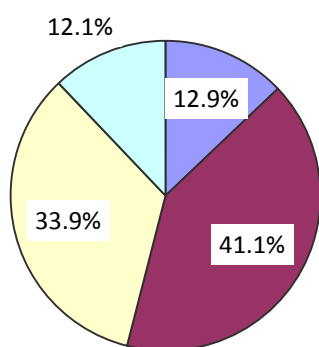
企業



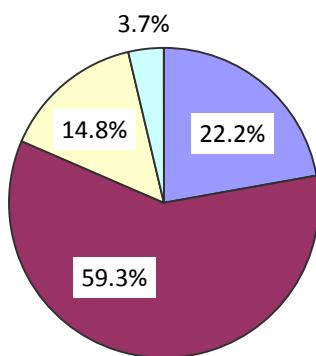
4-3 : 社会参加のための、人間的基礎力を身につける

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
十分に身につけさせている	12.9%	16人	22.2%	6人	15.4%	2人
おおむね身につけさせている	41.1%	51人	59.3%	16人	69.2%	9人
あまり身につけさせていない	33.9%	42人	14.8%	4人	15.4%	2人
全く身につけさせていない	12.1%	15人	3.7%	1人	0.0%	0人
合計		124人		27人		13人
無回答		10人		1人		4人

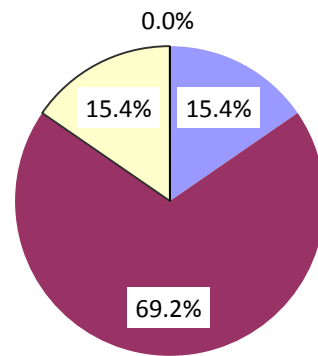
卒業生



大学教員



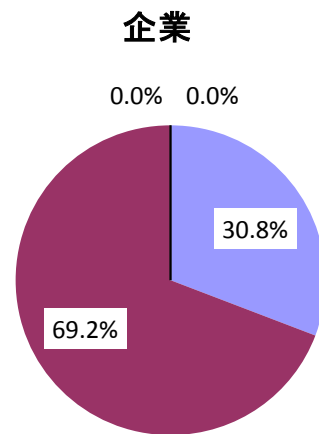
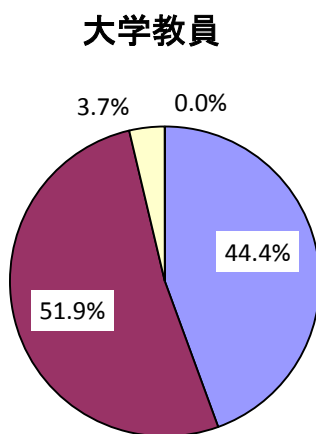
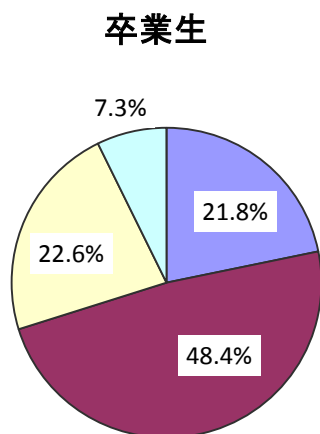
企業



本科(準学士課程)での学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度

4-4 : グループでの活動に参加し、その中で協調して役割を果たせる

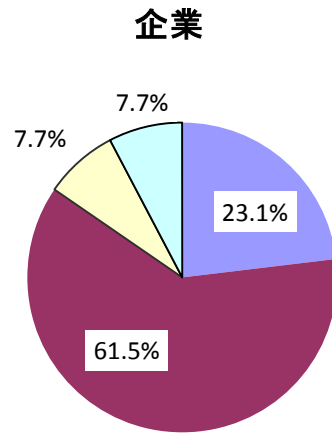
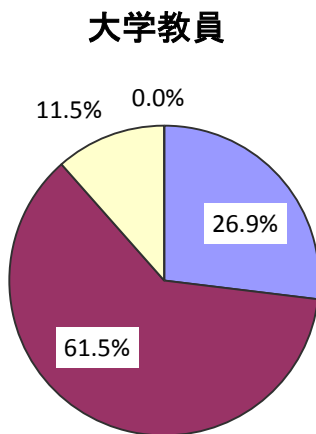
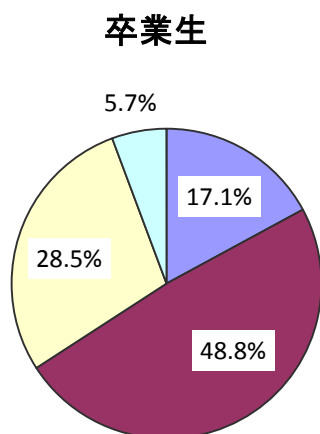
選択肢	卒業生		大学教員		企業	
十分に身につけさせている	21.8%	27人	44.4%	12人	30.8%	4人
おおむね身につけさせている	48.4%	60人	51.9%	14人	69.2%	9人
あまり身につけさせていない	22.6%	28人	3.7%	1人	0.0%	0人
全く身につけさせていない	7.3%	9人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		124人		27人		13人
無回答		10人		1人		4人



(5) 広い視野と技術のあり方に対する倫理観を身に付けた技術者

5-1 : 技術者が持つべき倫理観の必要性を認識できる

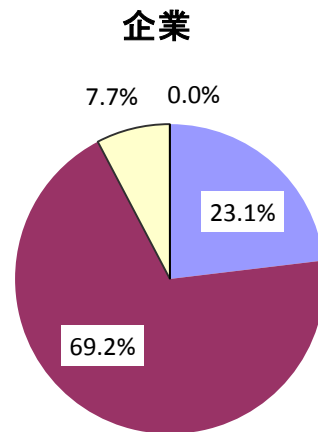
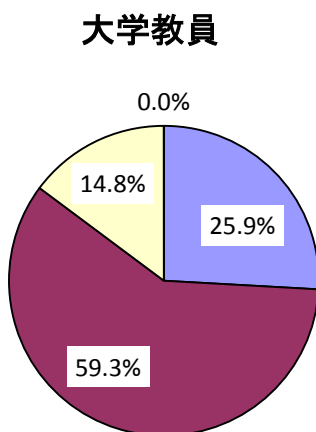
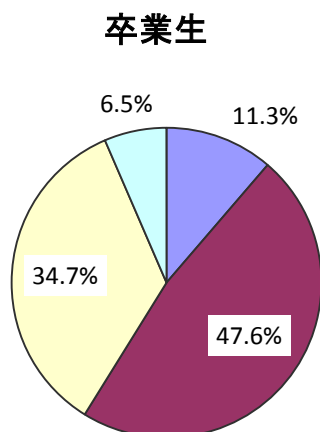
選択肢	卒業生		大学教員		企業	
十分に身につけさせている	17.1%	21人	26.9%	7人	23.1%	3人
おおむね身につけさせている	48.8%	60人	61.5%	16人	61.5%	8人
あまり身につけさせていない	28.5%	35人	11.5%	3人	7.7%	1人
全く身につけさせていない	5.7%	7人	0.0%	0人	7.7%	1人
合計		123人		26人		13人
無回答		11人		2人		4人



本科(準学士課程)での学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度

5-2 : 社会における倫理的な問題を認識することができる

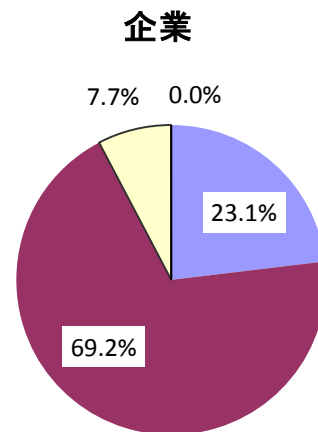
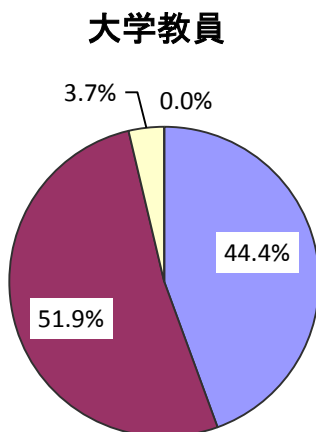
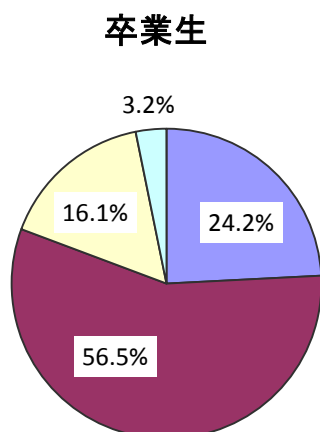
選択肢	卒業生		大学教員		企業	
十分に身につけさせている	11.3%	14人	25.9%	7人	23.1%	3人
おおむね身につけさせている	47.6%	59人	59.3%	16人	69.2%	9人
あまり身につけさせていない	34.7%	43人	14.8%	4人	7.7%	1人
全く身につけさせていない	6.5%	8人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		124人		27人		13人
無回答		10人		1人		4人



(6) 知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組むことができる技術者

6-1 : 好奇心と探究心を持って、得意とする専門分野の課題に取り組むことができる

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
十分に身につけさせている	24.2%	30人	44.4%	12人	23.1%	3人
おおむね身につけさせている	56.5%	70人	51.9%	14人	69.2%	9人
あまり身につけさせていない	16.1%	20人	3.7%	1人	7.7%	1人
全く身につけさせていない	3.2%	4人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		124人		27人		13人
無回答		10人		1人		4人

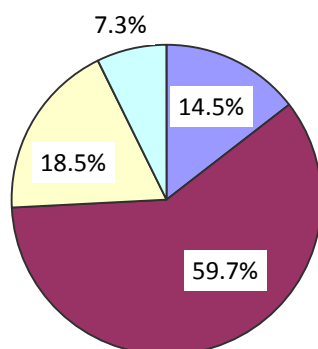


本科(準学士課程)での学習・教育到達目標に対する本校教育への満足度

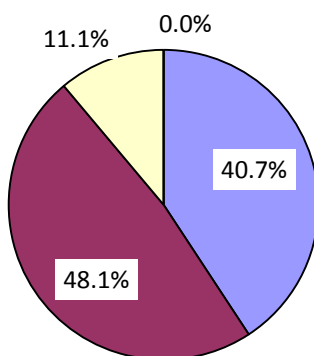
6-2 : 得意とする専門分野の知識、技術を身につけ、社会との関連を理解できる

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
十分に身につけさせている	14.5%	105人	40.7%	11人	23.1%	3人
おおむね身につけさせている	59.7%	18人	48.1%	13人	69.2%	9人
あまり身につけさせていない	18.5%	3人	11.1%	3人	0.0%	0人
全く身につけさせていない	7.3%	0人	0.0%	0人	7.7%	1人
合計		126人		27人		13人
無回答		8人		1人		4人

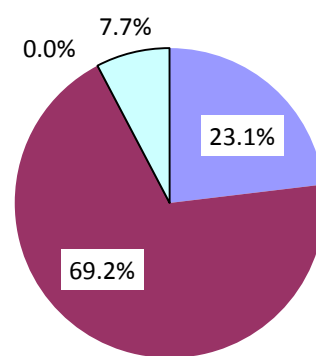
卒業生



大学教員



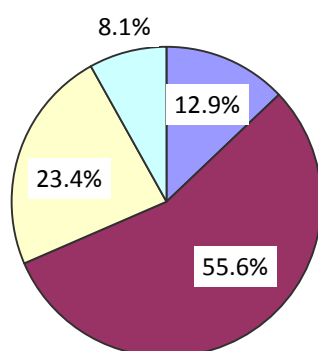
企業



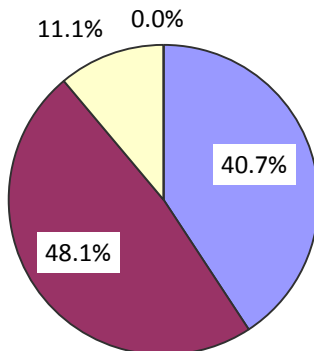
6-3 : 主体的に継続的に学習できる

選択肢	卒業生		大学教員		企業	
十分に身につけさせている	12.9%	16人	40.7%	11人	38.5%	5人
おおむね身につけさせている	55.6%	69人	48.1%	13人	46.2%	6人
あまり身につけさせていない	23.4%	29人	11.1%	3人	7.7%	1人
全く身につけさせていない	8.1%	10人	0.0%	0人	7.7%	1人
合計		124人		27人		13人
無回答		10人		1人		4人

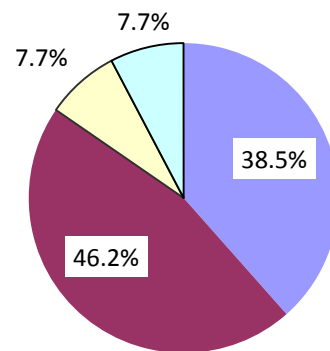
卒業生



大学教員



企業



熊本高等専門学校の卒業生の優れている点をお聞かせください。

本科卒業生

回答	80
無回答	54
合計	134

専門的知識や技術
熊本高専ではなく高専の卒業生として優れている点を挙げるとするならば、専門性をもち大学卒にも劣らないような熱心に取り組む姿勢がある
高専卒業生共通かもしれませんが、ある程度工学の基礎知識を持っていて、学科外の知識も吸収出来る余地を、大卒院卒よりも持っている点だと思います。
短大卒業生等と比較した場合、基礎能力が高く、大学生等と比較しても専門的知識、技術が高い。その上で作業単価が安価であることが多いため、高専生を使用することで高い生産性と利益を生み出すことができています。
熊本に限らず、高専生は早くから専門科目に取り組むことにより、大学生と比べ、専門用語に対するアレルギーが少ない。また、実験フローやその他知識に長けている。
大卒の人と比べても能力に相違ない
専門的な学問に対する基礎知識・素養が体得できている点である。高専在学中に学んだ専門知識をベースとして、現在の仕事で必要とする知識を獲得できるのは大きな強みだ。
実験、実習を多く経験でき、専門性が高い
工学知識の専門性の高さ
専門知識を身につける意欲
電子、情報関係の知識に関しては強い
科学的な基礎知識が高い点
専門的な知識
専門知識
多少ICTに強い
専門性が高い、情報処理能力に長けている
電氣的知識の基礎があり、設計開発業にスムーズに入れる
専門的な分野での知識や理論立てて話をすることが出来る
5年間で技術者として生きるための最低限の知識は身につく。
基礎知識

幅広い知識
専門分野における基礎知識を幅広く習得出来ている点。幅広い知識習得により、専門性を要する課題において、割と柔軟に対応出来ているように感じる。
各学科で専攻する分野について、広く浅く学ぶことで、広い視野を持った技術者を育成できている。
基礎知識自体は広く学ぶため、どのような職種についてもある程度は業務を実施できる。
幅広い分野の基礎が身に付いている。
深いわけではないが幅広く専門知識がある
広い分野で知識、技術を活かせる基礎が身につけている
専門技術に関する幅広い知識を持っていること
基礎的学力が身につけている
基礎的な能力が高いこと。課題があった場合の解決策を導き出すこと
幅広く学習するところ
知識量
広い視野

熊本高等専門学校の卒業生の優れている点をお聞かせください。

本科卒業生(続き)

技術力
技術面が優れている。
技術的な知識を有している
技術的な基礎能力
基礎的な技術
技術に強い
基礎的な技術力があるので応用が効く点だと思います。
大学生などに比べ、技術力を持っている。
情報工学に関するの技術力。
情報リテラシーやIT技術に長けている。

実践力
実践的な技術指導。企業で十分通用するレベル。
基礎知識があるので即戦力となる
高専で学んだ専門知識が直接仕事に役立つ点
仕事の内容が授業で習ったことの応用なので、理解が早い。質問を繰り返さずに済む。
在学時からレポート・論文を書く力を身に着けているため、就業し技術ドキュメントを書くことができる。

主体性・行動力
また、高専祭や部活動等、学生の自主性を尊重する風土があり、自由な感性・発想を育める環境ではないかと思う。
何事にも自分で考える能力がある
自分自身で考えて実行する。
自ら考える力がある。
行動力があり、論理的に物事を考え、対応することができる。
主体的に行動できる
専門分野以外の仕事にも対応出来る又は対応しようと努力する事が出来る
何事にも物怖じしない
やる時はやる

問題解決能力
仕事に対する成果を積極的に得ようとする姿勢があるところ。
問題解決能力は高いと思います。
ある課題に対して、それを解決する策を多角的に練ることができる。
課題認識と、その解決に向けたプロセス作成とその遂行能力
考察力や解決力に優れる。簡潔に言えば頭が良い。
幅広い考え方で、臨機応変に対応できる
論理的思考
理論的に考えることができる

優秀な人材
世界に羽ばたいたり、企業のトップにつく人が多い
一流企業にて、業務の核となる業務に従事し遂行している。
各業種で、役職などに就いている
優秀な人間が多い。プロフェッショナルが多い。人と違う感性を持っていることが多い。
熊本高専卒業生で優秀な会社の先輩がいる。会社からみた高専としての評価は高いように感じます。
勉強すれば優秀
学習能力が高い

熊本高等専門学校の卒業生の優れている点をお聞かせください。

本科卒業生(続き)

信頼性・真面目さ・責任感
他高専に比べると学力が高いイメージがあるようなので、社会に出たときに信頼してもらえることが多かった
定期的に熊本高専生が入社しているが、業務に対して真摯に取り組む人が多いと評価頂いている
高専卒業生以外の方からは真面目に仕事に取り組む姿勢を評価頂くことが多いです。
真面目に取り組む姿勢
根が真面目
自分の立場や役割に誇りと責任を持つ。
何事にも責任感をもって取り組める点

コミュニケーション力・協調性
部活動が盛ん、寮生活をしている人が多い為にコミュニケーション能力が高い人が多い 職場でも皆上手くやっているように思える
寮生活で、人とのコミュニケーション能力は高いと思う。
コミュニケーション力
自分の意見・考えをはっきりと主張できる点と集団で物事に取り組むことができる協調性。
協調性、グループワーク、リーダーシップ
仲間意識が強い
職場環境への適応力
人間力がある。

その他
いろんなものに興味をもつ姿勢
プレゼン(一部の研究室に限る)

熊本高等専門学校の卒業生の優れている点をお聞かせください。

編入大学の指導教員

回答	23
無回答	5
合計	28

基礎学力・専門的能力の習得
専門分野に関する基礎力を十分に身につけている。
基礎的学力は十分備えている。
やりたいことを明確に持っている。最低限の基礎知識はある。
普通高校から大学に進学した学生に比べ、プログラミングや理系基礎科目をしっかりと学習し、演習（本学に編入した学生個人の資質だと思いますが）
ICTに関してしっかりした知識・技術力があり、まじめに勉強に取り組む。
プログラミングは非常によくできた。
電波についての知識と技術力が高い
実験の基礎的なスキルがある。
実験に慣れており、最初の段階での実験へのバリアが低い。実験の勘の良い学生が多い。

行動力・責任感・自主性・継続性・真面目さ・積極性・探究心・協調性
行動力と責任感もあり、高く評価できる。
自主的に勉強し、研究姿勢も優れており、優秀な成績を修めている。
主体性をもって活動する点
やる気がある
真摯な態度で粘り強く物事に取り組む
私が卒研を担当した学生は他の高専出身生と比較して真面目であった。
学習や課題にまじめに取り組む姿勢。
まじめで、実験技術に優れている。
〇〇〇君は、実験を積極的に行い、リーダーシップ的な役割を果たした。
実験・実習・演習などの実践的活動に対する積極的な姿勢は高く評価できる。
工学に対する知的好奇心にあふれ、自ら課題を設定し解決を試みる探究心が非常に強い。
探究心、協調性もあり、その点は一般の学生よりも優れていた。

コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力
コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力
組織・チームの中で協力して課題に取り組むコミュニケーション能力は秀逸である。

優秀さ
本校でトップレベルの成績をおさめた優秀な学生でした。研究に向き合う姿勢、結果に対する洞察力、日常の過ごし方も素晴らしく、学会で奨励賞を受賞し、工学研究科内での修士論文の賞（電気系から1名）も受賞しています。修士卒業までに英文論文2報、和文論文1報をトップネームで発表しており、博士課程クラスの研究を行って就職していきました。今でも彼は研究室であこがれの先輩であり、彼のような後進をいかに育てるかが人材育成の課題となっています。
国費留学生のしか情報を持っていませんが、とても多くの項目で高い資質を有していると判断されます。
大変素晴らしい学生であり、学会・研究会、研究室運営等優れた成果を残した。
個人差もあるのかもしれないが、非常にしっかりと着実であり、優秀な学生である。

その他
一個人しか指導していないので特に感じなかった。

熊本高等専門学校の卒業生の優れている点をお聞かせください。

採用企業の方

回答	7
無回答	10
合計	17

専門的能力の高さ
工業系出身者である為、弊社の部署の設計開発部門では、設計(CAD図)や実験レポートの作製は、得意とするところがあります。 仕事の内容としては、マッチしています。

向上心・積極性・探究心・真面目さ・責任感・応用力・発想力
日常業務に関して、常に向上心を持って積極的に携わっていただいています。私生活面においても、全く問題ありません。
又、いろいろな探究心があり、興味をもって 与えられた仕事に 取り組んでいます。（入社後1年目をみて）
素直に頭が良いと思います。 会社で必要とされている国家試験には、全て1回で合格します。 新しい分野や、興味のある仕事に関しては呑み込みが早いです。
真摯な姿勢で業務に取り組まれています。 今までの専門とは少し異なる分野の業務に取り組んでいただいています、きちんと業務に向き合い、自分なりに考えて、データを解析できています。 業務に限らず、社会人としての考え方、態度についても学ぼうとする意志を感じます。 わからないことはどんなことでも、積極的に訊いてきてくれます。
・業務関連知識や技能、公的資格の習得に熱心に努めている。（ビル管理、エネルギー管理士の合格）
責任感を持って主体的に業務遂行する能力が優れています。
専門技術以外の仕事に対しても臨機応変に対応し、確実に業務を遂行していただいておりますので、応用力が高いと考えます。
・仕事を効率的、効果的に遂行するために、新しい考え方、アイデアにもとづき、仕事の工夫改善等が行うことが出来る。

熊本高等専門学校の卒業生の劣っている点をお聞かせください。

本科卒業生

回答	83
無回答	51
合計	134

英語力
何よりも英語教育が甘く、旧帝大卒に比べると遥かに劣る。自学も大切だが、ある程度強制的に身につけさせるのは必要、特に高校課程の3年間。
英語。センター入試程度はある程度解けるようにしないといけないと思う。
英語能力が他大学と比較して低い。
他の高専全てにも言えることかもしれないが、英語力にもっと力を入れた方がよいと思う。下手な文系より理系の方が英語は使うと思います。
英語力は強い弱点である。特に「書く」「話す」ができない。英語力は社会人になってから補填しなければならない。
バラツキは大きいですが、英語力が低いと思います。
絶対的に英語ができない。
英語力等の学力が低い
英語力がない
英語力が弱い
英語能力
英語力
英語力
英語力
英語力
英語力
英語力
英語力
英語力
英語力
英語力
英語力
英語が不得意、
英語の分野
英語
英語
英語
英語
英語力。伝えたいことを英語で表現することができない。
英語力（特に対話力）
英会話力
英会話力。

熊本高等専門学校の卒業生の劣っている点をお聞かせください。

本科卒業生(続き)

専門知識・専門技術の知識量と学習の浅さ
現在勤務している会社には、多くの高専卒が勤務している。熊本高専が特に劣っているとは感じていない。しかし、全国の高専卒に総じて言えることであるが、基礎的な知識が不足していると感じている。専門分野における基礎的な学習をより強化した授業形態が望ましいと思う。
幅広い知識を習得できているが浅い。そのため専門性が一層高い話になるとついていけない。
広く浅く、が欠点。専門性のある人との差を感じる。
技術者としてそれのみで生きていくだけの深い知識が身につかない。
広く学習するあまり、一度履修した内容においても定着し辛いように感じる。
実験の経験、技術、が少ない。
専門における知識
工作機械の操作
プログラミング出来る人がすくない
様々なコア技術の研究等へ携わっていない

一般教養・一般常識の不足
一般常識及び教養。物事の全体感を捉える能力。客観的視点で物事を考える能力。
専門知識だけでなく、色んな知識を身につけて視野を広げたほうがいいと思います
専門分野以外の知識が乏しい
専門的知識以外の一般的な教養
工学系以外の知識が乏しい。
一般教養が欠けている
大学、大学院生に比較して、年齢が低い分、見識も少ない
社会経験が少ないため社会人としての知識が乏しいこと
一般的な社会を知らない

基礎学力の不足
別に熊本高専に限った話ではありませんが、大学生と比べ、高専生は大学入試を経験していないため、基礎的な学力が劣っているように感じます。
基礎学力
学力が低い
文系の知識があまりない
大卒の方と比べると語彙力が弱いように感じる。
語彙力
国語に弱い

コミュニケーション力の不足
コミュニケーション能力に問題のある生徒が、通常の高校等に比べて多い印象がある。
コミュニケーション能力が低い。レビュー等の説明が下手。上司、先輩に相談するのが苦手。
仕事を優先しすぎて、コミュニケーション能力に偏りがあるところ。協調性がないところ。
自己解決力が高いのでコミュニケーション能力は低いと思います。
自分の意思を簡潔にわかりやすく伝える能力（個人的意見です）
コミュニケーション能力がやや劣っている。
コミュニケーション力(日本語、英語)
コミュニケーション力、社会性、人間力、プレゼン力、分析力
コミュニケーション能力が乏しい。考えが子供っぽい。
コミュニケーション能力
コミュニケーション能力
コミュニケーション
コミュニケーション力
巻き込み力が足りない。小まめな報連相ができない。

熊本高等専門学校の卒業生の劣っている点をお聞かせください。

本科卒業生(続き)

社交性・社会的適応力の不足
中学卒業から5年間同じ仲間と勉強をするので、強い絆は生まれるが、広い人脈を作れていないと思う。
人脈形成、人づきあい
人見知り。社交性に欠ける。社畜が多い。
社交性がない、
人脈形成、人づきあい
学生の頃から自学する習慣がついていなければ社会での適応に時間がかかること
社会性の適応力
社会への関心、理解
世界を見据えた広い視野をもつ者が少ない。
社会に発信していく能力。興味を持った分野で自主的に活動していく能力。

リーダーシップの不足
強調性は養われていたが、リーダーシップを全員で養えるようなことが必要に感じる。
人前で話す事ができたり、リーダーシップをもって統率したりするような人間が少ない印象。私の卒業科だけかもしれませんが…

積極性・向上心の不足
やる気がない。プライドが高く指示を素直に聞けない
積極性. 向上心
勉強意欲の低い人が多い。
自ら学ぶ姿勢

その他
国際競争力
プレゼン能力
恋愛経験に乏しい
学んでいる知識の必要性を感じにくい
キャリアを主体的に選択する能力が低い。特に高専からの就職組は学校が引いているレールに思考停止で乗っている状態の人が多い。これは対外的な就職率を異常に重要視する体質と、これまでに卒業生を送り出してきた企業と就職担当の教員との癒着にも大きく問題があると思う。

熊本高等専門学校の卒業生の劣っている点をお聞かせください。

編入大学の指導教員

回答	22
無回答	6
合計	28

英語力の不足
英語が苦手である。
英語力がやや弱い。
英語に（必要以上に）コンプレックスを持っている。

知識の不足
知識がすくない

消極性・劣等感
（本学に編入した学生個人の資質だと思いますが） 協調性はあるものの、おとなしくて消極的に見える。
内気な性格だったので、積極性がほしかった。
私が卒研を担当した学生は他の高専出身生と比較しておとなしく自己アピールなどが上手くできなかった。
内向的志向である。
特にありませんが、強いて言えば高専からの学生の中には、高校から大学入試を受けて入っていないことに対し、少なからず劣等感を感じている人もいます。その裏返しで人一倍努力をするという良い面もありますが、悪い方向に影響が出る場合もあります。今回受け入れた学生は、その点まったく問題がありませんでした。普段聞いていた、家庭（お寺）での育てられ方が良かったものと思われる。

探究心・創造性の不足
基礎事項を追求することにやや劣る
勘が良い反面、深く考えていない場合が多い。研究のフィロソフィーを構築することが苦手（実験がうまいから逆にこれが目立つだけかも）。
新たな分野を開拓する創造性が弱い

勉学姿勢の問題
一個人しか指導していないが、母校高専のイベントに参加するために卒業研究のゼミを無断欠席する、就職先のアルバイトや手伝いのため卒業研究、論文作成をなおざりにするなど、学ぶ者としての真摯な姿勢が欠けていると感じた。就職先も興行業をえらんでおり、採用した会社は「業界初、大卒新卒者採用」とアピールしていた。編入してきた本人の目的や進路指導プロセスに疑問を感じた。
勉強や研究に対する勤勉性・継続性にやや問題が見られる

プレゼンテーション能力の不足
データの取りまとめ、一日の実験結果の整理ができなかった点、プレゼン能力が、一般入試で入学した学生よりも劣っていた。

国際感覚の不足
高専としてのレベルは高いと思われるが、強いて言えば、国際的なセンスを磨くことができれば素晴らしいと思う。

先輩・後輩のつながりの希薄さ
高専での先輩・後輩との縦の繋がりが少ないように感じます。

熊本高等専門学校の卒業生の劣っている点をお聞かせください。

編入大学の指導教員(続き)

特になし
私が指導した学生は、学業以外のプライベートでも積極的に大学生生活を謳歌していて、バランスのとれた学生であったため、特に劣っている点は見受けられなかった。
欠点を探すのが難しいくらい優れた卒業生が多いと感じる。
特段劣っている点があるとは思えません。
特に気になることはなし。
特にありません。
特にありません。
とくになし

熊本高等専門学校の卒業生の劣っている点をお聞かせください。

採用企業の方

回答	7
無回答	10
合計	17

英語力の不足
これからの技術者は、やはり、カタログ、取説や論文は、海外のものを見たりし、技術や理論を吸収して会社の新製品を作り上げていかないとはいけません。その為にも 工業英語力を もっと身につけて頂きたいです。
御校の卒業生の方が劣っているのではありませんが、当社においても自由化に向け、グローバル社会への対応が必要不可欠になっています。海外への出張、勤務も重要になってきています。英語等の語学力の授業も重要であると考えております。

体調管理の悪さ
貴校の卒業生だから特に劣る…という点はありません。
体調管理が甘いかな、と少しだけ感じますが、まだ卒業して3カ月ですし、ペースを掴むだけでも大変だと思います。少しずつ、考え方を身に付けてもらえればと思います。

業務の優先度の理解不足
業務の優先度付けについてまだ改善の余地があると思いますが、経験を通して着実に向上はしていると思います。

継続力・探究心の欠如
飽きっぽい所です。常に集中していないと、気を抜く所があります。自分でここまで、と言う線引きをして、それ以上深く追求しない所があります。

特になし
特にございません。
特になし。

熊本高等専門学校への御提言がございましたら、お聞かせください。

本科卒業生

回答	39
無回答	95
合計	134

英語力
基本的な専門科目を重点的に時間をかけてマスターできることは大学や専門学校ではできない大きな強みである。これを意識したカリキュラムを組んでいただきたい。弱点としてよく言われる英語だが、高専時代に身につける英語力として必要なことを絞るべきである。大学受験に必要な文法知識やTOIECスコアについては必要な人が、必要に応じて独学でやることである。より必要なのは「実際に外国人とメールのやりとりができる」「簡単な英語表現で技術報告をする」といった実践的な英語運用能力ではないかと考えている。電気回路の難しい問題が解けなくても実験的に答えを導けるのが高専生ならば、英語の問題が解けなくても、それとなく外国人とコミュニケーションが取れるのが高専生のあるべき姿ではないか。
今後、海外での事業等も増えていくので、英語能力に関してはより力を入れていった方がよいとおもいます。
英語学習において集団討論等で対話力を身に付けることができれば、社会に出たときにより活躍できると思います。
英語はもっと本気で勉強させた方が良い
英語の授業が少なすぎる

一般教養・一般常識・社会への関心
社会に出て感じたことは、一般常識、教養といったものが大卒に比べ圧倒的に劣っているということ。個人の問題と片付けられればそこまでであるが、そこを補う教育で学生の手助けをして欲しい。
技術に強いだけでは技術職人としては生きていけますが、それだけでは幅が広がらないと思います
就職率が良いのは素晴らしい事です、大学卒業生に比べ、社会への関心が薄いと感じました。
海外や幅広い分野に興味を持てる情報提供

授業内容（化学）
化学（科学）に関係する仕事が就職先の大半を占めている気がする、微生物と半々では無く、化学にもっと重点を置いた方が社会に出て即戦力として力を発揮できるのでは。

文章作成能力
英語、日本語のどちらにおいても、実務に関する文章作成能力が身につけていないと思います。（大学卒の人もそのような教育を受けていないので別に劣っているというわけではありませんが。）

学科間相互乗り入れ
5年までの間に他の学科の授業を選択科目として取り入れるとよいと思う

熊本高等専門学校への御提言がございましたら、お聞かせください。

本科卒業生(続き)

授業方法
高専生の頃にはたくさんの先生方に大変お世話になりました。 就職してみて、今になって感じることを素直に書かせて頂きます。 ・学ぶという事が楽しくなかった。◦授業が単調で文字だらけのパワーポイント資料を延々眺めている感じ。内容や仕組みの理解が追いつかず、暗記に頼っていた。会社に入り、たまたま理解できなかった内容に触れる機会があったが、理解できたときにとっても気持ちよく、面白い！と心から思った。 この感覚を学生の時に感じていれば、今見えている景色ももっと違ったものになっていたのではないかと感じます。学生各々が努力して勉強するのは当然必要ですが、この仕組みがこうなってるんだぞ！面白いだろう。と感じさせるような授業。学ぶ事の楽しさを扉の前まで引き上げてあげるような授業があれば、今以上に優秀な高専生。優秀な技術者が生まれるのではないかと思います。口で言うのは簡単ですが、実際にやるのは相当な時間と準備。そして努力が必要だと思います。しかし、私がお世話になった先生方の人柄や生徒を思う気持ちがあれば必ず実現できると確信しています。一層優秀な熊本高専生が世にでて活躍することを願っています。文章が乱雑な箇所も多々あるかと思いますが、ご了承ください。以上となります。 授業を受けるだけになっていて、世の中の最先端の技術に興味をもって触れるという経験をしなかったのが悔やまれるので、講義内容を押しかけるだけでなく、いろいろな事に興味を持ち活動する指導をしてほしい 学んでいる知識がどのように活用されているか具体例を挙げて教えてもらえればもっと今の職業に活かせる知識の習得ができていたと思う。

研究
自分は大学院に行ってどれだけ井の中の蛙だったかと思ったので、学生をもっと色々な経験をさせるべき。インターンシップもそうだし、大学院ではどんな機器を使ってどんな研究してるのかなど。それが、本当の複眼的なものづくりにつながると思う。 研究に取り組む姿勢が仕事に取り組む姿勢に繋がると考える。研究を通じて専門性だけでなく報連相等の社会的な能力を身に付けられるようサポートをお願い致します。 学生の研究に力を入れ、主体性を持たせる事で専門分野の中で一つでも得意なものを作ってあげると良いと思います。

学習支援
私は優秀な学生ではなかったので非常に苦労しました。勉強でわからないことは友人や先生に聞くこと以外に解決策がなく、学校側から特に対応がとられていないと感じていました。自由な校風は好きでしたが、悪く言えば放任なところもあると思います。今でも印象的なのは1年次にある先生が、「卒業までには2列ぐらいはいなくなってる(留年・退学)」と言っていたことです。事実、何人かの学生はそうになってしまいました。原因の大半は学生にあると思いますが、学校側にサポートする体制が整っていないのもまた事実ではないでしょうか。卒業後活躍している友人は何人も知っています。そのような人財をより多く育てていける学校になってくれることを願っています。

主体性・創造性・協調性
良い人材はたくさんいますので、腐らせないようにレベルの高い教育と、本人の自由を尊重する学生自身の主体性を補佐するようなしくみがあったほうが良い 自主的に勉強する癖をつけさせた方が良いと思う。 各教科において、興味・関心を持つ点も学生でそれぞれ違うと思うので、得られた知識を今後と技術レベルは申し分ないと思いますが、大人数で協調する力が不足ぎみと思います。

論理的思考・問題解決能力・コミュニケーション力・プレゼン力
自分の考えを述べられることや物事を論理的に考える力を身につけられるようになってほしい。自ら問題を発見し、解決するという事に取り組んでほしい。人との関わりを大事にしてほしい。コミュニケーション能力。プレゼン能力。 今後も優秀な人材を育て続けてください。進学後、就職後に新しい物事を学び考える力のある卒業生が多いので後輩を育てるのが助かります 本校で身につけた技術力・表現力は仕事の上でも確かに活かされていると感じます。今後とも、基礎は変えずに確かな技術者を排出していただきたい。

熊本高等専門学校への御提言がございましたら、お聞かせください。

本科卒業生(続き)

就職・進学
大卒よりも高専卒の方が優遇される会社もあります。行動力がある子は社会に揉まれて強くなるので、高専卒での就職も推奨すべき。
高専卒が大卒と変わらない、比較しても勝る、ということを先生方にはもっと対外的にアピールして頂きたいです。私の会社のように、高専卒には採用枠さえない企業がまだ多数あります。将来の選択肢を増やし、高専生の価値が上昇することを望みます。
私は本課卒業後、関東の大学へ進学したが、当時大学への進学率は低かった。一方、群馬高専や茨城高専などはクラスの半分近くは大学へと進学すると友人から聞いた。結局のところ、個人の能力の問題ではなく周り(同学年、先輩)の就職率と進学率で自分の進路を決めている人が多いと感じる。しっかりと、他の高専の状況やその後の満足なども伝えた上で、線路選択をさせるべき。高専卒で就職した人は、大学に行けばよかったと後悔している人が多いイメージがある。
高専卒という学歴が、社会で生活していく上での役割が中途半端であることは、正しく伝えるべき。基本的に使える高卒という評価しか受けない。また、熊本高専の学科は幅が狭い分野の種類しかないうえに、製造業や情報通信産業が今後あまり未来が明るくないことも伝えるべき。学校でいくら高度なことを学んでも、高専卒が、それを活かす職位に達する頃には知識として抜け落ちている。良くも悪くも高専は、企業からは高等教育機関と見られておらず職業スキルを付与する機関と思われることを自覚し、必要な教育をする方が良い。専門分野でスキルを磨きたい学生はどのみち大学に進学するのですから。
就職時の自由応募を希望する学生に対して、担当教員が就職支援をしないように脅しをかけるというようなことが(少なくとも私の在学中は)起こっていたので、学生自らがよりよい環境で働けるような選択肢を与えるべきだと強く感じています。就職担当の教員の見栄とメンツだけで何百人、何千人の学生達の人生を左右させるのはもう止めて欲しいです。

地域貢献
もっと地域貢献をすべき

卒業生との交流
卒業生とのコミュニケーションを、担任に限らず学科教員で継続的に取るようにすれば、このような調査も回答しやすい。
卒業後に特に用事がないので、なにかイベント（ハッカソンとか？）があれば面白いかも
ロボコン等の活躍が聞こえてきて嬉しい限りです。たまには後輩と会える機会（企業説明会等）にも参加したいです。

その他
対世界で勝負ができるエンジニアを引き続き育成して頂ければと思います
身につけた知識を活かして色んな経験をしてください
ロボコン等の活躍が聞こえてきて嬉しい限りです。

熊本高等専門学校への御提言がございましたら、お聞かせください。

編入大学の指導教員

回答	14
無回答	14
合計	28

専門教育
引き続き身に付く知識としての実験実習のご指導をお願いします。 これまでたいへん優秀な学生が本学に来てくれました。概ね実験の手が早く勘のよい学生でした。高専が大学と同じになったら存在意義がないので、実践教育を中心にやられるのが個性だと思います。
進学への要望
助言ではなく、お願いします。 私の研究室から、熊本高専出身者で、国立大学の教授1人（50歳代）、准教授1人（40歳代）、育っています。今後とも、意欲のある優秀な学生の推薦をお願いいたします。 本学に対する編入学のニーズが社会の中で相対的に低下しているのは理解しているので、少数でも本人のいまだく将来像が本学の教育目標にあっている学生を推薦してほしい。 能力は高いと思います。もっともっと進学率を上げるべきだと思います。 もっと、本学に学生を送ってほしい。
大学編入の動機づけの問題
近年、編入生の中には大学院へ進学しないで就職する学生がでてきた。（他の高専も含む）大学編入の動機付けをしっかりと持たせて欲しい。 貴高専出身の当大学への編入学生は優秀な人材が多いので、今後も積極的に編入学先として当大学を選択して欲しい。 また、専攻科修了者の当大学大学院への進学についてもさらに積極的に検討して欲しい。
メンタリティの教育
大変優秀な学生を指導することができたことに、教員冥利に尽きております。彼に続く学生を世に送り出していただけることを願っております。 上記にも書きましたが、高専から大学に編入した学生の中には少なからず劣等感を持っています。過去に何名か指導してきましたが、高専時代に何か自信につながるものを掴んでいると、物おじしないうでいい方向に向かうように思います。また、その点で成績も重要ですが、メンタリティや研究への姿勢がより大切に思います。 このまま「やる気がある」学生を育ててほしい。
誠実性の涵養
私が担当した学生に限っての問題と思われるが、筑波大学と東京大学の大学院を同時に受験してそのことに関して説明が指導教員や学類に全くなく1月まで意図的に隠しており、1月になって『東京大学の方に進学する』という説明があり筑波大学の大学院に進学してくれるものと思い研究テーマの決定や指導を行っていた私は、かなりの不信感を感じてしまった。
その他
アンケートお疲れ様です。私の研究室には貴学卒の編入生が2名きましたが、とても優秀な学生でした。今後ともよろしくお願い致します。 特にはございません。

熊本高等専門学校への御提言がございましたら、お聞かせください。

採用企業の方

回答	6
無回答	11
合計	17

英語力の向上
上記 41. の問いにもありましたが、英語の論文などが読めるレベルに 教育して頂きたいです。又、いい人材がありましたら ご紹介してください。 宜しくお願いします。 語学力（特に英語）については、今まさに必要（事実上は必須）な能力となっています。普段から語学学習をする姿勢を身に着ける機会があれば良いかと思ひます。

その他
基本的に当社へ配属された学校生は皆よく頑張ってくれています。 今回、このようなアンケートを依頼してくださり、卒業後の学校生のフォローをされている事、大変嬉しく思ひました。 大事な卒業生ですので、立派な社会人として一人前になれるよう、指導して行きます。 当部では、優秀な人材を確保するため、人材育成の「人材」を「人財」と称し、教育体系を創っております。今後とも優秀な人材を推薦していただけますようお願いいたします。 今後も監理・企画・交渉能力の高い人材が採用試験にお越し頂けることを期待しております。 真面目な生徒さんを育成いただき、ありがとうございます。

Ⅱ 平成21年度専攻科

(熊本キャンパス)

修了生・進学大学院・企業

アンケート資料

(1)専攻科修了生のフェイスシート

Q1. 修了した専攻を、次の選択肢から選び、お答えください。

専攻	割合	人数
電子情報システム工学専攻	37.5%	6
制御情報システム工学専攻	62.5%	10
合計		16
無回答		0

Q2. 現在の職業等を、次の選択肢から選び、お答えください。

職業	割合	人数
会社員・公務員	93.8%	15
大学院生	6.3%	1
自営業	0.0%	0
無職	0.0%	0
その他（具体的に）	0.0%	0
合計		16
無回答		0

Q3. 現在の業種を、次の選択肢からお選びください(就職してる方のみ)。

業種	割合	人数
製造業	26.7%	4
鉱業	0.0%	0
情報通信業	40.0%	6
電気・ガス・水道	6.7%	1
運輸業	0.0%	0
サービス業	0.0%	0
農林・水産業	0.0%	0
建設業	0.0%	0
商業	0.0%	0
不動産業	0.0%	0
金融・保険業	0.0%	0
教育・学習支援業	0.0%	0
その他（具体的に）	26.7%	4
合計		15
無回答		1

その他（具体的に）	割合	人数
公安職？（警察職員の業種は何でしょうか…）	6.7%	1
研究開発	6.7%	1
自動車開発	6.7%	1
ソフトウェアエンジニア	6.7%	1

(2)進学大学院の指導教員のフェイスシート

Q1. 回答者様の所属研究科(学府)を、御記入ください。

所属研究科 (学府)	割合	人数
統合新領域学府	22. 2%	2
総合理工学府	22. 2%	2
生命体工学研究科	11. 1%	1
自然科学研究科	11. 1%	1
情報科学研究院	11. 1%	1
情報科学研究科	11. 1%	1
物質創成科学研究科	11. 1%	1
合計		9
無回答		1

Q2. 回答者様の所属専攻を、御記入ください。

所属専攻	割合	人数
ユーザー感性学専攻	22. 2%	2
量子プロセス理工学専攻	22. 2%	2
人間知能システム工学専攻	11. 1%	1
情報電子電気工学専攻	11. 1%	1
電気電子工学専攻	11. 1%	1
情報科学専攻	11. 1%	1
物質創成科学専攻	11. 1%	1
合計		9
無回答		1

Q3. 貴研究室に進学した本校専攻科修了生の専攻を、次の選択肢からお答えください(複数回答可)。

卒業学科	割合	人数
電子情報システム工学専攻	100. 0%	7
制御情報システム工学専攻	0. 0%	0
合計		7
無回答		3

(3)採用企業のフェイスシート

Q1. 御社の業種を、次の選択肢からお答えください(複数回答可)

業種	割合	人数
製造業	100.0%	1
鉱業	0.0%	0
情報通信業	0.0%	0
電気・ガス・水道	0.0%	0
運輸業	0.0%	0
サービス業	0.0%	0
農林・水産業	0.0%	0
建設業	0.0%	0
商業	0.0%	0
不動産業	0.0%	0
金融・保険業	0.0%	0
教育・学習支援業	0.0%	0
その他（具体的に）	0.0%	0
合計		1
無回答		0

Q2. 本校専攻科修了生(熊本キャンパス)が配属された業種は、どの分野ですか。次の選択肢からお答えください(複数回答可)。

職種	割合	人数
設計	0.0%	0
研究・開発	0.0%	0
製造・生産技術	0.0%	0
生産管理	0.0%	0
品質管理	0.0%	0
システムエンジニア	0.0%	0
セールスエンジニア	100.0%	1
営業・販売	0.0%	0
マーケティング・調査	0.0%	0
商品企画・デザイン	0.0%	0
その他（具体的に）	0.0%	0
合計		1
無回答		0

Q3. 御社が採用した当該本校専攻科修了生(熊本キャンパス)の専攻を、次の選択肢からお答えください。

採用専攻	割合	人数
電子情報システム工学専攻	100.0%	1
制御情報システム工学専攻	0.0%	0
合計		1
無回答		0

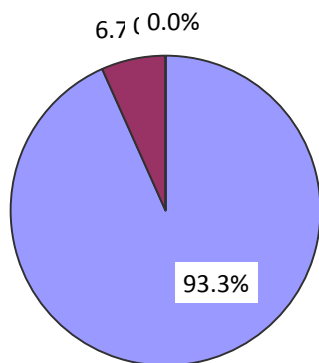
「電子情報システム工学専攻(電子・情報技術応用工学コース)」の学習・教育目標の社会的要求度

(A)日本語および英語のコミュニケーション能力

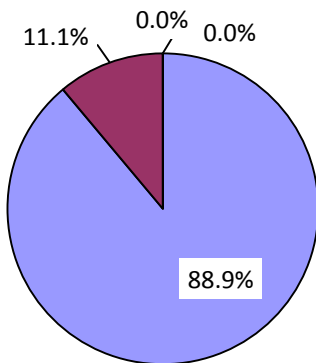
A-1 技術者として、分かりやすいきちんとした日本語での表現、技術報告書の作成、プレゼンテーションなどができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	93.3%	14人	88.9%	8人	100.0%	1人
どちらかという必要である	6.7%	1人	11.1%	1人	0.0%	0人
あまり必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

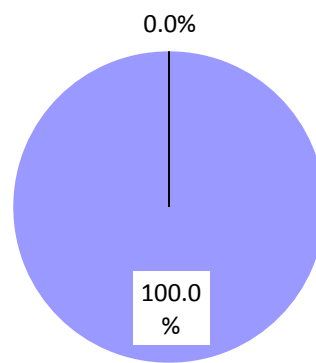
修了生



大学院教員



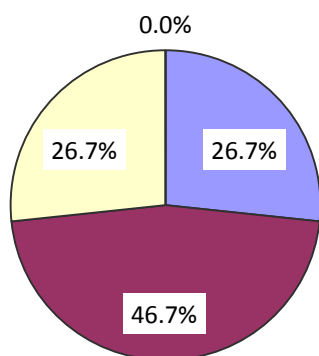
企業



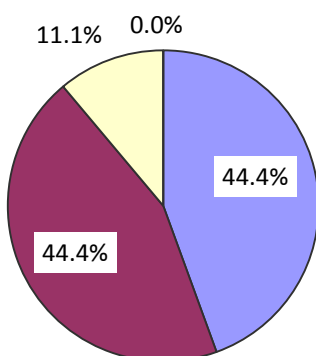
A-2 英語による基本的な表現(英文読解、英作文、英会話)ができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	26.7%	4人	44.4%	4人	100.0%	1人
どちらかという必要である	46.7%	7人	44.4%	4人	0.0%	0人
あまり必要ない	26.7%	4人	11.1%	1人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

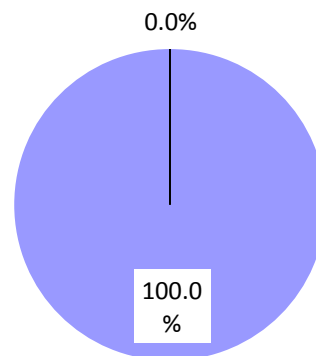
修了生



大学院教員



企業

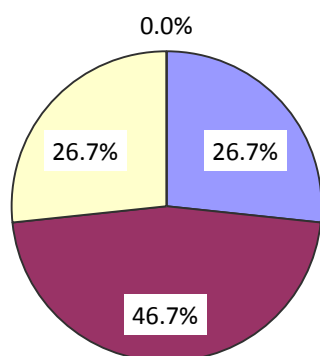


「電子情報システム工学専攻(電子・情報技術応用工学コース)」の学習・教育目標の社会的要求度

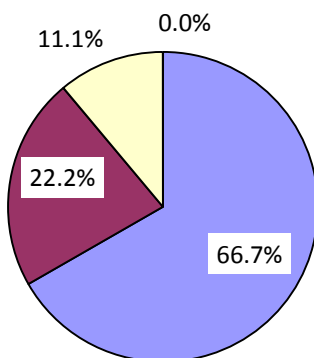
A-3 技術者としての英語のコミュニケーション能力を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	26.7%	4人	66.7%	6人	0.0%	0人
どちらかという必要である	46.7%	7人	22.2%	2人	100.0%	1人
あまり必要ない	26.7%	4人	11.1%	1人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人	100.00%	1人
無回答		1人		1人		0人

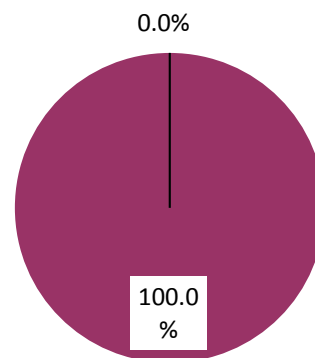
修了生



大学院教員



企業

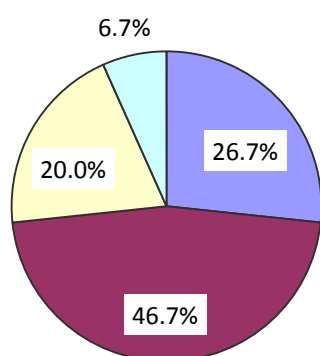


(B)コンピュータの基本的技術および工学への応用技術

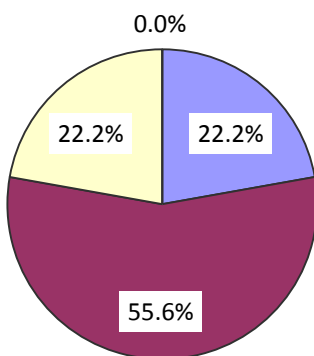
B-1 コンピュータのハードウェアに関する基本的な働きを理解し、OSやプログラミング言語に関する基礎的な処理ができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	26.7%	4人	22.2%	2人	0.0%	0人
どちらかという必要である	46.7%	7人	55.6%	5人	100.0%	1人
あまり必要ない	20.0%	3人	22.2%	2人	0.0%	0人
まったく必要ない	6.7%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人	100.00%	1人
無回答		1人		1人		0人

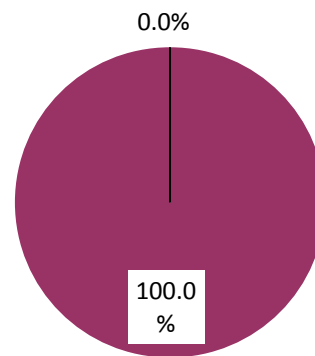
修了生



大学院教員



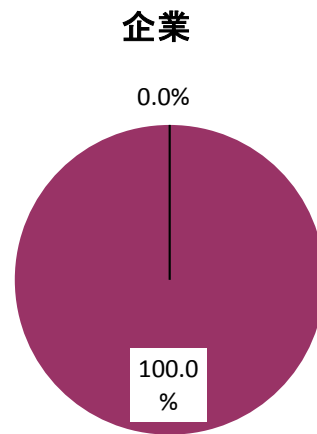
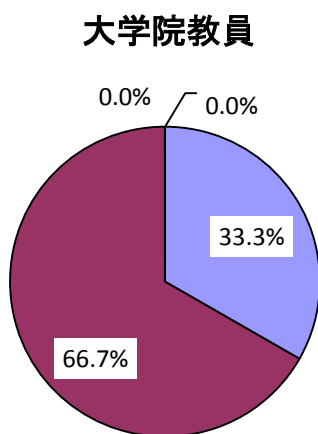
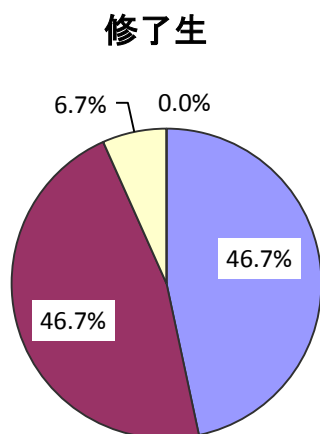
企業



「電子情報システム工学専攻(電子・情報技術応用工学コース)」の学習・教育目標の社会的要求度

B-2 工学的な課題についてコンピュータを応用して解決することができる

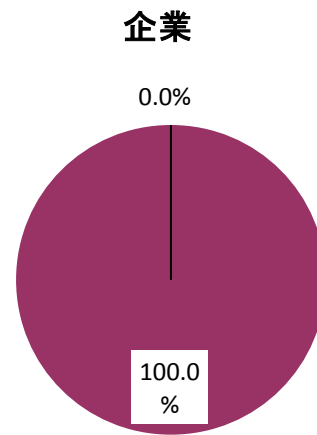
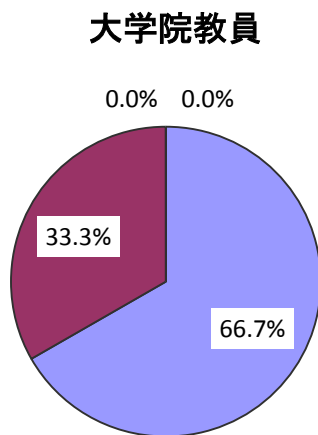
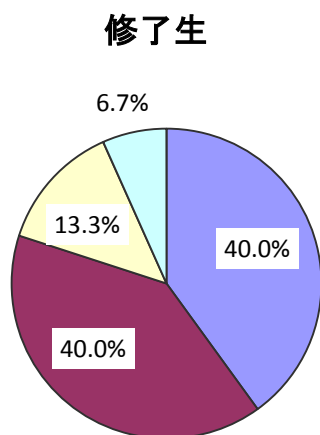
選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	46.7%	7人	33.3%	3人	0.0%	0人
どちらかという必要である	46.7%	7人	66.7%	6人	100.0%	1人
あまり必要ない	6.7%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人



(C)電子・情報系技術の基礎知識・能力

C-1 数学、物理などの基礎的な知識・能力を身につけ、それを工学の分野で利用できる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	40.0%	6人	66.7%	6人	0.0%	0人
どちらかという必要である	40.0%	6人	33.3%	3人	100.0%	1人
あまり必要ない	13.3%	2人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	6.7%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

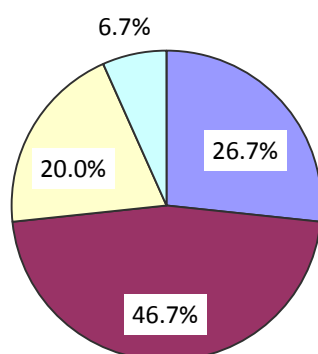


「電子情報システム工学専攻(電子・情報技術応用工学コース)」の学習・教育目標の社会的要求度

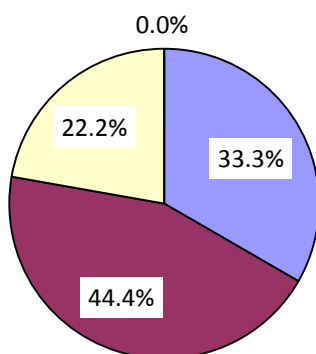
C-2 電気回路、電子回路、電気磁気学などの電子・情報系専門基礎科目の知識・能力を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	26.7%	4人	33.3%	3人	0.0%	0人
どちらかという必要である	46.7%	7人	44.4%	4人	100.0%	1人
あまり必要ない	20.0%	3人	22.2%	2人	0.0%	0人
まったく必要ない	6.7%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人	100.00%	9人		1人
無回答		1人		1人		0人

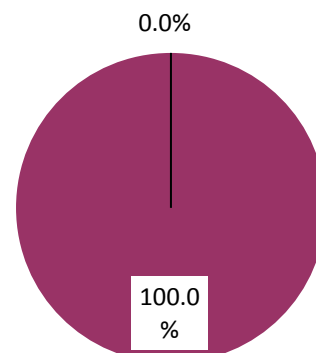
修了生



大学院教員



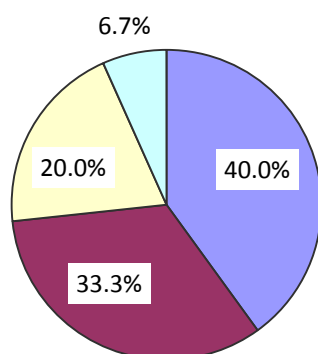
企業



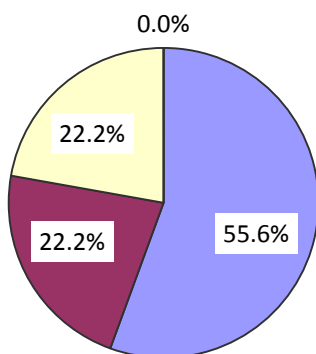
C-3 基本的な測定機器の取り扱い、実験技術を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	40.0%	6人	55.6%	5人	0.0%	0人
どちらかという必要である	33.3%	5人	22.2%	2人	100.0%	1人
あまり必要ない	20.0%	3人	22.2%	2人	0.0%	0人
まったく必要ない	6.7%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

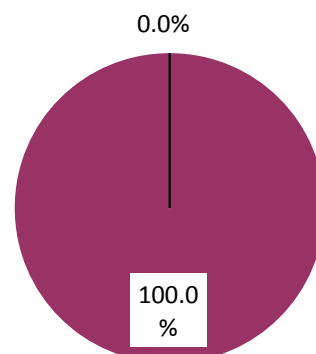
修了生



大学院教員



企業



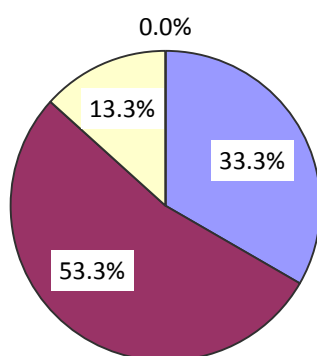
「電子情報システム工学専攻(電子・情報技術応用工学コース)」の学習・教育目標の社会的要求度

(D)電子・情報系技術の一分野において専門技術に関する知識・能力

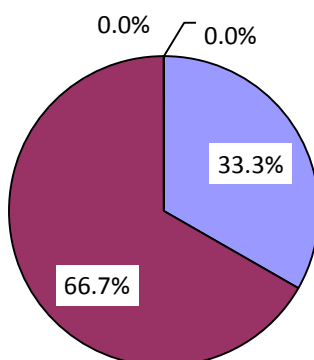
D-1 通信技術・電子技術・制御技術・情報技術などの中から1分野の専門応用技術を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	33.3%	5人	33.3%	3人	0.0%	0人
どちらかという必要である	53.3%	8人	66.7%	6人	100.0%	1人
あまり必要ない	13.3%	2人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

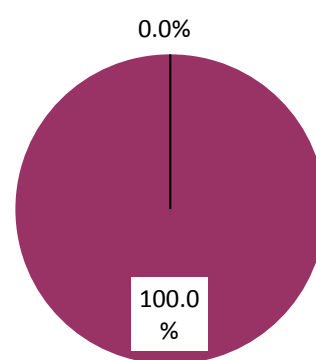
修了生



大学院教員



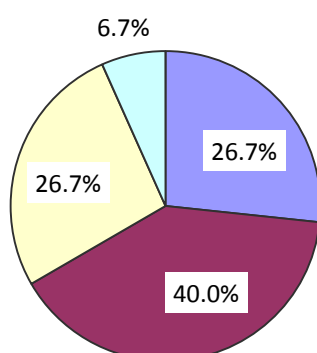
企業



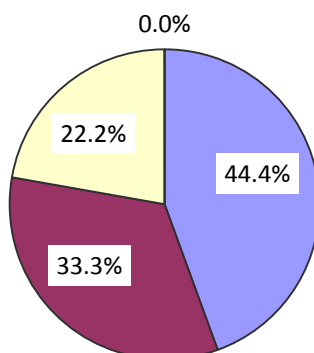
D-2 人の行動・感性を工学に生かす技術を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	26.7%	4人	44.4%	4人	0.0%	0人
どちらかという必要である	40.0%	6人	33.3%	3人	100.0%	1人
あまり必要ない	26.7%	4人	22.2%	2人	0.0%	0人
まったく必要ない	6.7%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

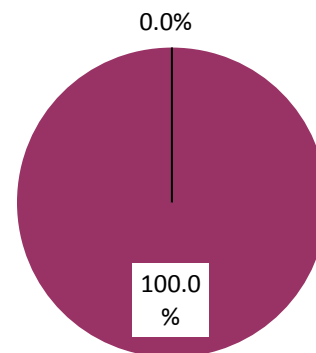
修了生



大学院教員



企業

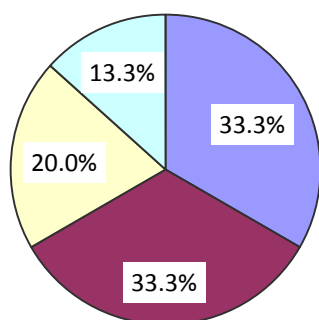


「電子情報システム工学専攻(電子・情報技術応用工学コース)」の学習・教育目標の社会的要求度

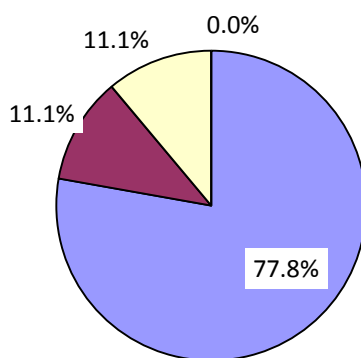
D-3 与えられた課題について、問題解決の過程を通じてデザイン能力を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	33.3%	5人	77.8%	7人	0.0%	0人
どちらかという必要である	33.3%	5人	11.1%	1人	100.0%	1人
あまり必要ない	20.0%	3人	11.1%	1人	0.0%	0人
まったく必要ない	13.3%	2人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

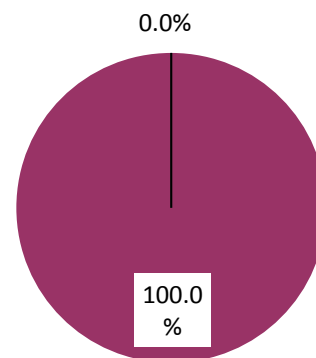
修了生



大学院教員



企業

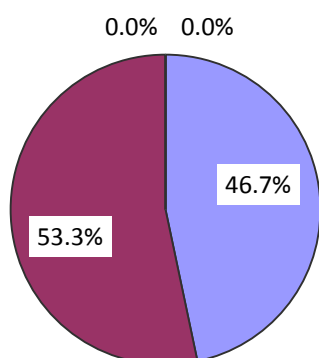


(E)創造性、チャレンジ性を発揮できる素養

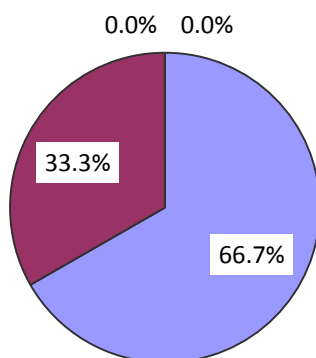
E-1 研究計画の立案、研究の進め方、結果の整理・考察など一連の技術開発手順を学習し、創造性を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	46.7%	7人	66.7%	6人	0.0%	0人
どちらかという必要である	53.3%	8人	33.3%	3人	100.0%	1人
あまり必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

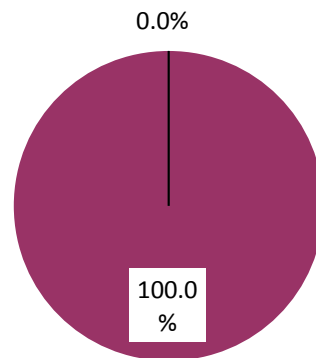
修了生



大学院教員



企業

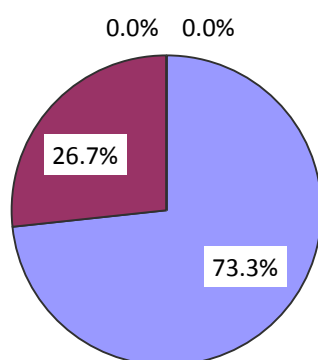


「電子情報システム工学専攻(電子・情報技術応用工学コース)」の学習・教育目標の社会的要求度

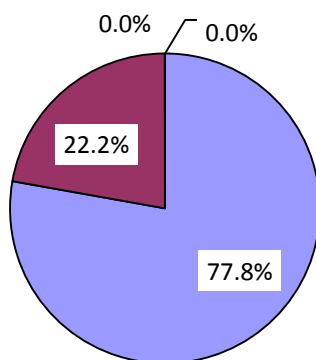
E-2 実験や研究途上で生じた新たな問題点の解決など、技術者として自主的に取り組むチャレンジ性を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	73.3%	11人	77.8%	7人	0.0%	0人
どちらかという必要である	26.7%	4人	22.2%	2人	100.0%	1人
あまり必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

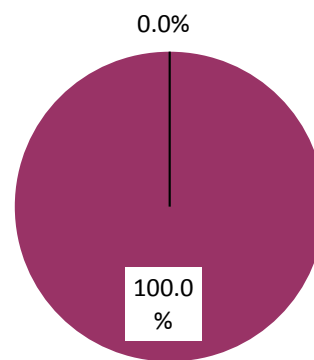
修了生



大学院教員



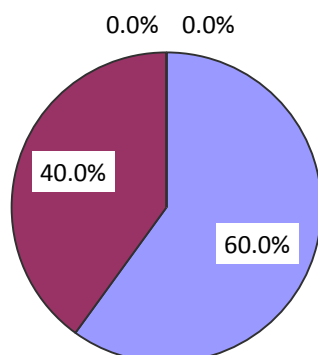
企業



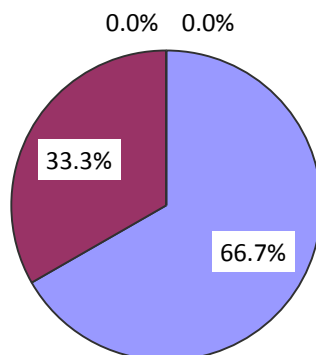
E-3 継続的に学習する習慣を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	60.0%	9人	66.7%	6人	100.0%	1人
どちらかという必要である	40.0%	6人	33.3%	3人	0.0%	0人
あまり必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

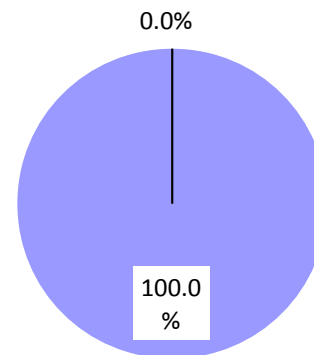
修了生



大学院教員



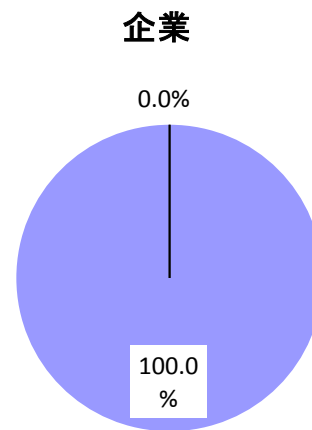
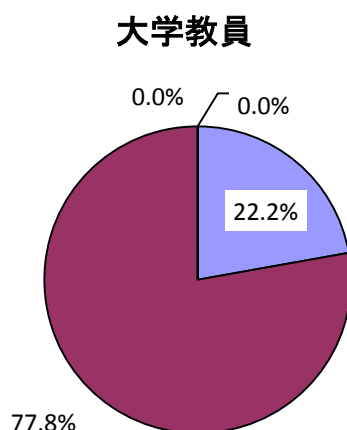
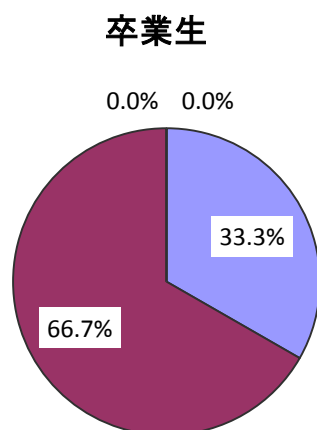
企業



「電子情報システム工学専攻(電子・情報技術応用工学コース)」の学習・教育目標の社会的要求度

E-4 企業実習、校内での実習を通じ、与えられた課題に対する実践的な能力を身につける

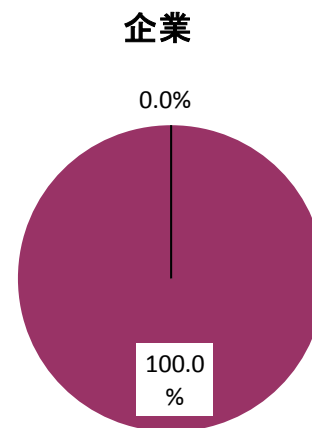
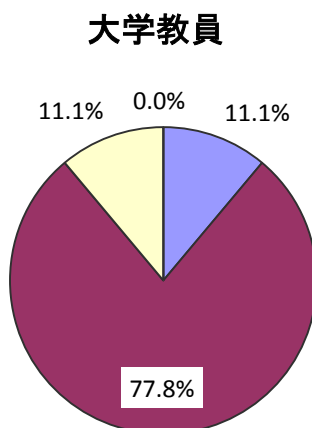
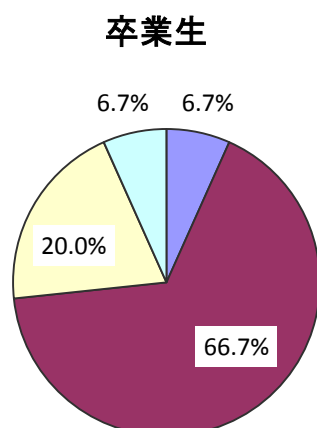
選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	33.3%	5人	22.2%	2人	100.0%	1人
どちらかという必要である	66.7%	10人	77.8%	7人	0.0%	0人
あまり必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人



(F)人類への貢献意識を持ち、広い視野と倫理観を持った技術姿勢

F-1 諸外国の言語を学び各国の文化、価値観などに触れるとともに、社会の成立に不可欠な諸条件の基礎的知識を習得することにより、多面的に物事を考え価値観の異なる他者との共存ができる素養を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	6.7%	1人	11.1%	1人	0.0%	0人
どちらかという必要である	66.7%	10人	77.8%	7人	100.0%	1人
あまり必要ない	20.0%	3人	11.1%	1人	0.0%	0人
まったく必要ない	6.7%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

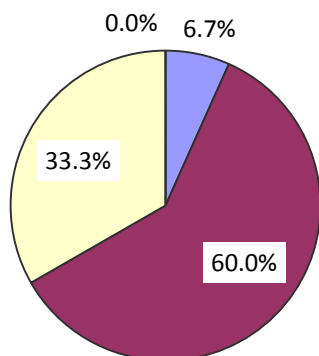


「電子情報システム工学専攻(電子・情報技術応用工学コース)」の学習・教育目標の社会的要求度

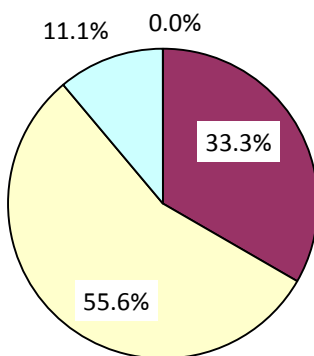
F-2 スポーツやグループワークを通して協力・連携の意識を育み、社会性・協調性・チームワーク力を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	6.7%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
どちらかという必要である	60.0%	9人	33.3%	3人	100.0%	1人
あまり必要ない	33.3%	5人	55.6%	5人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	11.1%	1人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

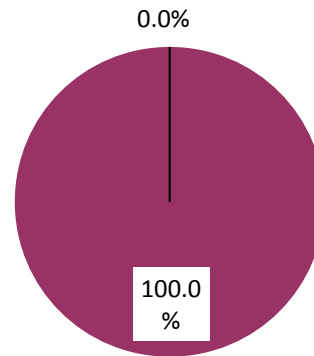
修了生



大学院教員



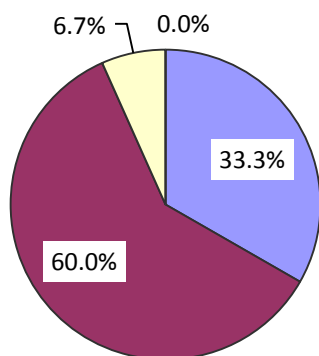
企業



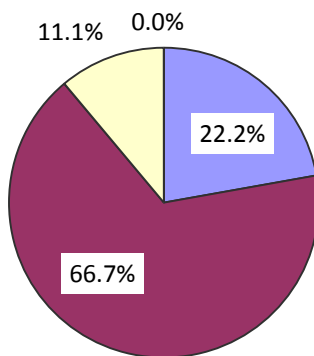
F-3 技術が人類社会に及ぼす影響、技術開発が人類社会に与える倫理的な問題について理解する

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	33.3%	5人	22.2%	2人	0.0%	0人
どちらかという必要である	60.0%	9人	66.7%	6人	100.0%	1人
あまり必要ない	6.7%	1人	11.1%	1人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

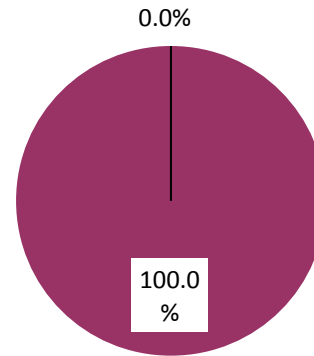
修了生



大学院教員



企業



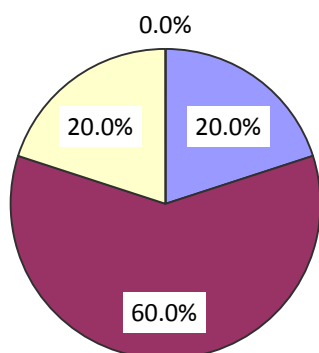
「電子情報システム工学専攻(電子・情報技術応用工学コース)」の学習・教育目標に対する本校教育への満足度

(A)日本語および英語のコミュニケーション能力

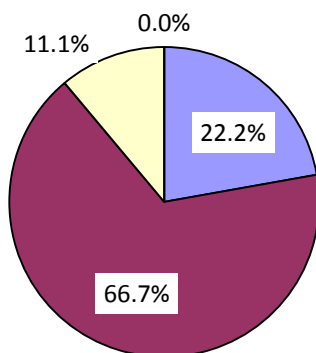
A-1 技術者として、分かりやすいきちんとした日本語での表現、技術報告書の作成、プレゼンテーションなどができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	20.0%	3人	22.2%	2人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	60.0%	9人	66.7%	6人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	20.0%	3人	11.1%	1人	100.0%	1人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

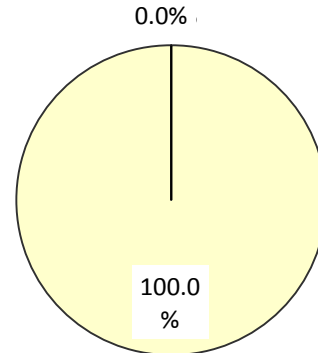
修了生



大学院教員



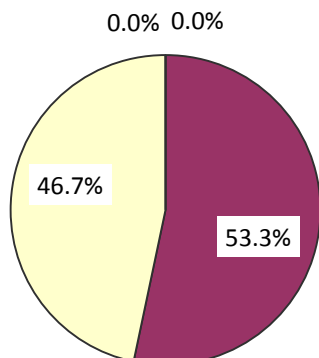
企業



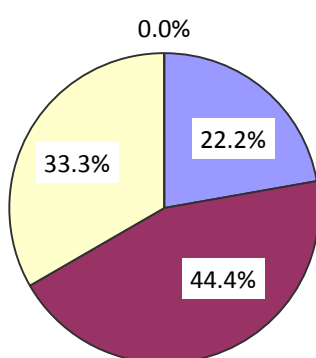
A-2 英語による基本的な表現(英文読解、英作文、英会話)ができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	0.0%	0人	22.2%	2人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	53.3%	8人	44.4%	4人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	46.7%	7人	33.3%	3人	100.0%	1人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

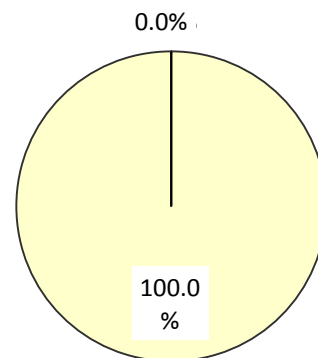
修了生



大学院教員



企業

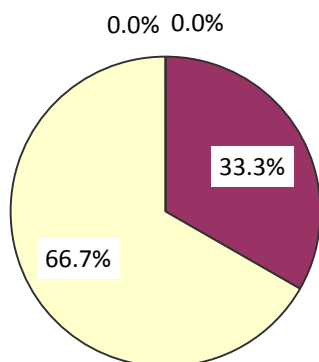


「電子情報システム工学専攻(電子・情報技術応用工学コース)」の学習・教育目標に対する本校教育への満足度

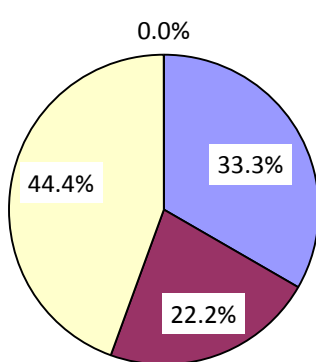
A-3 技術者としての英語のコミュニケーション能力を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	0.0%	0人	33.3%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	33.3%	5人	22.2%	2人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	66.7%	10人	44.4%	4人	100.0%	1人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

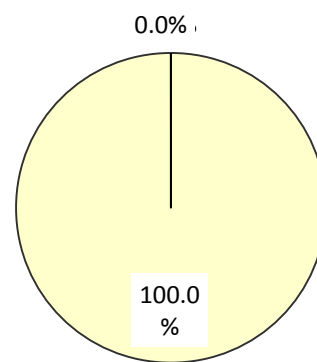
修了生



大学院教員



企業

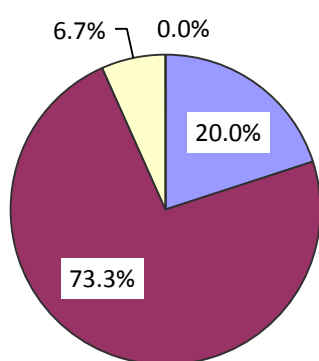


(B)コンピュータの基本的技術および工学への応用技術

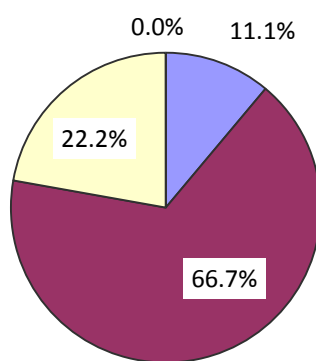
B-1 コンピュータのハードウェアに関する基本的な働きを理解し、OSやプログラミング言語に関する基礎的な処理ができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	20.0%	3人	11.1%	1人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	73.3%	11人	66.7%	6人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	6.7%	1人	22.2%	2人	100.0%	1人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

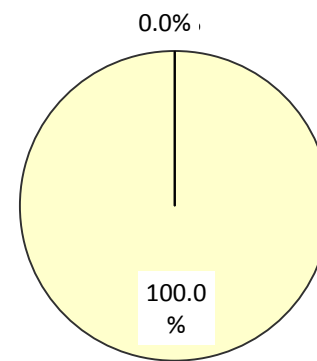
修了生



大学院教員



企業

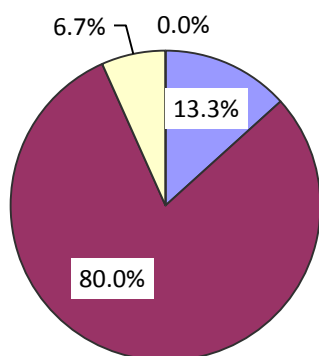


「電子情報システム工学専攻(電子・情報技術応用工学コース)」の学習・教育目標に対する本校教育への満足度

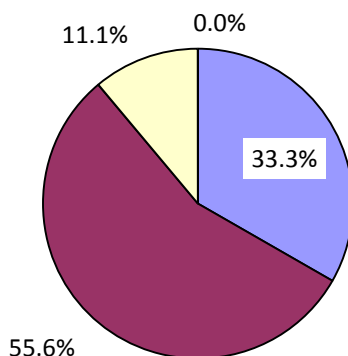
B-2 工学的な課題についてコンピュータを応用して解決することができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	13.3%	2人	33.3%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	80.0%	12人	55.6%	5人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	6.7%	1人	11.1%	1人	100.0%	1人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

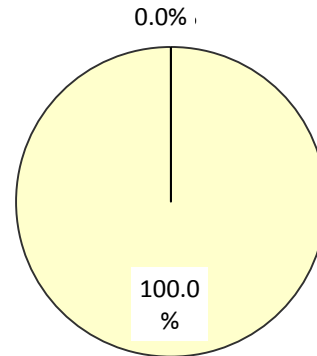
修了生



大学院教員



企業

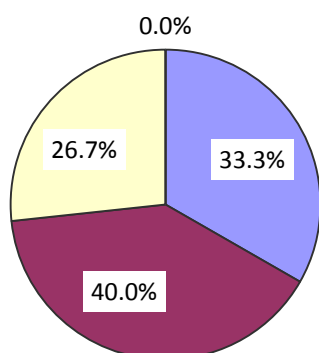


(C)電子・情報系技術の基礎知識・能力

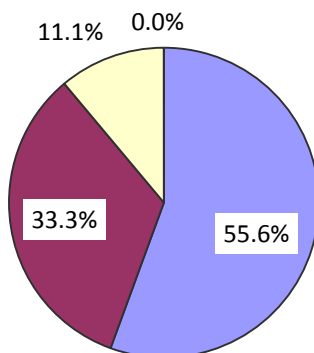
C-1 数学、物理などの基礎的な知識・能力を身につけ、それを工学の分野で利用できる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	33.3%	5人	55.6%	5人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	40.0%	6人	33.3%	3人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	26.7%	4人	11.1%	1人	100.0%	1人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

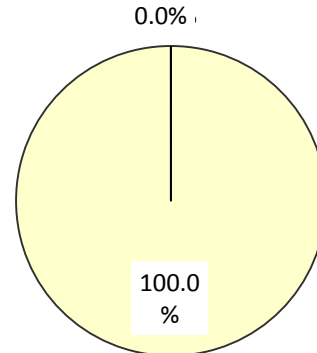
修了生



大学院教員



企業

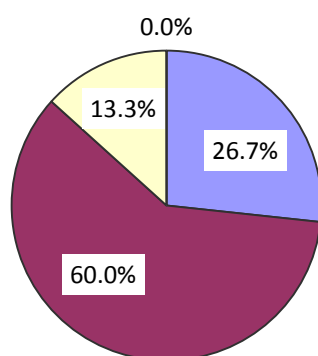


「電子情報システム工学専攻(電子・情報技術応用工学コース)」の学習・教育目標に対する本校教育への満足度

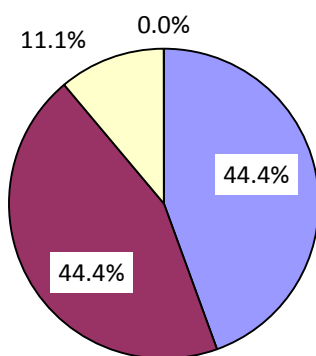
C-2 電気回路、電子回路、電気磁気学などの電子・情報系専門基礎科目の知識・能力を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	26.7%	4人	44.4%	4人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	60.0%	9人	44.4%	4人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	13.3%	2人	11.1%	1人	100.0%	1人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

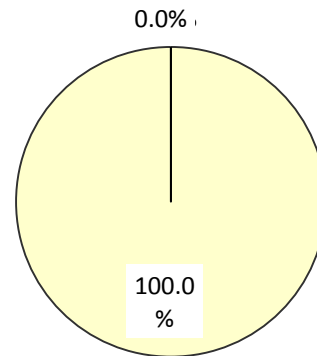
修了生



大学院教員



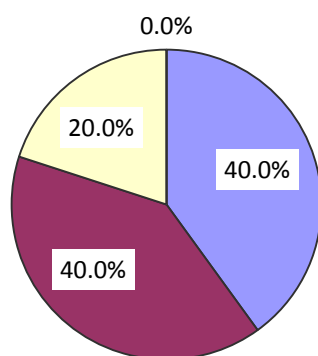
企業



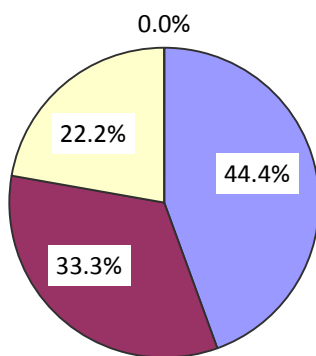
C-3 基本的な測定機器の取り扱い、実験技術を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	40.0%	6人	44.4%	4人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	40.0%	6人	33.3%	3人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	20.0%	3人	22.2%	2人	100.0%	1人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

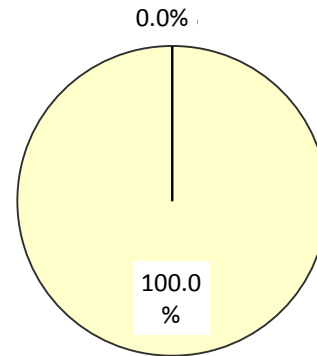
修了生



大学院教員



企業



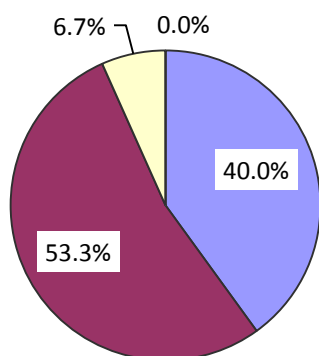
「電子情報システム工学専攻(電子・情報技術応用工学コース)」の学習・教育目標に対する本校教育への満足度

(D)電子・情報系技術の一分野において専門技術に関する知識・能力

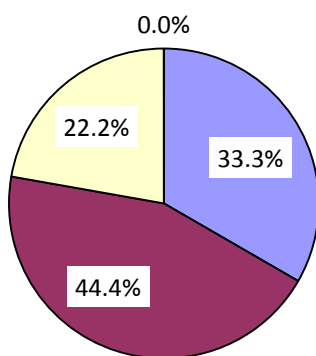
D-1 通信技術・電子技術・制御技術・情報技術などの中から1分野の専門応用技術を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	40.0%	6人	33.3%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	53.3%	8人	44.4%	4人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	6.7%	1人	22.2%	2人	100.0%	1人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

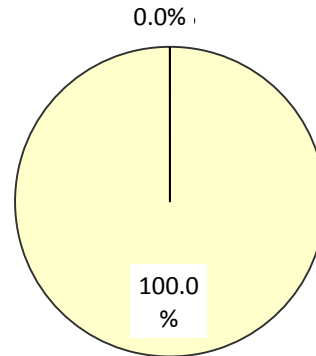
修了生



大学院教員



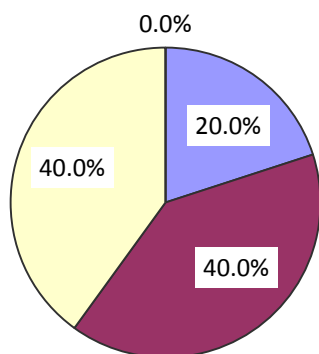
企業



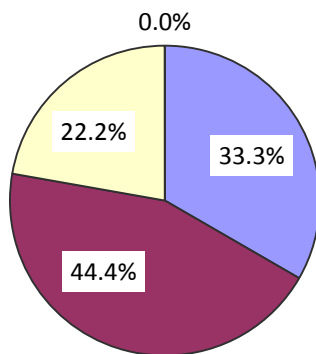
D-2 人の行動・感性を工学に生かす技術を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	20.0%	3人	33.3%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	40.0%	6人	44.4%	4人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	40.0%	6人	22.2%	2人	100.0%	1人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

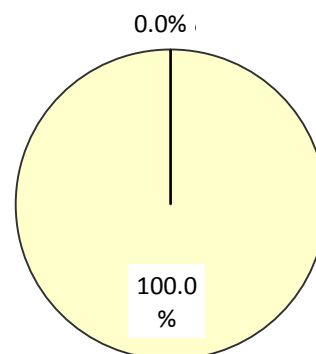
修了生



大学院教員



企業

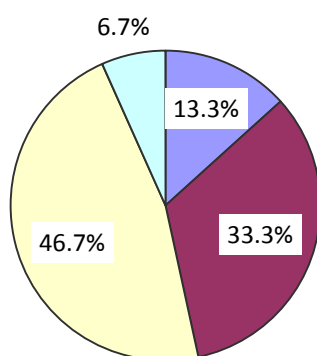


「電子情報システム工学専攻(電子・情報技術応用工学コース)」の学習・教育目標に対する本校教育への満足度

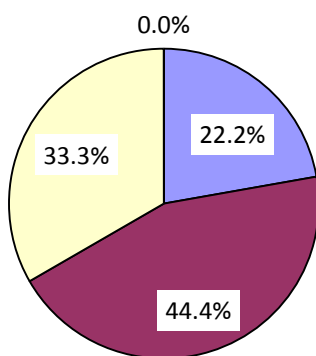
D-3 与えられた課題について、問題解決の過程を通じてデザイン能力を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	13.3%	2人	22.2%	2人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	33.3%	5人	44.4%	4人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	46.7%	7人	33.3%	3人	100.0%	1人
全く身につけさせていない	6.7%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

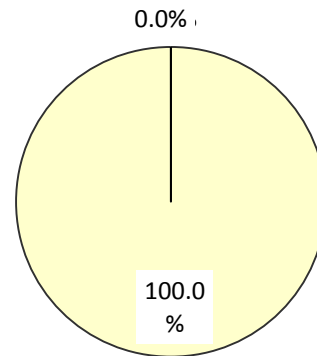
修了生



大学院教員



企業

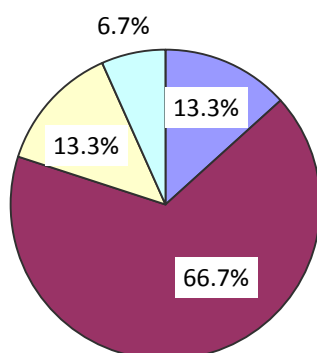


(E)創造性、チャレンジ性を発揮できる素養

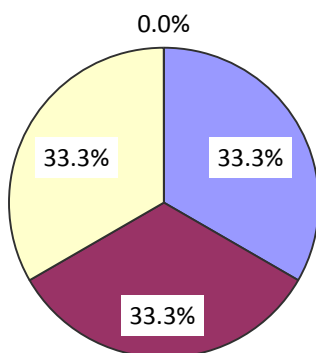
E-1 研究計画の立案、研究の進め方、結果の整理・考察など一連の技術開発手順を学習し、創造性を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	13.3%	2人	33.3%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	66.7%	10人	33.3%	3人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	13.3%	2人	33.3%	3人	100.0%	1人
全く身につけさせていない	6.7%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

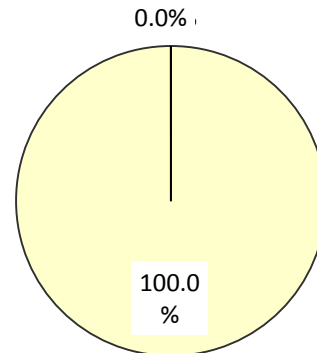
修了生



大学院教員



企業

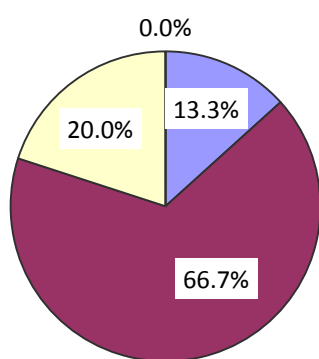


「電子情報システム工学専攻(電子・情報技術応用工学コース)」の学習・教育目標に対する本校教育への満足度

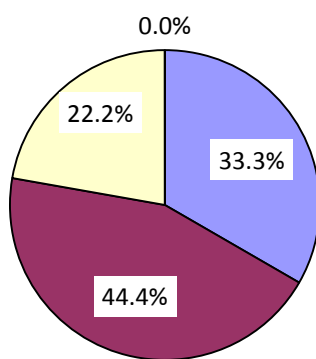
E-2 実験や研究途上で生じた新たな問題点の解決など、技術者として自主的に取り組むチャレンジ性を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	13.3%	2人	33.3%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	66.7%	10人	44.4%	4人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	20.0%	3人	22.2%	2人	100.0%	1人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

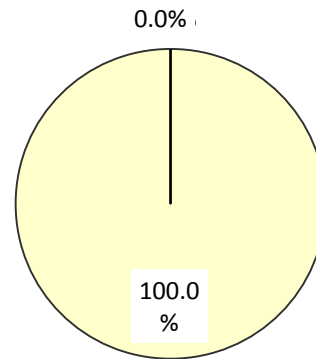
修了生



大学院教員



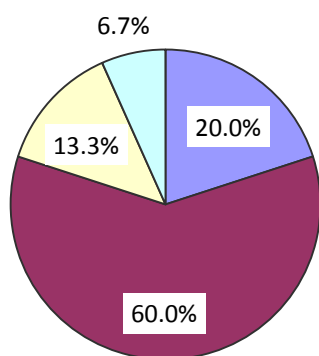
企業



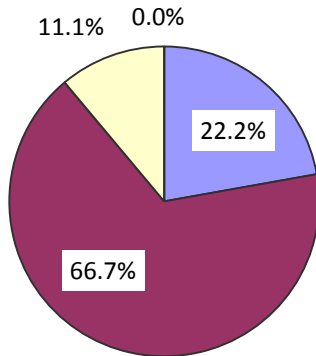
E-3 継続的に学習する習慣を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	20.0%	3人	22.2%	2人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	60.0%	9人	66.7%	6人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	13.3%	2人	11.1%	1人	100.0%	1人
全く身につけさせていない	6.7%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

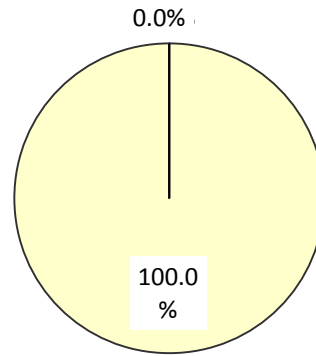
修了生



大学院教員



企業

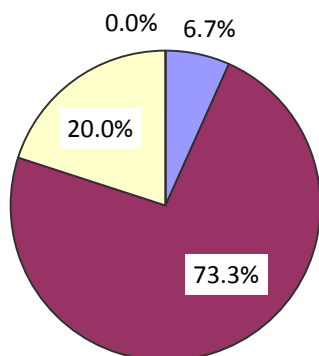


「電子情報システム工学専攻(電子・情報技術応用工学コース)」の学習・教育目標に対する本校教育への満足度

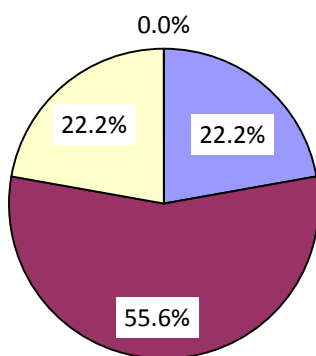
E-4 企業実習、校内での実習を通じ、与えられた課題に対する実践的な能力を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	6.7%	1人	22.2%	2人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	73.3%	11人	55.6%	5人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	20.0%	3人	22.2%	2人	100.0%	1人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

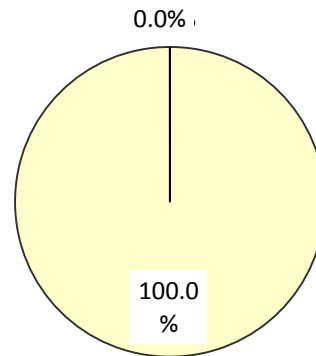
修了生



大学院教員



企業

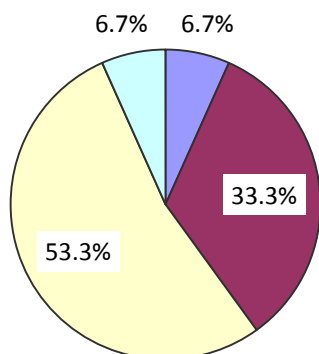


(F)人類への貢献意識を持ち、広い視野と倫理観を持った技術姿勢

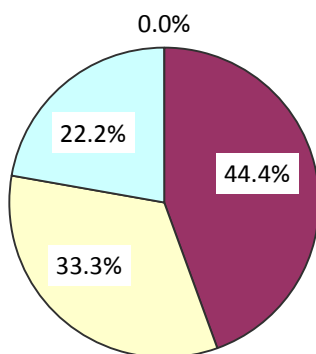
F-1 諸外国の言語を学び各国の文化、価値観などに触れるとともに、社会の成立に不可欠な諸条件の基礎的知識を習得することにより、多面的に物事を考え価値観の異なる他者との共存ができる素養を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	6.7%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	33.3%	5人	44.4%	4人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	53.3%	8人	33.3%	3人	100.0%	1人
全く身につけさせていない	6.7%	1人	22.2%	2人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

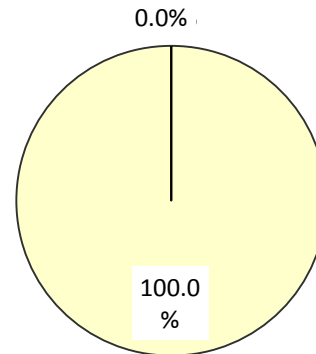
修了生



大学院教員



企業

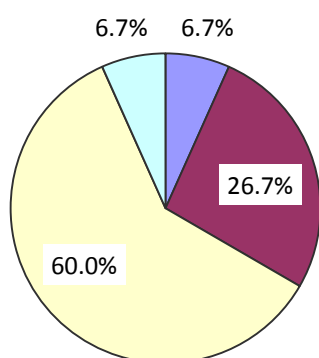


「電子情報システム工学専攻(電子・情報技術応用工学コース)」の学習・教育目標に対する本校教育への満足度

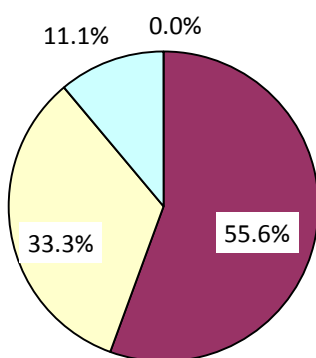
F-2 スポーツやグループワークを通して協力・連携の意識を育み、社会性・協調性・チームワーク力を身につける

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	6.7%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	26.7%	4人	55.6%	5人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	60.0%	9人	33.3%	3人	100.0%	1人
全く身につけさせていない	6.7%	1人	11.1%	1人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

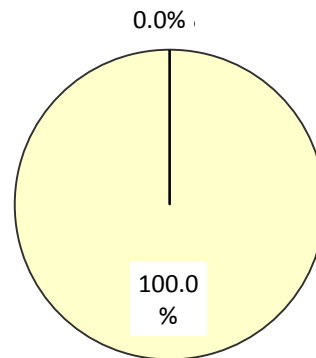
修了生



大学院教員



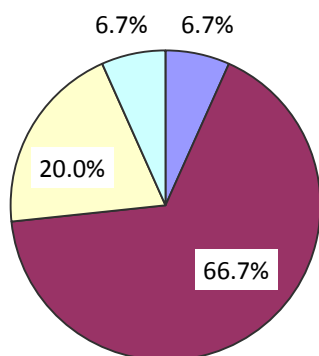
企業



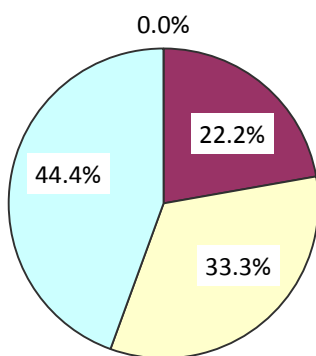
F-3 技術が人類社会に及ぼす影響、技術開発が人類社会に与える倫理的な問題について理解する

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	6.7%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	66.7%	10人	22.2%	2人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	20.0%	3人	33.3%	3人	100.0%	1人
全く身につけさせていない	6.7%	1人	44.4%	4人	0.0%	0人
合計		15人		9人		1人
無回答		1人		1人		0人

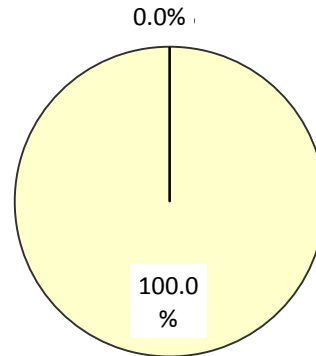
修了生



大学院教員



企業



熊本高等専門学校の特攻科修了生(熊本キャンパス)の優れている点をお聞かせください。

特攻科修了生(熊本キャンパス)

回答	11
無回答	5
合計	16

専門的知識・技術
専門知識をある程度以上には身につけた上で社会にでられる。
専門知識をどの職業でも応用できるように学習させていると感じました
各人が専攻した専門分野の学習量
基礎的な、プログラミングの知識などは、四年生大学の学部卒業生よりも優れていると思う
技術力が高く、他の大学出身者と比べても遜色無いもしくは専攻科生の方が優れている。
専門技術を身につけ、それを活かし各界で活躍している点。
一定水準の技術力を身につけている。

即戦力・問題解決能力・プレゼン能力
実践的な学習を通じて培った臨機応変な問題解決を行える点は優れている。
即戦力になれる
レポートやプレゼン能力に関しては優れている。
その他
比較対象が定義されていないので、熊本の大学生と比較します。
・大学受験がないため、自分の興味があることにリソースを割り振れる。
・7年間を通じて、同じ研究やサークル活動を持続したり、校内の人脈を活用できる。
・早い段階(高校生の頃)から、研究活動やグローバルな人脈獲得の機会がある。

熊本高等専門学校の特攻科修了生(熊本キャンパス)の優れている点をお聞かせください。

進学大学院の指導教員

回答	8
無回答	2
合計	10

専門知識・技術の習得
情報技術の基礎知識があり、それらを活かした技術的研究に関しては即戦力がある。
専門分野における基盤的能力の高さ。
電子回路などの理解、実験の仕方や考察力において優れています。これは、実験教育が充実しているからだと思います。
実験スキルに優れている。
真面目さ・継続性
真面目である。
こつこつとまじめに様々な課題に取り組むところ
派手さはないが、まじめでこつこつと研究に取り組む姿勢
積極性・主体性
新しい課題に積極的に取り組む。
意欲が高く、物事に集中して取り組む姿勢が多く見て取れる。
積極性、やる気など
自分でよく考えるところ

熊本高等専門学校の専攻科修了生(熊本キャンパス)の劣っている点をお聞かせください。

専攻科修了生(熊本キャンパス)

回答	12
無回答	4
合計	16

英語力の不足
英語等、外国語に対する必要性をもっと分かるようにして欲しかった。(自分の反省です)
英語力も高くはない。
英語力
英語力

応用力の不足
専門知識の応用力

積極性の欠如
個人差があるが、積極性に欠けるところがある。
積極性が低く感じる

コミュニケーション能力の不足
コミュニケーション能力。違う年代や価値観の違う人たちとのコミュニケーションが足りない環境に
コミュニケーション能力に欠ける
大学出身者と比較して、何が何でも我を通す折衝能力に劣ると感じる。

社会性の欠如
前項と同じ観点で述べます。
・早い段階(高校生の頃)で、挫折を味わい立ち直れない可能性がある。
・勉強一辺倒になりがちで、バイトやサークル活動で培われる対人スキルや遊びに関するスキルが低い。
・異性との交遊が少ないため、社会に出て典型的な失敗する話が少なくない。
外部との交流が少なく、礼儀作法があまり身に付いていないように感じる。

熊本高等専門学校の特攻科修了生(熊本キャンパス)の劣っている点をお聞かせください。

進学大学院の指導教員

回答	7
無回答	3
合計	10

英語力の不足
高専出身者は大学受験を経験していないせいか、一般に英語が苦手ようです。しかし、勉強の機会を与えれば、能力は十分伸びます。
若干ではあるが、一般の大学生に比較すると英語を含めたコミュニケーション能力が低いと感じている学生が多い。
英語能力に乏しい。
語学力（日本語、英語）がやや低い。

思考力の浅さ・批判精神の欠如・自由な発想の不足
高専生としては仕方ないと思いますが、原因を深く掘り下げる姿勢があまり見られません。表面的に真面目な半面、批判精神に欠ける。
専門性に捕われすぎない自由な発想が少ない。

特になし
特に思い当たりません。

熊本高等専門学校専攻科(熊本キャンパス)への御提言がございましたら、お聞かせください。

専攻科修了生(熊本キャンパス)

回答	4
無回答	12
合計	16

実践的教育

在学中に学んだ内容を現在の職業で応用できると感じる場面が多々あります。これからも同様な学習スタイルで後輩たちを育てていただければと思います。

キャリア教育

OBとの面談の機会を持たせるなど、今の勉強が将来どのように必要になるかを意識する機会があれば、日々の学習により真摯に向き合え则认为る。

学校説明

受験前の学生さんたちには、ありのままの高専の姿を説明して、高専に合う・染まる人物の獲得に努めていただけると、皆が幸せになれるかと考えます。

熊本高等専門学校専攻科(熊本キャンパス)への御提言がございましたら、お聞かせください。

進学大学院の指導教員

回答	6
無回答	4
合計	10

英語の苦手意識の克服
英語はうまくなくても良いが、嫌いにはならないようにして欲しい。英語への苦手意識が強い学生が英語を含めたコミュニケーション能力が必ずしも低いとは思わないが、苦手意識を持っている学生が多い。「できる」という意識を学生に持たせる工夫があってもよいのではないのでしょうか。

専攻分野の確立
専攻する分野があることは、そこから新たな物を創造する際の土台となります。自分のバックボーンをしっかりと磨くことが大切と考えます。

適切な進路指導
当研究室では、実験の得意な学生が来てくれることを希望します。九大の学部出身者の良い刺激にもなります。 過去に、特別試験で合格し入学を許可したのに、その後、気が変わって入学を辞退した学生がいました。このような事例が発生しないよう、ご指導の程、宜しくお願い致します。

大学院と本校との人的交流
大学院への進学を希望している貴学学生の本学へのインターンシップ派遣、また、貴学から本学へ入学した学生をはじめとして、本学の学制や教員との共同研究など、人的交流を核とした学術交流が盛んになればと、常日頃から考えております。

特になし
非常に実践的な教育をされていると感じる。 研究室には、貴学からの学生さんが多い。総理工量子プロセス修了時点での席次は常にトップクラスである。真面目で、研究好きな学生さんが多く、改善すべき点などは見当たらない。

Ⅲ 平成21年度専攻科 (八代キャンパス)

修了生・進学大学院・企業
アンケート資料

(1)専攻科修了生のフェイスシート

Q1. 修了した専攻を、次の選択肢から選び、お答えください。

専攻	割合	人数
生産情報工学専攻	35.7%	5
環境建設工学専攻	28.6%	4
生物工学専攻	35.7%	5
		14
無回答		0

Q2. 現在の職業等を、次の選択肢から選び、お答えください。

職業	割合	人数
会社員・公務員	85.7%	12
大学院生	0.0%	0
自営業	0.0%	0
無職	14.3%	2
その他（具体的に）	0.0%	0
合計		14
無回答		0

Q3. 現在の業種を、次の選択肢からお選びください(就職してる方のみ)。

業種	割合	人数
製造業	35.7%	5
鉱業	7.1%	1
情報通信業	0.0%	0
電気・ガス・水道	7.1%	1
運輸業	0.0%	0
サービス業	14.3%	2
農林・水産業	0.0%	0
建設業	14.3%	2
商業	0.0%	0
不動産業	0.0%	0
金融・保険業	7.1%	1
教育・学習支援業	0.0%	0
その他（具体的に）	14.3%	2
合計		14
無回答		0

その他（具体的に）	割合	人数
専業主婦	7.1%	1
総合建設コンサルタント	7.1%	1

(2)進学大学院の指導教員のフェイスシート

Q1. 回答者様の所属研究科(学府)を、御記入ください。

所属研究科（学府）	割合	人数
総合理工学府	25.0%	1
システム情報工学研究科	25.0%	1
自然科学研究科	50.0%	2
合計		4
無回答		1

Q2. 回答者様の所属専攻を、御記入ください。

所属専攻	割合	人数
環境エネルギー工学専攻	25.0%	1
経営政策科学	25.0%	1
産業創造工学専攻	25.0%	1
環境共生工学専攻	25.0%	1
合計		4
無回答		1

Q3. 貴研究室に進学した本校専攻科修了生の専攻を、次の選択肢からお答えください(複数回答可)。

卒業学科	割合	人数
生産情報工学専攻	20.0%	1
環境建設工学専攻	40.0%	2
生物工学専攻	0.0%	0
生産システム工学専攻	40.0%	2
合計		5
無回答		1

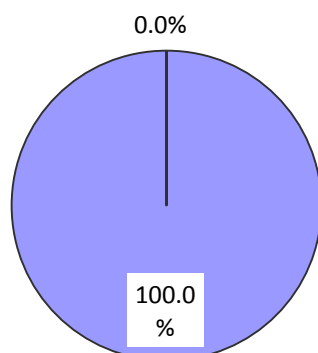
「生産システム工学専攻」の学習・教育目標の社会的要求度

(1) 日本語および英語のコミュニケーション能力を有し、国際的に活躍できる技術者

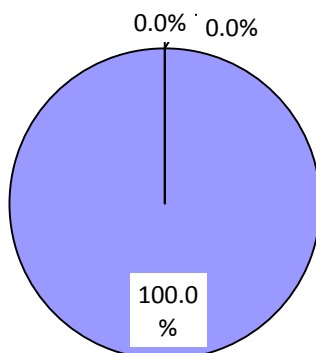
1-1：日本語による適切な文章表現及び口頭的意思伝達ができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	100.0%	12人	100.0%	4人	0.0%	0人
どちらかという必要である	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
あまり必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		12人		4人		0人
無回答		2人		1人		2

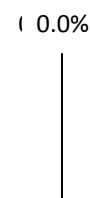
修了生



大学院教員



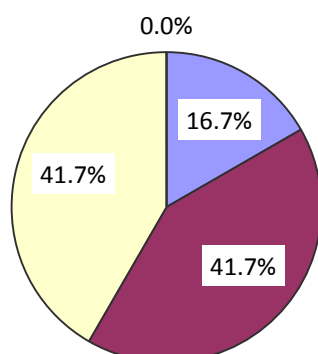
企業



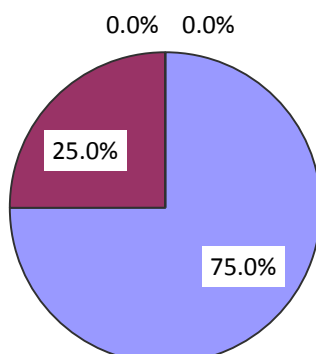
1-2：英語で書かれた技術文書の概要・要旨がつかめる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	16.7%	2人	75.0%	3人	0.0%	0人
どちらかという必要である	41.7%	5人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり必要ない	41.7%	5人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		12人		4人		0人
無回答		2人		1人		2

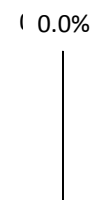
修了生



大学院教員



企業

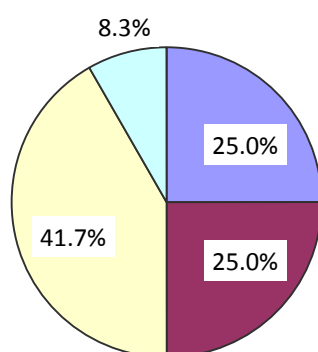


「生産システム工学専攻」の学習・教育目標の社会的要求度

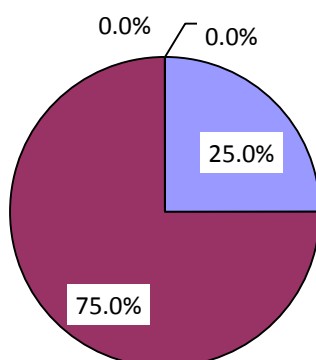
1-3：研究の英文概要を書くことができ、発表資料などに英語を用いることができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	25.0%	3人	25.0%	1人	0.0%	0人
どちらかという必要である	25.0%	3人	75.0%	3人	0.0%	0人
あまり必要ない	41.7%	5人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	8.3%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		12人		4人		0人
無回答		2人		1人		2

修了生



大学院教員



企業

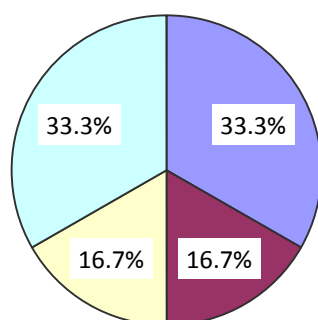


(2)ICTに関する基本的技術および工学への応用技術を身に付けた技術者

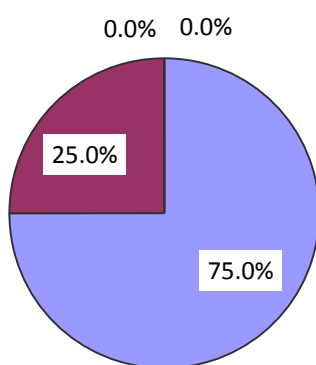
2-1：ICT技術を活用した計測技術を使い実験データを収集することができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	33.3%	4人	75.0%	3人	0.0%	0人
どちらかという必要である	16.7%	2人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり必要ない	16.7%	2人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	33.3%	4人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		12人		4人		0人
無回答		2人		1人		2

修了生



大学院教員



企業

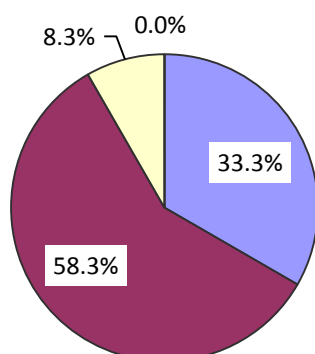


「生産システム工学専攻」の学習・教育目標の社会的要求度

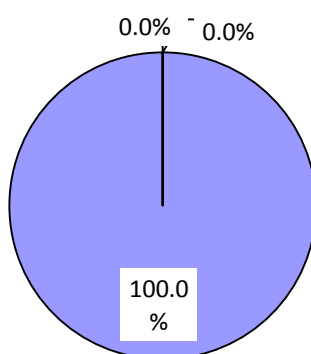
2-2：収集したデータや情報を数理的処理を用いて分析し専門工学での問題解決に繋げることができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	33.3%	4人	100.0%	4人	0.0%	0人
どちらかという必要である	58.3%	7人	0.0%	0人	0.0%	0人
あまり必要ない	8.3%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		12人		4人		0人
無回答		2人		1人		2

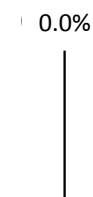
修了生



大学院教員



企業

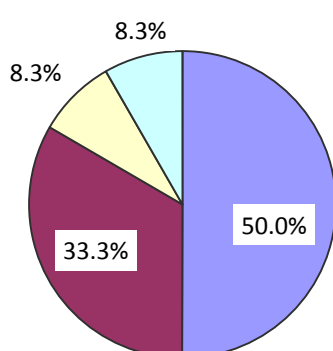


(3) 多分野における技術の基礎となる知識と技能、およびその分野の専門技術に関する高度な知識と能力を持ち、複眼的な視点から問題を解決し、産業技術分野への活用を実践できる技術者

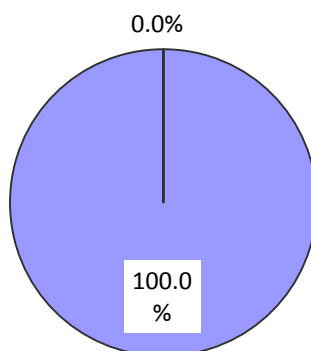
3-1：数学・自然科学の基礎知識を、専門分野の課題で活用することができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	50.0%	6人	100.0%	4人	0.0%	0人
どちらかという必要である	33.3%	4人	0.0%	0人	0.0%	0人
あまり必要ない	8.3%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	8.3%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		12人		4人		0人
無回答		2人		1人		2

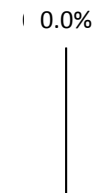
修了生



大学院教員



企業

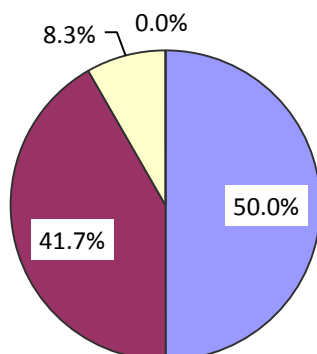


「生産システム工学専攻」の学習・教育目標の社会的要求度

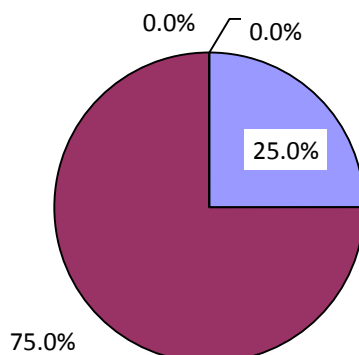
3-2：多様な専門分野の関連性を理解し、多面的に捉えることができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	50.0%	6人	25.0%	1人	0.0%	0人
どちらかという必要である	41.7%	5人	75.0%	3人	0.0%	0人
あまり必要ない	8.3%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		12人		4人		0人
無回答		2人		1人		2

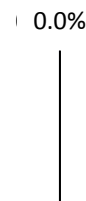
修了生



大学院教員



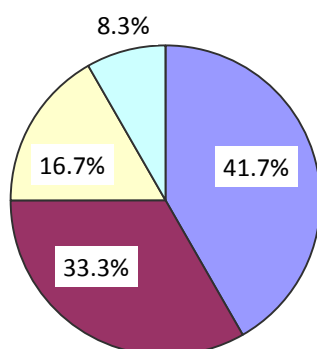
企業



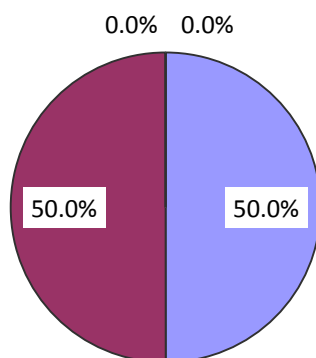
3-3：基礎知識を活用して工学的問題を理解し、説明できる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	41.7%	5人	50.0%	2人	0.0%	0人
どちらかという必要である	33.3%	4人	50.0%	2人	0.0%	0人
あまり必要ない	16.7%	2人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	8.3%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		12人		4人		0人
無回答		2人		1人		2

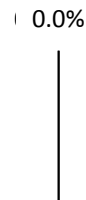
修了生



大学院教員



企業

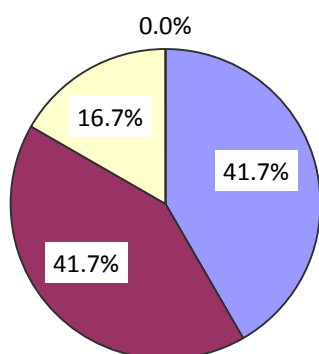


「生産システム工学専攻」の学習・教育目標の社会的要求度

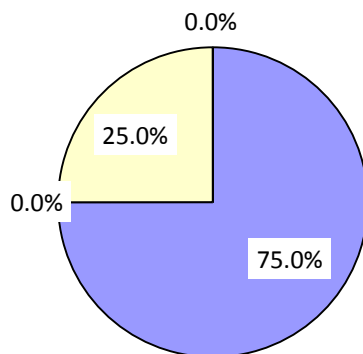
3-4：基礎的な実験技術を用いて、実験を企画・実行して結果の分析・評価ができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	41.7%	5人	75.0%	3人	0.0%	0人
どちらかという必要である	41.7%	5人	0.0%	0人	0.0%	0人
あまり必要ない	16.7%	2人	25.0%	1人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		12人		4人		0人
無回答		2人		1人		2

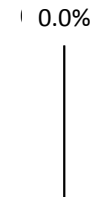
修了生



大学院教員



企業

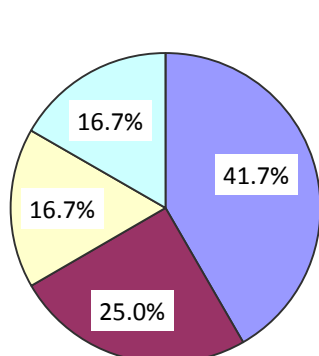


(4) 知徳体の調和した人間性および社会性・協調性を身に付けた技術者

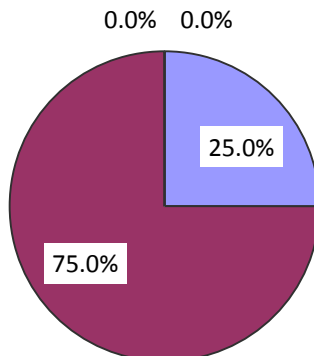
4-1：幅広い知識を身につけ、地球的視点から問題を捉えることができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	41.7%	5人	25.0%	1人	0.0%	0人
どちらかという必要である	25.0%	3人	75.0%	3人	0.0%	0人
あまり必要ない	16.7%	2人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	16.7%	2人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		12人		4人		0人
無回答		2人		1人		2

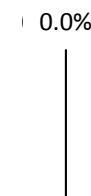
修了生



大学院教員



企業

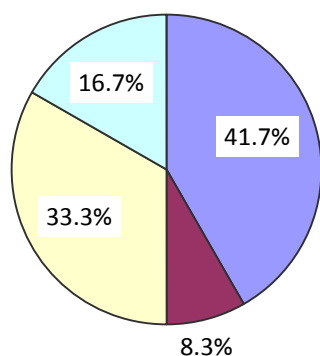


「生産システム工学専攻」の学習・教育目標の社会的要求度

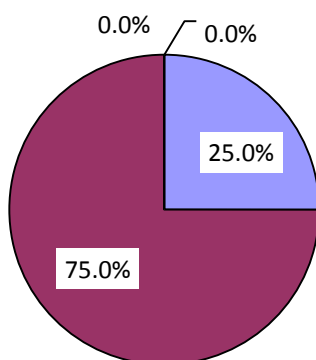
4-2：異文化を理解し、価値観の多様性を認識することができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	41.7%	5人	25.0%	1人	0.0%	0人
どちらかという必要である	8.3%	1人	75.0%	3人	0.0%	0人
あまり必要ない	33.3%	4人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	16.7%	2人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		12人		4人		0人
無回答		2人		1人		2

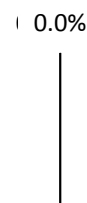
修了生



大学院教員



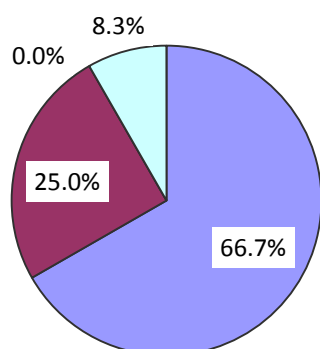
企業



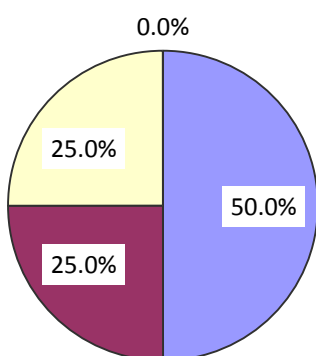
4-3：社会参加への意欲と関心をもつことができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	66.7%	8人	50.0%	2人	0.0%	0人
どちらかという必要である	25.0%	3人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり必要ない	0.0%	0人	25.0%	1人	0.0%	0人
まったく必要ない	8.3%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計	12人	12人		4人		0人
無回答	2人	2人		1人		2

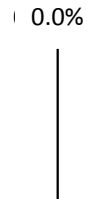
修了生



大学院教員



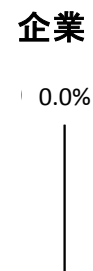
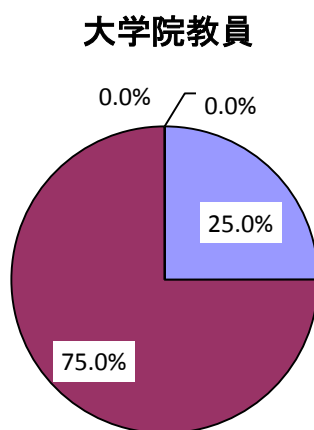
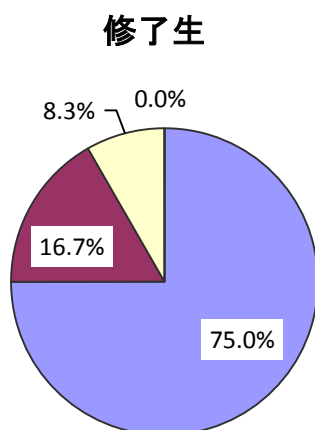
企業



「生産システム工学専攻」の学習・教育目標の社会的要求度

4-4：グループでの活動に参加し、他のメンバーと協調して課題に取り組むことができる

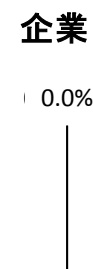
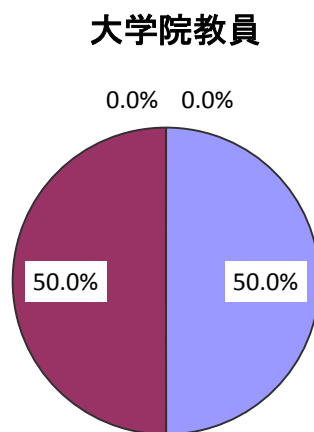
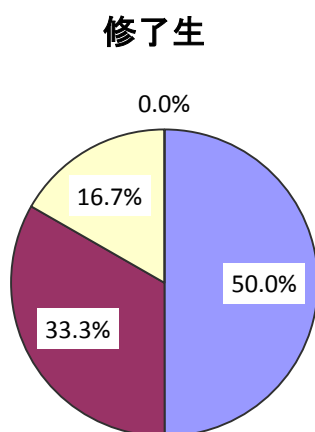
選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	75.0%	9人	25.0%	1人	0.0%	0人
どちらかという必要である	16.7%	2人	75.0%	3人	0.0%	0人
あまり必要ない	8.3%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		12人		4人		0人
無回答		2人		1人		2



(5) 広い視野と技術のあり方に対する倫理観を身に付け、社会への貢献意識を持つ技術者

5-1：科学技術に関する倫理的問題について理解し、指摘することができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	50.0%	6人	50.0%	2人	0.0%	0人
どちらかという必要である	33.3%	4人	50.0%	2人	0.0%	0人
あまり必要ない	16.7%	2人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		12人		4人		0人
無回答		2人		1人		2

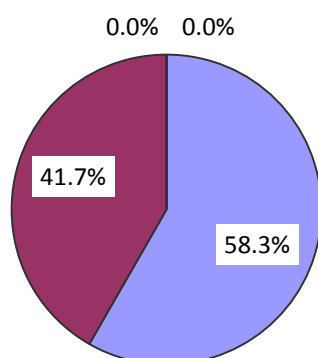


「生産システム工学専攻」の学習・教育目標の社会的要求度

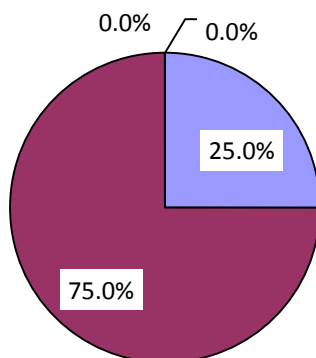
5-2：実務上の問題を理解し、技術的・倫理的知識を適用することができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	58.3%	7人	25.0%	1人	0.0%	0人
どちらかという必要である	41.7%	5人	75.0%	3人	0.0%	0人
あまり必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		12人		4人		0人
無回答		2人		1人		2

卒業生



大学教員



企業

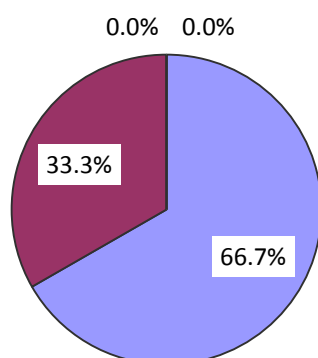


(6) 知的探求心を持ち、問題解決へ向けて主体的、創造的に取り組むことができる技術者

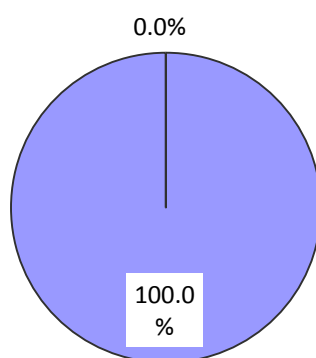
6-1：知的好奇心と探求心を持って、幅広い分野の課題に取り組むことができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	66.7%	8人	100.0%	4人	0.0%	0人
どちらかという必要である	33.3%	4人	0.0%	0人	0.0%	0人
あまり必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		12人		4人		0人
無回答		2人		1人		2

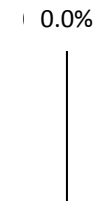
卒業生



大学教員



企業

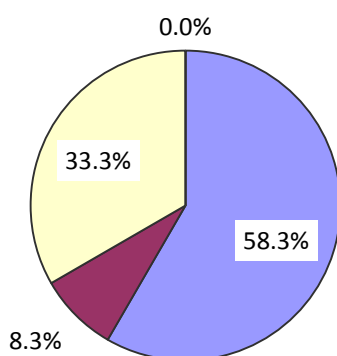


「生産システム工学専攻」の学習・教育目標の社会的要求度

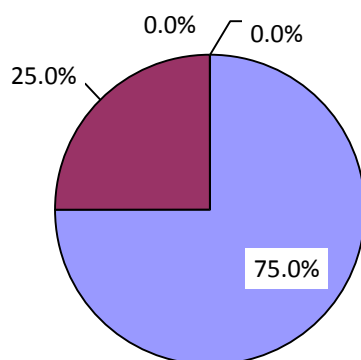
6-2：得意とする専門分野の知識、技術と情報を駆使して、社会の要求に応じた問題解決の方法を企画、デザインすることができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	58.3%	7人	75.0%	3人	0.0%	0人
どちらかという必要である	8.3%	1人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり必要ない	33.3%	4人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		12人		4人		0人
無回答		2人		1人		2

修了生



大学院教員



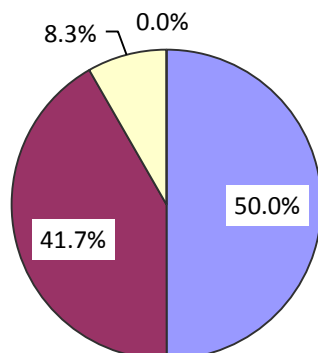
企業



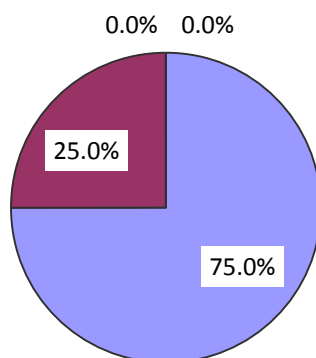
6-3：研究や学習状況を把握・記録して自主的・継続的に学習できる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
必ず必要である	50.0%	6人	75.0%	3人	0.0%	0人
どちらかという必要である	41.7%	5人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり必要ない	8.3%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
まったく必要ない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		12人		4人		0人
無回答		2人		1人		2

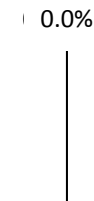
修了生



大学院教員



企業



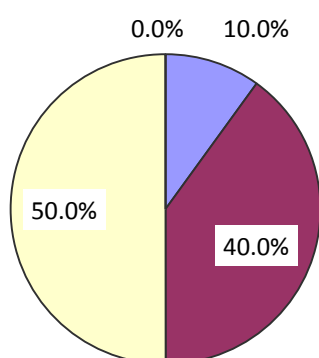
「生産システム工学専攻」の学習・教育目標に対する本校教育への満足度

(1) 日本語および英語のコミュニケーション能力を有し、国際的に活躍できる技術者

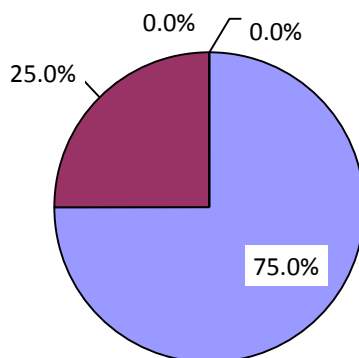
1-1：日本語による適切な文章表現及び口頭的意思伝達ができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	10.0%	1人	75.0%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	40.0%	4人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	50.0%	5人	0.0%	0人	0.0%	0人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		10人		4人		0人
無回答		4人		1人		2

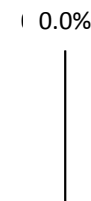
修了生



大学院教員



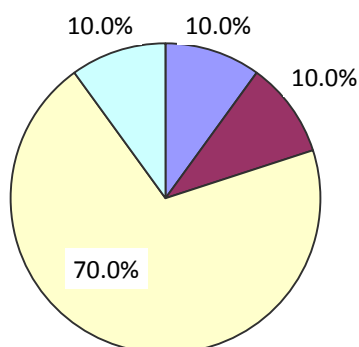
企業



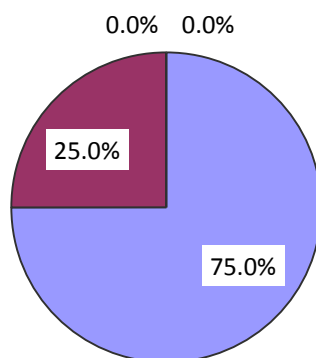
1-2：英語で書かれた技術文書の概要・要旨がつかめる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	10.0%	1人	75.0%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	10.0%	1人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	70.0%	7人	0.0%	0人	0.0%	0人
全く身につけさせていない	10.0%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		10人		4人		0人
無回答		4人		1人		2

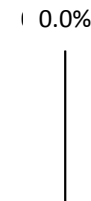
修了生



大学院教員



企業

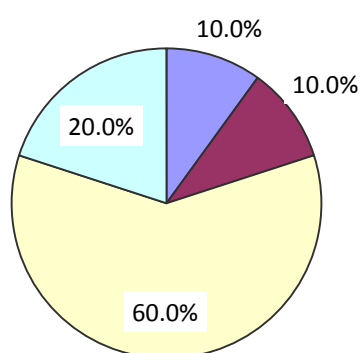


「生産システム工学専攻」の学習・教育目標に対する本校教育への満足度

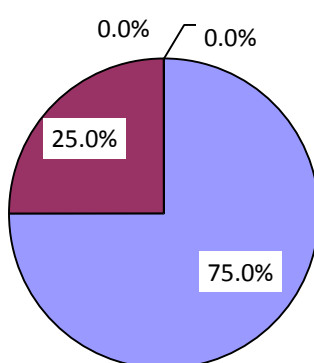
1-3：研究の英文概要を書くことができ、発表資料などに英語を用いることができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	10.0%	1人	75.0%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	10.0%	1人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	60.0%	6人	0.0%	0人	0.0%	0人
全く身につけさせていない	20.0%	2人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		10人		4人		0人
無回答		4人		1人		2

修了生



大学院教員



企業

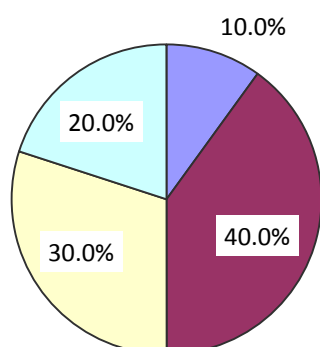


(2)ICTに関する基本的技術および工学への応用技術を身に付けた技術者

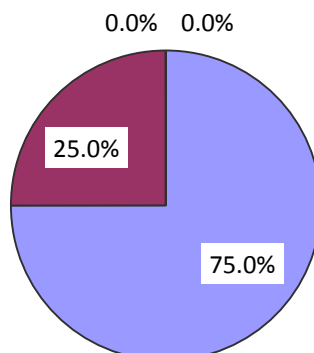
2-1：ICT技術を活用した計測技術を使い実験データを収集することができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	10.0%	1人	75.0%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	40.0%	4人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	30.0%	3人	0.0%	0人	0.0%	0人
全く身につけさせていない	20.0%	2人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		10人		4人		0人
無回答		4人		1人		2

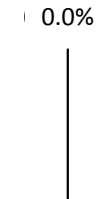
修了生



大学院教員



企業

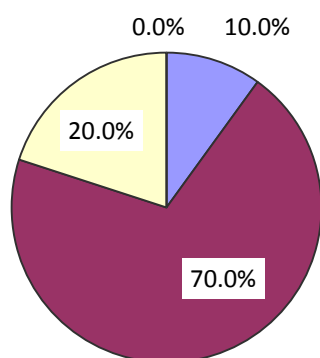


「生産システム工学専攻」の学習・教育目標に対する本校教育への満足度

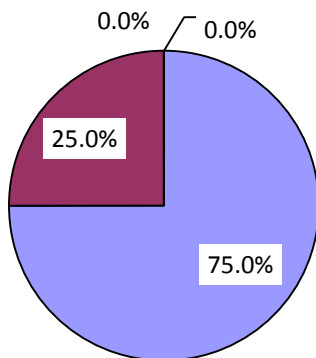
2-2：収集したデータや情報を数理的処理を用いて分析し専門工学での問題解決に繋げることができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	10.0%	1人	75.0%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	70.0%	7人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	20.0%	2人	0.0%	0人	0.0%	0人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		10人		4人		0人
無回答		4人		1人		2

修了生



大学院教員



企業

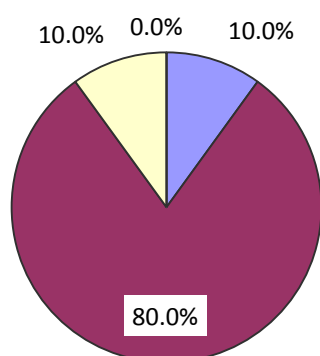


(3) 多分野における技術の基礎となる知識と技能、およびその分野の専門技術に関する高度な知識と能力を持ち、複眼的な視点から問題を解決し、産業技術分野への活用を実践できる技術者

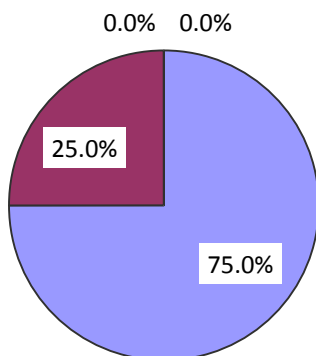
3-1：数学・自然科学の基礎知識を、専門分野の課題で活用することができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	10.0%	1人	75.0%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	80.0%	8人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	10.0%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		10人		4人		0人
無回答		4人		1人		2

修了生



大学院教員



企業

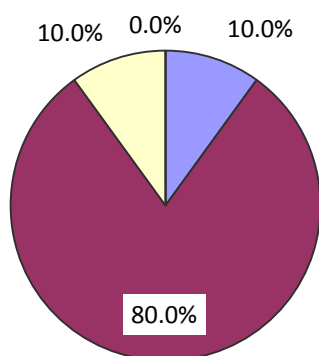


「生産システム工学専攻」の学習・教育目標に対する本校教育への満足度

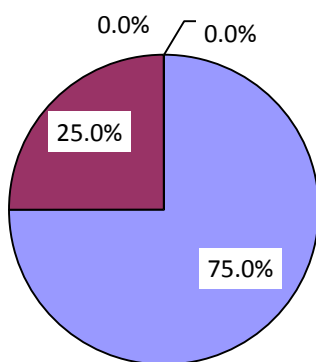
3-2：多様な専門分野の関連性を理解し、多面的に捉えることができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	10.0%	1人	75.0%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	80.0%	8人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	10.0%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		10人		4人		0人
無回答		4人		1人		2

修了生



大学院教員



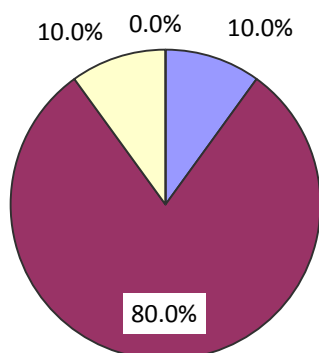
企業



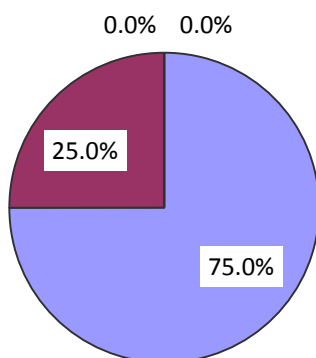
3-3：基礎知識を活用して工学的問題を理解し、説明できる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	10.0%	1人	75.0%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	80.0%	8人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	10.0%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		10人		4人		0人
無回答		4人		1人		2

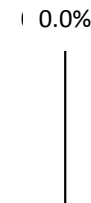
修了生



大学院教員



企業

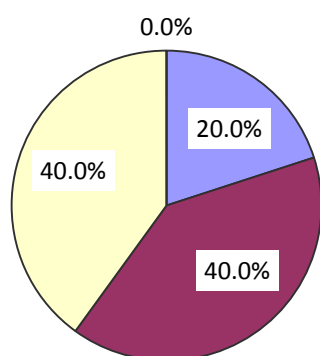


「生産システム工学専攻」の学習・教育目標に対する本校教育への満足度

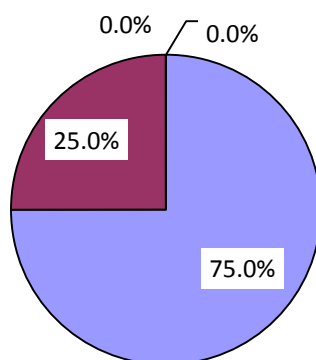
3-4：基礎的な実験技術を用いて、実験を企画・実行して結果の分析・評価ができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	20.0%	2人	75.0%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	40.0%	4人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	40.0%	4人	0.0%	0人	0.0%	0人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		10人		4人		0人
無回答		4人		1人		2

修了生



大学院教員



企業

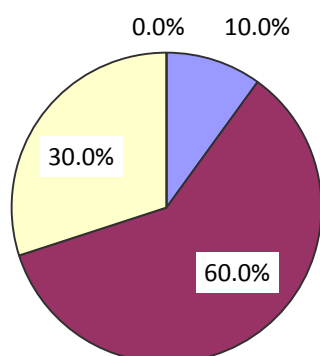


(4) 知徳体の調和した人間性および社会性・協調性を身に付けた技術者

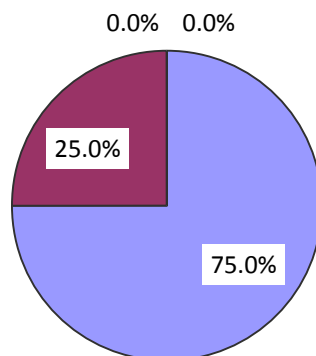
4-1：幅広い知識を身につけ、地球的視点から問題を捉えることができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	10.0%	1人	75.0%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	60.0%	6人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	30.0%	3人	0.0%	0人	0.0%	0人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		10人		4人		0人
無回答		4人		1人		2

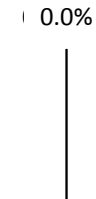
修了生



大学院教員



企業

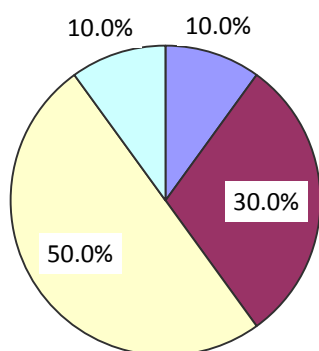


「生産システム工学専攻」の学習・教育目標に対する本校教育への満足度

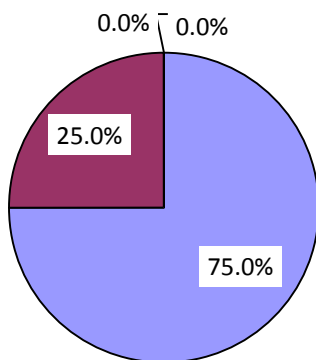
4-2：異文化を理解し、価値観の多様性を認識することができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	10.0%	1人	75.0%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	30.0%	3人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	50.0%	5人	0.0%	0人	0.0%	0人
全く身につけさせていない	10.0%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		10人		4人		0人
無回答		4人		1人		2

修了生



大学院教員



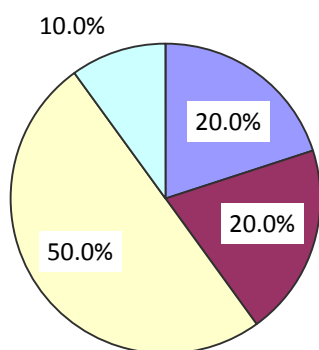
企業



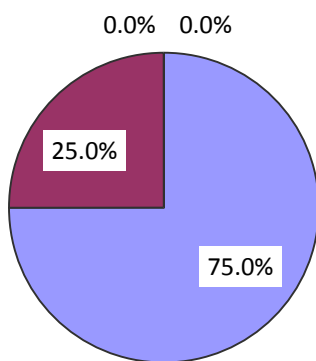
4-3：社会参加への意欲と関心をもつことができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	20.0%	2人	75.0%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	20.0%	2人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	50.0%	5人	0.0%	0人	0.0%	0人
全く身につけさせていない	10.0%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		10人		4人		0人
無回答		4人		1人		2

修了生



大学院教員



企業

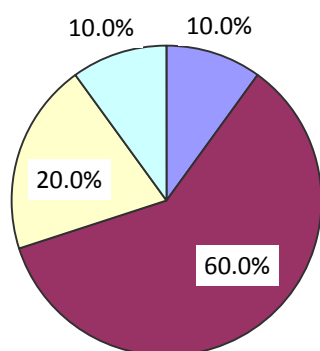


「生産システム工学専攻」の学習・教育目標に対する本校教育への満足度

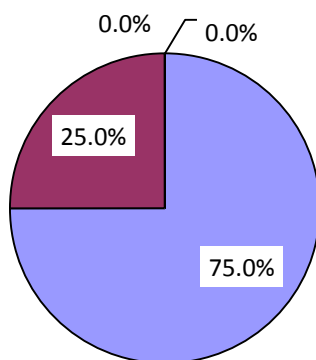
4-4：グループでの活動に参加し、他のメンバーと協調して課題に取り組むことができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	10.0%	1人	75.0%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	60.0%	6人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	20.0%	2人	0.0%	0人	0.0%	0人
全く身につけさせていない	10.0%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		10人		4人		0人
無回答		4人		1人		2

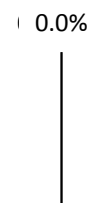
修了生



大学院教員



企業

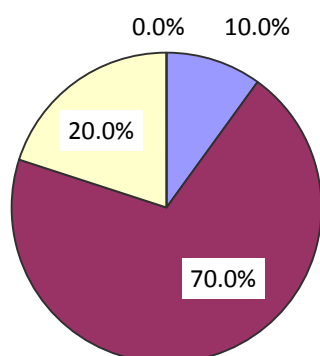


(5) 広い視野と技術のあり方に対する倫理観を身に付け、社会への貢献意識を持つ技術者

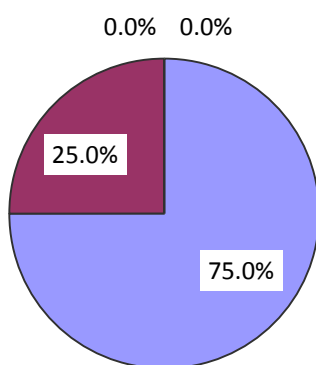
5-1：科学技術に関する倫理的問題について理解し、指摘することができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	10.0%	1人	75.0%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	70.0%	7人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	20.0%	2人	0.0%	0人	0.0%	0人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		10人		4人		0人
無回答		4人		1人		2

修了生



大学院教員



企業

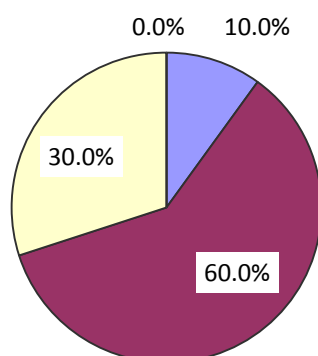


「生産システム工学専攻」の学習・教育目標に対する本校教育への満足度

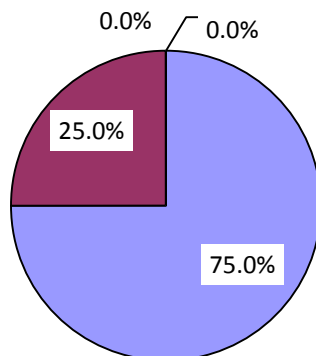
5-2：実務上の問題を理解し、技術的・倫理的知識を適用することができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	10.0%	1人	75.0%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	60.0%	6人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	30.0%	3人	0.0%	0人	0.0%	0人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		10人		4人		0人
無回答		4人		1人		2

修了生



大学院教員



企業

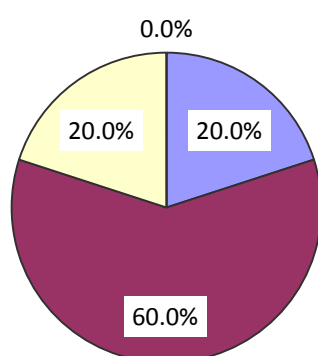


(6) 知的探求心を持ち、問題解決へ向けて主体的、創造的に取り組むことができる技術者

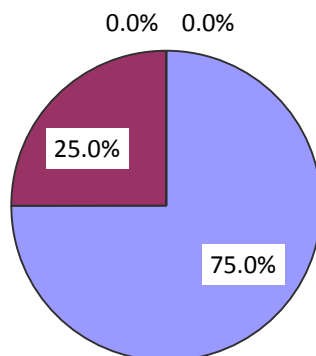
6-1：知的的好奇心と探求心を持って、幅広い分野の課題に取り組むことができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	20.0%	2人	75.0%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	60.0%	6人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	20.0%	2人	0.0%	0人	0.0%	0人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		10人		4人		0人
無回答		4人		1人		2

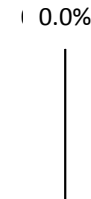
修了生



大学院教員



企業

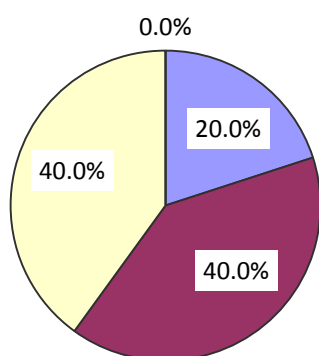


「生産システム工学専攻」の学習・教育目標に対する本校教育への満足度

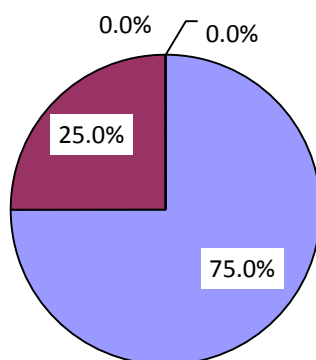
6-2：得意とする専門分野の知識、技術と情報を駆使して、社会の要求に応じた問題解決の方法を企画、デザインすることができる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	20.0%	2人	75.0%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	40.0%	4人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	40.0%	4人	0.0%	0人	0.0%	0人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		10人		4人		0人
無回答		4人		1人		2

修了生



大学院教員



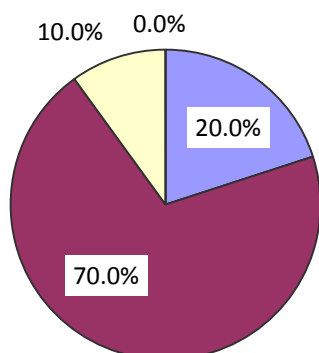
企業



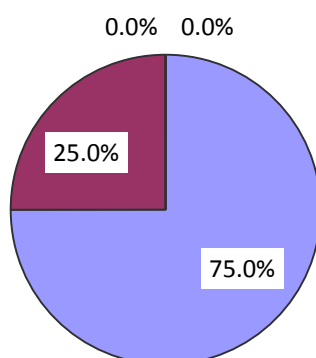
6-3：研究や学習状況を把握・記録して自主的・継続的に学習できる

選択肢	修了生		大学院教員		企業	
十分に身につけさせている	20.0%	2人	75.0%	3人	0.0%	0人
おおむね身につけさせている	70.0%	7人	25.0%	1人	0.0%	0人
あまり身につけさせていない	10.0%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
全く身につけさせていない	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
合計		10人		4人		0人
無回答		4人		1人		2

修了生



大学院教員



企業



熊本高等専門学校の特攻科修了生(八代キャンパス)の優れている点をお聞かせください。

特攻科修了生(八代キャンパス)

回答	8
無回答	6
合計	14

幅広い知識
自分の専門分野以外の分野の授業を受ける事ができ、幅広い知識を得る事が出来る。
総合力。他学科の内容まで踏み込んで学ぶ点は広い視野につながると思います。
5年間学習した専門科目のみでなく、他分野に関しても幅広い知識を得ることが出来る。
幅広い分野で知識を身に付け、経験値が高い
多面的な知識を学んでいる

免許取得に有利
基礎知識等はある、免許取得の際には役立っていると思う。

社会性・意欲・実戦力
優れている点：大卒生よりも社会への関心、自分の専門への意欲がある点、実戦に近い実習を受けたため、新入社員当時は仕事のイメージがしやすかった点。

客観性・真面目さ
客観的視点、まじめさ

熊本高等専門学校の特攻科修了生(八代キャンパス)の優れている点をお聞かせください。

進学大学院の指導教員

回答	3
無回答	2
合計	5

基礎学力や技術の習得
基礎学力や基本的技術は十分身に付いている。

積極性・問題解決能力・向上心・真面目さ
研究に取り組む姿勢は、極めて積極的で、問題解決のための種々の試みを自発的かつ能動的に行う。 与えられた課題に真面目に粘り強く取り組む

熊本高等専門学校の専攻科修了生(八代キャンパス)の劣っている点をお聞かせください。

専攻科修了生(八代キャンパス)

回答	8
無回答	6
合計	14

英語力の不足
英会話力。読解能力はある程度、身につくにしても現実的に英語による発表やディスカッションを行うだけの英会話力は身につかないと思います。
英語ができない
英語力
英語力

一般教養の不足
専門以外が弱い。
一般教養

プレゼン能力の不足
人前で発表したり、自分の意見をいうことができていないように感じる。プレゼンテーション能力、自己アピール力をもっと上げるべきだと思う。
発表（プレゼン）力が大学生に比べて劣っている。

学会発表の不足
劣っている点；学外発表経験が少ないため、業界の流れをあまり把握できない点

問題解決能力の不足
問題解決能力。

熊本高等専門学校の特攻科修了生(八代キャンパス)の劣っている点をお聞かせください。

進学大学院の指導教員

回答	3
無回答	2
合計	5

英語力の不足
これからの世代は、国際的にも活躍することが求められている。そのためには、英語によるコミュニケーション能力、英語のドキュメントの理解と英語のドキュメントの作成の能力のアップが必修と考えている。このことは、高専専攻出身者のみならず、大学卒業生にも同じことが求められる。

探究心・創造性の不足
若干、本人がすでに習得または習得可能と判断できる範囲で問題を解決しようとする傾向がある。 新たな分野を開拓して取り組む想像力が弱い

熊本高等専門学校専攻科(八代キャンパス)への御提言がございましたら、お聞かせください。

専攻科修了生(八代キャンパス)

回答	6
無回答	8
合計	14

英語力の向上
英語力（一般英語、専門英語）上昇を目的とした教育増加、学外の活動・報告の機会を増やした方が良い。

一般教養・常識の習得
まず、一般常識をしっかり身に付けられていると、社会に出たときに印象がとても良くなります。大学生も高専生も社会にでたらスタートラインは同じなので、少しでも社会で役立つ知識や常識を身に付けておくことが他と差をつけ、企業側に高専の学生を雇ってよかったと思ってもらえるポイントだと思います。

専門教育への提言
専門分野への知的好奇心が専門的学力のUPに直結すると思いますので、3年生までで習う工学的な基礎知識（数学、物理）がその後に習う専門科目との関連付けをもっと強化したほうが良いと思います。
私は環境建設工学専攻を修了しましたが、学生時代の実習で経験したことは、今の仕事で非常に大きな経験としていきています。ぜひ、実習の時間を確保していただければと思います。
また、土木業界では、ゼネコン、コンサルタント問わずにCADを使うので、まずは図面の書き方、読み方を学んでほしいのと、製図ソフトの使い方を勉強してほしいと思います。少しでもソフトの使い方を知っているのとそうでないのでは、入社時のスタートダッシュに大きな差が出ます。
学内の装置では実験の上でなど限界があるので、大学や企業の施設・機器を借りて高度な実験が出来る環境がほしかった。

進路指導（就活）について
また、高専は進学するための学校ではなく、エンジニアを育てる学校だと思います。もっと学生の就活を推してもいいかと思います。

生活指導について
さらに、高専の良いところはある程度自由な校風であることです。あれはダメこれもダメと押さえつけず、学生の判断に任せることも学生が成長できるチャンスだと思います。判断力は授業ではあまり身に付きませんし、本当に問題のある学生はふるい落とされていきます。少なくとも私はある程度の自由があったからこそ、その分やるべきことはしっかりやらなければならないという意識を持つことができました。学生は意外なところで成長していきます。今後の熊本高専の発展を期待しています。
アンケートの質問が難しいので評価しづらい。 教員と学生の信頼関係が成り立って初めて学生は教員の助言を受けとめます。教員の皆様は学生から信頼される存在であってください。子は親の背中を見て育つといいますが、学生は教員の背中をみて成長します。一本筋の通った教育者として学生をサポートしていただけたらと思います。今後も昔と同様に勉強も遊びも充実した学校であってほしいと思います。

熊本高等専門学校(八代キャンパス)への御提言がございましたら、お聞かせください。

進学大学院の指導教員

回答	2
無回答	2
合計	3

大学院への優秀な学生の推薦

これまで、貴高専専攻科出身の2名は博士後期課程まで進学し、博士号を取得しております。一人は大学教員として、もう一名は博士研究員として活躍しております。今後も、是非優秀な学生を弊専攻にご紹介いただければ幸いです。

従来のご指導の継続

特にございません。これまで通りのご指導を宜しくお願いいたします。

第 三 部

依頼文

アンケート設問

(1) 依頼文

- ・ 卒業生の保護者様宛て
「熊本高等専門学校第 1 回卒業生へのアンケート御依頼状について」 p.123
- ・ 卒業生宛て
「熊本高等専門学校第 1 回卒業生アンケート調査への御協力をお願い」 p.124
- ・ 卒業生の編入先大学事務部宛て
「熊本高等専門学校卒業編入生の指導教員へのアンケート依頼状について」 p.125
- ・ 卒業生の編入先大学指導教員宛て
「熊本高等専門学校卒業生編入大学様アンケート調査への御協力をお願い」 p.126
- ・ 卒業生の就職企業の上司様宛て
「企業様アンケート調査への御協力をお願い」 p.127
- ・ 修了生の保護者様宛て
「熊本高等専門学校専攻科第 1 回修了生のへのアンケート御依頼状について」 p.128
- ・ 修了生宛て
「熊本高等専門学校専攻科第 1 回修了生アンケート調査への御協力をお願い」 p.129
- ・ 修了生の進学先大学院事務部宛て
「熊本高等専門学校専攻科修了編入生の指導教員へのアンケート依頼状について」 p.130
- ・ 修了生の進学先大学院指導教員宛て
「熊本高等専門学校専攻科修了生入学大学院様アンケート調査への御協力をお願い」 p.131
- ・ 修了生の就職企業の上司様宛て
「企業様アンケート調査への御協力をお願い」 p.132

平成27年6月22日

平成21年度卒業生の保護者様

熊本高等専門学校 自己点検評価委員会

熊本高等専門学校第1回卒業生へのアンケート御依頼状について

拝啓 樹々の緑深くなり、初夏の訪れが間近に感じられる季節になりましたが、平成21年度卒業生の保護者様におかれましてはますますご清祥のことと存じお慶び申し上げます。

さて、本校は、平成21年10月に熊本電波工業高等専門学校と八代工業高等専門学校が再編して誕生してから早5年半の歳月が経ちました。そこで、本校では第1回卒業生であらせられます御子息・御息女と職場の上司の方にアンケートにお答えいただき、その貴重な御意見を本校の教育の質の向上及び改善のために活かしてまいりたいと存じます。

そこで、保護者様にお願いなのですが、御子息・御息女に同封のアンケートの御依頼状をお渡しただけないでしょうか。同居されていらっしゃる場合もございますので、切手を貼った封筒を同封いたしましたので、現在のお住まいのところに転送していただけると助かります。御手数をかけて誠に恐縮ですが、何卒御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

アンケートに関する御問い合わせ先：

熊本高等専門学校八代キャンパス 総務課 担当 川添^{かわぞえ} 光芳^{みつよし}

TEL：0965-53-1215 E-mail：so-hosa@kumamoto-nct.ac.jp

平成27年6月22日

熊本高等専門学校第1回卒業生の皆様

熊本高等専門学校 自己点検評価委員会

熊本高等専門学校第1回卒業生アンケート調査への御協力をお願い

拝啓 熊本高等専門学校の第1回卒業生の皆様におかれましては、平成22年3月に御卒業されてから早5年と2ヶ月の歳月が経とうとしておりますが、ますますご清祥のことと存じ、お慶び申し上げます。皆様を送り出した私ども教職員といたしましては、皆様が御健勝で御活躍されている噂を耳にするにつけ、何よりの喜びとして鋭意在校生の教育に務めております。

さて、皆様の御卒業と入れ替わりに、平成22年4月に入学した第1期生も本年3月に卒業いたしました。そうした節目の年にあたることから、本校では第1回卒業生の皆様にアンケート調査に御協力いただき、本校の教育の質の向上及び改善のために活かしてまいりたいと存じます。質問項目は、本校の学習・教育目標が社会のニーズに合っているか、また、本校卒業生がその能力を有しているか、についての内容となっております。アンケート調査の方法は、下記に書いてあります通り、Webサイトにて実施いたします。

日々技術革新の進む今日にあって、本校も進化していかなければなりません。御卒業なされていろいろな御経験を積まれた見地から、本校に対する皆様の貴重な御意見を賜りたく存じます。

また、卒業生の皆様の御意見と同時に、貴殿のお働きを身近で見てられる方の御意見も伺いたく存じます。そこで、重ねてのお願いで誠に恐縮ですが、貴殿の直接の上司にあたられる方（グループ長、係長、課長など）に同趣旨のアンケートにお答えいただきたく、上司の方への依頼状を同封させていただきましたので、お渡しいただきたく存じます。ご多忙中のところ誠に畏れ入りますが、御協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

アンケート調査の実施方法：

1. <https://jp.surveymonkey.com/s/kumamoto001ky> にアクセスしてください。
* SurveyMonkey は、セキュリティの高いアンケート専門サイトです。
2. 質問項目（43問）にお答えください（10分程度で完了いたします）。

アンケートに関する御問い合わせ先：

熊本高等専門学校八代キャンパス 総務課 担当 川添^{かわぞえ}光芳^{みつよし}

TEL：0965-53-1215 E-mail：so-hosa@kumamoto-nct.ac.jp

平成 27 年 6 月 22 日

熊本高等専門学校第 1 回卒業生編入先大学事務部 御中

熊本高等専門学校 自己点検評価委員会

熊本高等専門学校卒業編入生の指導教員へのアンケート依頼状について

拝啓 樹々の緑深くなり、初夏の訪れが間近に感じられる季節になりましたが、貴大学におかれましてはますますご清栄のことと存じお慶び申し上げます。貴大学には本校卒業生の 3 年次への編入をお認めいただいております、教職員の皆様には大変お世話になっております。

さて、本校は、平成 21 年 10 月に熊本電波工業高等専門学校と八代工業高等専門学校が再編して誕生してから早 5 年半の歳月が経ちました。そこで、本校では第 1 回卒業生の編入先大学を対象に、直接指導された先生方にアンケートにお答えいただき、その貴重な御意見を本校の教育の質の向上及び改善のために活かしてまいりたいと存じます。

そこで、貴大学事務部にお願いなのですが、下記編入生の卒業研究などの指導をされた先生に同封のアンケートの御依頼状をお渡しいただけないでしょうか。本校としては、貴大学のアドミッションポリシーに沿う編入生を送り出したいと存じます。事務部の皆様には御手数をかけて誠に恐縮ですが、何卒御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

平成 22 年 4 月 ●●●●大学工学部 編入

氏 名 : ■■■ ■■■

アンケートに関する御問い合わせ先 :

熊本高等専門学校八代キャンパス 総務課 担当 川添 光芳

TEL : 0965-53-1215 E-mail : so-hosa@kumamoto-nct.ac.jp

平成27年6月22日

熊本高等専門学校第1回卒業生編入先大学指導教員 殿

熊本高等専門学校 自己点検評価委員会

熊本高等専門学校卒業生編入大学様アンケート調査への御協力のお願い

拝啓 樹々の緑深くなり、初夏の訪れが間近に感じられる季節になりましたが、貴大学におかれましてはますますご清栄のことと存じお慶び申し上げます。熊本高等専門学校は、平成21年10月に熊本電波工業高等専門学校と八代工業高等専門学校が再編して誕生してから早5年半の歳月が経ちました。両校は、国立高等専門学校として創立して以来、5年間の一貫教育により社会が必要とするエンジニアを排出してきましたが、近年では本校で学んだ基礎の上により高度な知識や技術を求めて、学生の4割が進学する状況となっております。そこで、本校からの編入生が大学教育を受容するに耐えるだけの学力が備わっているか、直接指導された先生方にアンケートにお答えいただき、その貴重な御意見を本校の教育の質の向上及び改善のために活かしてまいりたいと存じます。

質問項目は、本校の学習・教育目標が大学のニーズに合っているか、また、本校からの編入生がその能力を有しているか、についての内容となっております。アンケート調査の方法は、下記に書いてあります通り、Webサイトにて実施いたします。

ご多忙中のところ誠に恐れ入りますが、御協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

平成22年4月 ●●●●大学工学部 編入

氏名： ■■■ ■■■

アンケート調査の実施方法：

1. <https://jp.surveymonkey.com/s/kumamoto005ky> にアクセスしてください。
* SurveyMonkey は、セキュリティの高いアンケート専門サイトです。
2. 質問項目（42問）にお答えください（10分程度で完了いたします）。

アンケートに関する御問い合わせ先：

熊本高等専門学校八代キャンパス 総務課 担当 川添 光芳 かわぞえ みつよし

TEL：0965-53-1215 E-mail：so-hosa@kumamoto-nct.ac.jp

平成 27 年 6 月 22 日

熊本高等専門学校第 1 回卒業生の上司様

熊本高等専門学校 自己点検評価委員会

企業様アンケート調査への御協力をお願い

拝啓 樹々の緑深くなり、初夏の訪れが間近に感じられる季節になりましたが、御社におかれましてはますますご清栄のことと存じお慶び申し上げます。熊本高等専門学校は、平成 21 年 10 月に熊本電波工業高等専門学校と八代工業高等専門学校が再編して誕生してから早 5 年半の歳月が経ちました。両校は、国立高等専門学校として創立して以来、社会が必要とするエンジニアの育成を目指し、実践的な教育を行ってまいりました。それゆえ、日々技術革新の進む今日にあって、本校の教育が企業様の要望に対応しているか、常に確認しておかなければなりません。そこで、本校では第 1 回卒業生の皆様にアンケート調査に御協力いただくと同時に、本校卒業生の働きぶりを身近で見てられる上司の方にもアンケートにお答えいただき、その貴重な御意見を本校の教育の質の向上及び改善のために活かしてまいりたいと存じます。

質問項目は、本校の学習・教育目標が社会のニーズに合っているか、また、本校卒業生がその能力を有しているか、についての内容となっております。アンケート調査の方法は、下記に書いてあります通り、Web サイトにて実施いたします。

ご多忙中のところ誠に恐れ入りますが、御協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

アンケート調査の実施方法 :

1. <https://jp.surveymonkey.com/s/kumamoto003ky> にアクセスしてください。
* SurveyMonkey は、セキュリティの高いアンケート専門サイトです。
2. 質問項目 (42 問) にお答えください (10 分程度で完了いたします)。

アンケートに関する御問い合わせ先 :

熊本高等専門学校八代キャンパス 総務課 担当 川添 光芳 かわぞえ みつよし
TEL : 0965-53-1215 E-mail : so-hosa@kumamoto-nct.ac.jp

平成 27 年 6 月 22 日

平成 21 年度専攻科修了生の保護者 様

熊本高等専門学校 自己点検評価委員会

熊本高等専門学校専攻科第 1 回修了生のへのアンケート御依頼状について

拝啓 樹々の緑深くなり、初夏の訪れが間近に感じられる季節になりましたが、平成 21 年度専攻科修了生の保護者様におかれましてはますますご清祥のことと存じお慶び申し上げます。

さて、本校は、平成 21 年 10 月に熊本電波工業高等専門学校と八代工業高等専門学校が再編して誕生してから早 5 年半の歳月が経ちました。そこで、本校では第 1 回専攻科修了生であらせられます御子息・御息女と職場の上司の方にアンケートにお答えいただき、その貴重な御意見を本校の教育の質の向上及び改善のために活かしてまいりたいと存じます。

そこで、保護者様にお願いなのですが、御子息・御息女に同封のアンケートの御依頼状をお渡しただけないでしょうか。同居されていらっしゃる場合もございますので、切手を貼った封筒を同封いたしましたので、現在のお住まいのところに転送していただけると助かります。御手数をかけて誠に恐縮ですが、何卒御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

アンケートに関する御問い合わせ先：

熊本高等専門学校八代キャンパス 総務課 担当 川添^{かわぞえ} 光芳^{みつよし}

TEL：0965-53-1215 E-mail：so-hosa@kumamoto-nct.ac.jp

平成 27 年 6 月 22 日

熊本高等専門学校専攻科第 1 回修了生の皆様

熊本高等専門学校 自己点検評価委員会

熊本高等専門学校専攻科第 1 回修了生アンケート調査への御協力をお願い

拝啓 熊本高等専門学校専攻科第 1 回修了生の皆様におかれましては、平成 22 年 3 月に御修了されてから早 5 年と 2 ヶ月の歳月が経とうとしておりますが、ますますご清祥のことと存じ、お慶び申し上げます。皆様を送り出した私ども教職員といたしましては、皆様が御健勝で御活躍されている噂を耳にするにつけ、何よりの喜びとして鋭意在校生の教育に務めております。

さて、皆様の御修了と入れ替わりに、平成 22 年 4 月に入学した第 1 期生も本年 3 月に卒業いたしました。そうした節目の年にあたることから、本校では専攻科第 1 回修了生の皆様にアンケート調査に御協力いただき、本校の教育の質の向上及び改善のために活かしてまいりたいと存じます。質問項目は、本校の学習・教育目標が社会のニーズに合っているか、また、本校専攻科修了生がその能力を有しているか、についての内容となっております。アンケート調査の方法は、下記に書いてあります通り、Web サイトにて実施いたします。

日々技術革新の進む今日にあつて、本校も進化していかなければなりません。社会に出ているいろいろな御経験を積まれた見地から、本校に対する皆様の貴重な御意見を賜りたく存じます。

また、修了生の皆様の御意見と同時に、貴殿のお働きを身近で見てられる方の御意見も伺いたく存じます。そこで、重ねてのお願いで誠に恐縮ですが、貴殿の直接の上司にあたる方（グループ長、係長、課長など）に同趣旨のアンケートにお答えいただきたく、上司の方への依頼状を同封させていただきましたので、お渡しいただきたく存じます。ご多忙中のところ誠に恐れ入りますが、御協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

アンケート調査の実施方法：

1. <https://jp.surveymonkey.com/s/kumamoto002k> にアクセスしてください。
* SurveyMonkey は、セキュリティの高いアンケート専門サイトです。
2. 質問項目 (27 問または 45 問) にお答えください (10 分程度で完了いたします)。

アンケートに関する御問い合わせ先：

熊本高等専門学校八代キャンパス 総務課 担当 川添 光芳^{かわぞえ みつよし}

TEL：0965-53-1215 E-mail：so-hosa@kumamoto-nct.ac.jp

平成27年6月22日

熊本高等専門学校第1回専攻科修了生進学先大学院事務局 御中

熊本高等専門学校 自己点検評価委員会

熊本高等専門学校専攻科修了編入生の指導教員へのアンケート依頼状について

拝啓 樹々の緑深くなり、初夏の訪れが間近に感じられる季節になりましたが、貴大学院におかれましてはますますご清栄のことと存じお慶び申し上げます。貴大学院には本校専攻科修了生の入学をお認めいただいております、教職員の皆様には大変お世話になっております。

さて、本校は、平成21年10月に熊本電波工業高等専門学校と八代工業高等専門学校が再編して誕生してから早5年半の歳月が経ちました。そこで、本校では第1回専攻科修了生の進学先大学院を対象に、直接指導された先生方にアンケートにお答えいただき、その貴重な御意見を本校の教育の質の向上及び改善のために活かしてまいりたいと存じます。

そこで、貴大学院事務局にお願いなのですが、下記入学生の所属した研究室で修士論文などの指導をされた先生に同封のアンケートの御依頼状をお渡しいただけないでしょうか。本校としては、貴大学院のアドミッションポリシーに沿う専攻科修了生を送り出したいと存じます。事務局の皆様には御手数をかけて誠に恐縮ですが、何卒御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

平成22年4月 ●●大学大学院情報学研究科 入学

氏名： ■■ ■■■

アンケートに関する御問い合わせ先：

熊本高等専門学校八代キャンパス 総務課 担当 ^{かわぞえ}川添 ^{みつよし}光芳

TEL：0965-53-1215 E-mail：so-hosa@kumamoto-nct.ac.jp

平成27年6月22日

熊本高等専門学校第1回専攻科修了生進学先大学院指導教員 殿

熊本高等専門学校 自己点検評価委員会

熊本高等専門学校専攻科修了生入学大学院様アンケート調査への御協力をお願い

拝啓 樹々の緑深くなり、初夏の訪れが間近に感じられる季節になりましたが、貴大学院におかれましてはますますご清栄のことと存じお慶び申し上げます。熊本高等専門学校は、平成21年10月に熊本電波工業高等専門学校と八代工業高等専門学校が再編して誕生してから早5年半の歳月が経ちました。本校は、工学の基礎知識と技術を修得する5年間の本科の上に、それを発展させたものを学ぶ2年の専攻科を設置しておりますが、近年ではより高度な知識や技術を求めて、専攻科修了生の3割は大学院へ進学する状況となっております。そこで、本校からの入学者が貴大学院教育を受容するに耐えるだけの学力が備わっているか、直接指導された先生方にアンケートにお答えいただき、その貴重な御意見を本校の教育の質の向上及び改善のために活かしてまいりたいと存じます。

質問項目は、本校専攻科の学習・教育目標が大学院のニーズに合っているか、また、本校専攻科からの入学者がその能力を有しているか、についての内容となっております。アンケート調査の方法は、下記に書いてあります通り、Webサイトにて実施いたします。

ご多忙中のところ誠に恐れ入りますが、御協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

平成22年4月 ●●大学大学院情報学研究科 入学

氏 名 : ■■ ■■■■

アンケート調査の実施方法 :

1. <https://jp.surveymonkey.com/s/kumamoto006k> にアクセスしてください。
* SurveyMonkey は、セキュリティの高いアンケート専門サイトです。
2. 質問項目 (43 問) にお答えください (10 分程度で完了いたします)。

アンケートに関する御問い合わせ先 :

熊本高等専門学校八代キャンパス 総務課 担当 川添 光芳 かわぞえ みつよし

TEL : 0965-53-1215 E-mail : so-hosa@kumamoto-nct.ac.jp

平成27年6月22日

熊本高等専門学校専攻科第1回修了生の上司様

熊本高等専門学校 自己点検評価委員会

企業様アンケート調査への御協力をお願い

拝啓 樹々の緑深くなり、初夏の訪れが間近に感じられる季節になりましたが、御社におかれましてはますますご清栄のことと存じお慶び申し上げます。熊本高等専門学校は、平成21年10月に熊本電波工業高等専門学校と八代工業高等専門学校が再編して誕生してから早5年半の歳月が経ちました。両校は、国立高等専門学校として創立して以来、社会が必要とするエンジニアの育成を目指し、実践的な教育を行ってまいりました。それゆえ、日々技術革新の進む今日にあって、本校の教育が企業様の要望に対応しているか、常に確認しておかなければなりません。そこで、本校では専攻科第1回修了生の皆様にアンケート調査に御協力いただくと同時に、本校修了生の働きぶりを身近で見てられる上司の方にもアンケートにお答えいただき、その貴重な御意見を本校の教育の質の向上及び改善のために活かしてまいりたいと存じます。

質問項目は、本校の学習・教育目標が社会のニーズに合っているか、また、本校修了生がその能力を有しているか、についての内容となっております。アンケート調査の方法は、下記に書いてあります通り、Webサイトにて実施いたします。

ご多忙中のところ誠に恐れ入りますが、御協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

アンケート調査の実施方法：

1. <https://jp.surveymonkey.com/s/kumamoto004k> にアクセスしてください。
* SurveyMonkey は、セキュリティの高いアンケート専門サイトです。
2. 質問項目（43問）にお答えください（10分程度で完了いたします）。

アンケートに関する御問い合わせ先：

熊本高等専門学校八代キャンパス 総務課 担当 川添^{かわぞえ}光芳^{みつよし}
TEL：0965-53-1215 E-mail：so-hosa@kumamoto-nct.ac.jp

(2) アンケート設問

- ・ 卒業生向け
「熊本高等専門学校本科卒業生アンケート」 p.134
- ・ 卒業生の編入先大学指導教員向け
「熊本高等専門学校本科卒業生編入大学様向けアンケート」 p.138
- ・ 卒業生の就職企業の上司様宛て
「熊本高等専門学校本科卒業生採用企業様向けアンケート」 p.139
- ・ 修了生（熊本キャンパス）向け
「熊本高等専門学校専攻科修了生（熊本キャンパス）アンケート
（JABEE 対応コース）」 p.140
- ・ 修了生（熊本キャンパス）の進学先大学院指導教員向け
「熊本高等専門学校専攻科修了生（熊本キャンパス）進学大学院様向け
アンケート」 p.144
- ・ 修了生（熊本キャンパス）の就職企業の上司様向け
「熊本高等専門学校専攻科修了生（熊本キャンパス）採用企業様向け
アンケート」 p.145
- ・ 修了生（八代キャンパス）向け
「熊本高等専門学校専攻科修了生（八代キャンパス）アンケート」 p.146
- ・ 修了生（八代キャンパス）の進学先大学院指導教員向け
「熊本高等専門学校専攻科修了生（八代キャンパス）進学大学院様向け
アンケート」 p.150
- ・ 修了生（八代キャンパス）の就職企業の上司様向け
「熊本高等専門学校専攻科修了生（八代キャンパス）採用企業様向け
アンケート」 p.151

熊本高等専門学校本科卒業生アンケート

Q1. 現在の職業等を、次の選択肢からお答えください。

会社員・公務員 その他（具体的に）	大学院生	自営業	無職
----------------------	------	-----	----

Q2. 現在の業種を、次の選択肢からお答えください（複数選択可）。

製造業 運輸業 商業 その他（具体的に）	鉱業 サービス業 不動産業	情報通信業 農林・水産業 金融・保険業	電気・ガス・水道 建設業 教育・学習支援業
-------------------------------	---------------------	---------------------------	-----------------------------

Q3. 現在の職種を、次の選択肢からお答えください（複数選択可）。

設計 品質管理 マーケティング・調査	研究・開発 システムエンジニア 商品企画・デザイン	製造・生産技術 セールスエンジニア その他（具体的に）	生産管理 営業・販売
--------------------------	---------------------------------	-----------------------------------	---------------

Q4. 卒業学科を、次の選択肢からお選びください。

情報通信工学科 機械電気工学科	電子工学科 情報電子工学科	電子制御工学科 土木建築工学科	情報工学科 生物工学科
--------------------	------------------	--------------------	----------------

Q5. 日本語における適切な文章表現及び口頭的意思伝達ができる

必ず必要である あまり必要ない	どちらかという必要である まったく必要ない
--------------------	--------------------------

Q6. 日常的に使用される英語で書かれた文章の概要・要旨がつかめる

必ず必要である あまり必要ない	どちらかという必要である まったく必要ない
--------------------	--------------------------

Q7. 自分の考え方を簡単な英語で表現できる

必ず必要である あまり必要ない	どちらかという必要である まったく必要ない
--------------------	--------------------------

Q8. ICT技術に関する基礎的技術を身につける

必ず必要である あまり必要ない	どちらかという必要である まったく必要ない
--------------------	--------------------------

Q9. 種々の情報を分析する技術を身につける

必ず必要である あまり必要ない	どちらかという必要である まったく必要ない
--------------------	--------------------------

Q10. 工学の基礎となる数学・自然科学の基礎知識を身につける

必ず必要である あまり必要ない	どちらかという必要である まったく必要ない
--------------------	--------------------------

Q11. 多様な専門分野の関連性を理解することができる

必ず必要である あまり必要ない	どちらかという必要である まったく必要ない
--------------------	--------------------------

熊本高等専門学校本科卒業生アンケート（続き）

Q12. 基礎知識を活用して工学的問題を理解し、説明できる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q13. 基礎的な実験技術を身につける

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q14. 広い視野で物事を考えることができる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q15. 日本と世界との関わりに関心を持つことができる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q16. 社会参加のための、人間的基礎力を身につける

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q17. グループでの活動に参加し、その中で協調して役割を果たせる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q18. 技術者が持つべき倫理観の必要性を認識できる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q19. 社会における倫理的な問題を認識することができる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q20. 好奇心と探究心を持って、得意とする専門分野の課題に取り組むことができる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q21. 得意とする専門分野の知識、技術を身につけ、社会との関連を理解できる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q22. 主体的に継続的に学習できる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q23. 日本語における適切な文章表現及び口頭的意思伝達ができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

熊本高等専門学校本科卒業生アンケート（続き）

Q24. 日常的に使用される英語で書かれた文章の概要・要旨がつかめる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q25. 自分の考え方を簡潔な英語で表現できる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q26. I C T技術に関する基礎的技術を身につける

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q27. 種々の情報を分析する技術を身につける

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q28. 工学の基礎となる数学・自然科学の基礎知識を身につける

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q29. 多様な専門分野の関連性を理解することができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q30. 基礎知識を活用して工学的な問題を理解し、説明できる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q31. 基礎的な実験技術を身につける

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q32. 広い視野で物事を考えることができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q33. 日本と世界との関わりに関心を持つことができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q34. 社会参加のための人間的基礎力を身につける

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q35. グループでの活動に参加し、その中で協調して役割を果たせる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

熊本高等専門学校本科卒業生アンケート（続き）

Q36. 技術者が持つべき倫理観の必要性を認識できる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q37. 社会における倫理的な問題を認識することができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q38. 好奇心と探究心を持って、得意とする専門分野の課題に取り組むことができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q39. 得意とする専門分野の知識、技術を身につけ、社会との関連を理解できる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q40. 主体的に継続的に学習できる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q41. 熊本高等専門学校の卒業生の優れている点をお聞かせください。

Q42. 熊本高等専門学校の卒業生の劣っている点をお聞かせください。

Q43. 熊本高等専門学校への御提言がございましたら、お聞かせください。

熊本高等専門学校本科卒業生編入大学様向けアンケート

Q1. 回答者様の所属学部を、次の選択肢からお答えください。

工学部	理学部	農学部	経済学部
その他（具体的に）			

Q2. 御回答者の所属学科（学系）について、御記入ください。

Q3. 編入した本校卒業生の学科を、次の選択肢からお答えください（複数選択可）。

情報通信工学科	電子工学科	電子制御工学科	情報工学科
機械電気工学科	情報電子工学科	土木建築工学科	生物工学科

以下の設問Q4～Q42までは、「熊本高等専門学校卒業生アンケート」のQ5～Q43と同じのため省略

熊本高等専門学校本科卒業生採用企業様向けアンケート

Q1. 御社の業種を、次の選択肢からお答えください（複数選択可）。

製造業	鉱業	情報通信業	電気・ガス・水道
運輸業	サービス業	農林・水産業	建設業
商業	不動産業	金融・保険業	教育・学習支援業
その他（具体的に）			

Q2. 本校卒業生が配属された職種は、どの分野ですか。次の選択肢からお答えください（複数選択可）。

設計	研究・開発	製造・生産技術	生産管理
品質管理	システムエンジニア	セールスエンジニア	営業・販売
マーケティング・調査	商品企画・デザイン	その他（具体的に）	

Q3. 採用された当該本校卒業生の学科を、次の選択肢からお答えください。

情報通信工学科	電子工学科	電子制御工学科	情報工学科
機械電気工学科	情報電子工学科	土木建築工学科	生物工学科

以下の設問Q4～Q42までは、「熊本高等専門学校卒業生アンケート」のQ5～Q43と同じのため省略

**熊本高等専門学校専攻科修了生（熊本キャンパス）アンケート
（JABEE対応コース）**

Q1. 修了した専攻を、次の選択肢から選び、お答えください。

電子情報システム工学専攻

制御情報システム工学専攻

Q2. 現在の職業等を、次の選択肢から選び、お答えください。

会社員・公務員
その他（具体的に）

大学院生

自営業

無職

Q3. 現在の業種を、次の選択肢からお選びください（就職してる方のみ）。

製造業
運輸業
商業
その他（具体的に）

鉱業
サービス業
不動産業

情報通信業
農林・水産業
金融・保険業

電気・ガス・水道
建設業
教育・学習支援業

Q4. 配属された職種は、どの分野ですか。次の選択肢からお答えください（就職してる方のみ）。

設計
品質管理
マーケティング・調査

研究・開発
システムエンジニア
商品企画・デザイン

製造・生産技術
セールスエンジニア
その他（具体的に）

生産管理
営業・販売

Q5. 技術者として、分かりやすいきちんとした日本語での表現、技術報告書の作成、プレゼンテーションなどができる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q6. 英語による基本的な表現（英文読解、英作文、英会話）ができる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q7. 技術者としての英語のコミュニケーション能力を身につける

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q8. コンピュータのハードウェアに関する基本的な働きを理解し、OSやプログラミング言語に関する基礎的な処理ができる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q9. 工学的な課題についてコンピュータを応用して解決することができる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q10. 数学、物理などの基礎的な知識・能力を身につけ、それを工学の分野で利用できる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q11. 電気回路、電子回路、電気磁気学などの電子・情報系専門基礎科目の知識・能力を身につける

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

熊本高等専門学校専攻科修了生（熊本キャンパス）アンケート
（JABEE対応コース）（続き）

Q12. 基本的な測定機器の取り扱い、実験技術を身につける

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q13. 通信技術・電子技術・制御技術・情報技術などの中から1分野の専門応用技術を身につける

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q14. 人の行動・感性を工学に生かす技術を身につける

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q15. 与えられた課題について、問題解決の過程を通じてデザイン能力を身につける

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q16. 研究計画の立案、研究の進め方、結果の整理・考察など一連の技術開発手順を学習し、創造性を身につける

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q17. 実験や研究途上で生じた新たな問題点の解決など、技術者として自主的に取り組むチャレンジ性を身につける

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q18. 継続的に学習する習慣を身につける

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q19. 企業実習、校内での実習を通じ、与えられた課題に対する実践的な能力を身につける

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q20. 諸外国の言語を学び各国の文化、価値観などに触れるとともに、社会の成立に不可欠な諸条件の基礎的知識を習得することにより、多面的に物事を考え価値観の異なる他者との共存ができる素養を身につける

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q21. スポーツやグループワークを通して協力・連携の意識を育み、社会性・協調性・チームワーク力を身につける

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

熊本高等専門学校専攻科修了生（熊本キャンパス）アンケート
（JABEE対応コース）（続き）

Q22. 技術が人類社会に及ぼす影響、技術開発が人類社会に与える倫理的な問題について理解する

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q23. 技術者として、分かりやすいきちんとした日本語での表現、技術報告書の作成、プレゼンテーションなどができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q24. 英語による基本的な表現（英文読解、英作文、英会話）ができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q25. 技術者としての英語のコミュニケーション能力を身につける

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q26. コンピュータのハードウェアに関する基本的な働きを理解し、OSやプログラミング言語に関する基礎的な処理ができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q27. 工学的な課題についてコンピュータを応用して解決することができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q28. 数学、物理などの基礎的な知識・能力を身につけ、それを工学の分野で利用できる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q29. 電気回路、電子回路、電気磁気学などの電子・情報系専門基礎科目の知識・能力を身につける

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q30. 基本的な測定機器の取り扱い、実験技術を身につける

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q31. 通信技術・電子技術・制御技術・情報技術などの中から1分野の専門応用技術を身につける

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q32. 人の行動・感性を工学に生かす技術を身につける

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

熊本高等専門学校専攻科修了生（熊本キャンパス）アンケート
（JABEE対応コース）（続き）

Q33. 与えられた課題について、問題解決の過程を通じてデザイン能力を身につける

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q34. 研究計画の立案、研究の進め方、結果の整理・考察など一連の技術開発手順を学習し、創造性を身につける

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q35. 実験や研究途上で生じた新たな問題点の解決など、技術者として自主的に取り組むチャレンジ性を身につける

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q36. 継続的に学習する習慣を身につける

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q37. 企業実習、校内での実習を通じ、与えられた課題に対する実践的な能力を身につける

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q38. 諸外国の言語を学び各国の文化、価値観などに触れるとともに、社会の成立に不可欠な諸条件の基礎的知識を習得することにより、多面的に物事を考え価値観の異なる他者との共存ができる素養を身につける

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q39. スポーツやグループワークを通して協力・連携の意識を育み、社会性・協調性・チームワーク力を身につける

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q40. 技術が人類社会に及ぼす影響、技術開発が人類社会に与える倫理的な問題について理解する

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q41. 熊本高等専門学校の専攻科修了生の優れている点をお聞かせください。

Q42. 熊本高等専門学校の専攻科修了生の劣っている点をお聞かせください。

Q43. 熊本高等専門学校への御提言がございましたら、お聞かせください。

熊本高等専門学校専攻科修了生（熊本キャンパス）進学大学院様向けアンケート

- Q1. 回答者様の所属研究科（学府）を、御記入ください。
- Q2. 回答者様の所属専攻を、御記入ください。
- Q3. 貴研究室に進学した本校専攻科修了生の専攻を、次の選択肢からお答えください（複数回答）
- | | |
|--------------|--------------|
| 電子情報システム工学専攻 | 制御情報システム工学専攻 |
|--------------|--------------|

以下の設問Q4～Q42までは、「熊本高等専門学校専攻科修了生（熊本キャンパス）アンケート（JABEE対応コース）」のQ5～Q43と同じのため省略

熊本高等専門学校専攻科修了生（熊本キャンパス）採用企業様向けアンケート

Q1. 御社の業種を、次の選択肢からお答えください（複数選択可）。

製造業	鉱業	情報通信業	電気・ガス・水道
運輸業	サービス業	農林・水産業	建設業
商業	不動産業	金融・保険業	教育・学習支援業
その他（具体的に）			

Q2. 本校専攻科修了生（熊本キャンパス）が配属された職種は、どの分野ですか。次の選択肢からお答えください（複数回答可）。

設計	研究・開発	製造・生産技術	生産管理
品質管理	システムエンジニア	セールスエンジニア	営業・販売
マーケティング・調査	商品企画・デザイン	その他（具体的に）	

Q3. 御社が採用した当該本校専攻科修了生（熊本キャンパス）の専攻を、次の選択肢からお答えください。

電子情報システム工学専攻	制御情報システム工学専攻
--------------	--------------

以下の設問Q4～Q42までは、「熊本高等専門学校専攻科修了生（熊本キャンパス）アンケート」のQ5～Q43と同じのため省略

熊本高等専門学校専攻科修了生（八代キャンパス）アンケート

Q1. 修了した専攻を、次の選択肢からお答えください。

生産情報工学専攻 環境建設工学専攻 生物工学専攻

Q2. 現在の職業等を、次の選択肢から選び、お答えください。

会社員・公務員 大学院生 自営業 無職
その他（具体的に）

Q3. 現在の業種を、次の選択肢からお選びください（就職してる方のみ）。

製造業 鉱業 情報通信業 電気・ガス・水道
運輸業 サービス業 農林・水産業 建設業
商業 不動産業 金融・保険業 教育・学習支援業
その他（具体的に）

Q4. 配属された業種は、どの分野ですか。次の選択肢からお答えください（就職してる方のみ）。

設計 研究・開発 製造・生産技術 生産管理
品質管理 システムエンジニア セールスエンジニア 営業・販売
マーケティング・調査 商品企画・デザイン その他（具体的に）

Q5. 日本語による適切な文章表現及び口頭的意思伝達ができる

必ず必要である どちらかという必要である
あまり必要ない まったく必要ない

Q6. 英語で書かれた技術文書の概要・要旨がつかめる

必ず必要である どちらかという必要である
あまり必要ない まったく必要ない

Q7. 研究の英文概要を書くことができ、発表資料などに英語を用いることができる

必ず必要である どちらかという必要である
あまり必要ない まったく必要ない

Q8. ICT技術を活用した計測技術を使い実験データを収集することができる

必ず必要である どちらかという必要である
あまり必要ない まったく必要ない

Q9. 収集したデータや情報を数理的処理を用いて分析し専門工学での問題解決に繋げることができる

必ず必要である どちらかという必要である
あまり必要ない まったく必要ない

Q10. 数学・自然科学の基礎知識を、専門分野の課題で活用することができる

必ず必要である どちらかという必要である
あまり必要ない まったく必要ない

Q11. 多様な専門分野の関連性を理解し、多面的に捉えることができる

必ず必要である どちらかという必要である
あまり必要ない まったく必要ない

熊本高等専門学校専攻科修了生（八代キャンパス）アンケート（続き）

Q12. 基礎知識を活用して工学的問題を理解し、説明できる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q13. 基礎的な実験技術を用いて、実験を企画・実行して結果の分析・評価ができる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q14. 幅広い知識を身につけ、地球的視点から問題を捉えることができる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q15. 異文化を理解し、価値観の多様性を認識することができる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q16. 社会参加への意欲と関心をもつことができる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q17. グループでの活動に参加し、他のメンバーと協調して課題に取り組むことができる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q18. 科学技術に関する倫理的問題について理解し、指摘することができる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q19. 実務上の問題を理解し、技術的・倫理的知識を適用することができる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q20. 知的好奇心と探求心を持って、幅広い分野の課題に取り組むことができる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q21. 得意とする専門分野の知識、技術と情報を駆使して、社会の要求に応じた問題解決の方法を企画、デザインすることができる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

Q22. 研究や学習状況を把握・記録して自主的・継続的に学習できる

必ず必要である
あまり必要ない

どちらかという必要である
まったく必要ない

熊本高等専門学校専攻科修了生（八代キャンパス）アンケート（続き）

Q23. 日本語による適切な文章表現及び口頭の意思伝達ができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q24. 英語で書かれた技術文書の概要・要旨がつかめる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q25. 研究の英文概要を書くことができ、発表資料などに英語を用いることができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q26. ICT技術を活用した計測技術を使い実験データを収集することができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q27. 収集したデータや情報を数理的処理を用いて分析し専門工学での問題解決に繋げることができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q28. 数学・自然科学の基礎知識を、専門分野の課題で活用することができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q29. 多様な専門分野の関連性を理解し、多面的に捉えることができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q30. 基礎知識を活用して工学的問題を理解し、説明できる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q31. 基礎的な実験技術を用いて、実験を企画・実行して結果の分析・評価ができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q32. 幅広い知識を身につけ、地球的視点から問題を捉えることができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q33. 異文化を理解し、価値観の多様性を認識することができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

熊本高等専門学校専攻科修了生（八代キャンパス）アンケート（続き）

Q34. 社会参加への意欲と関心をもつことができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q35. グループでの活動に参加し、他のメンバーと協調して課題に取り組むことができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q36. 科学技術に関する倫理的問題について理解し、指摘することができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q37. 実務上の問題を理解し、技術的・倫理的知識を適用することができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q38. 知的好奇心と探求心を持って、幅広い分野の課題に取り組むことができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q39. 得意とする専門分野の知識、技術と情報を駆使して、社会の要求に応じた問題解決の方法を企画、デザインすることができる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q40. 研究や学習状況を把握・記録して自主的・継続的に学習できる

十分身につけさせている
あまり身につけさせていない

おおむね身につけさせている
まったく身につけさせていない

Q41. 熊本高等専門学校の専攻科修了生の優れている点をお聞かせください。

Q42. 熊本高等専門学校の専攻科修了生の劣っている点をお聞かせください。

Q43. 熊本高等専門学校への御提言がございましたら、お聞かせください。

熊本高等専門学校専攻科修了生（八代キャンパス）進学大学院様向けアンケート

Q1. 御回答者の所属研究科（学府）を、御記入ください。

Q2. 御回答者の所属専攻を、御記入ください。

Q3. 貴研究室へ進学した本校専攻科修了生の専攻を、次の選択肢からお答えください（複数回答可）

生産情報工学専攻

環境建設工学専攻

生物工学専攻

生産システム工学専攻

以下の設問Q4～Q42までは、「熊本高等専門学校専攻科修了生（八代キャンパス）アンケート」のQ5～Q43と同じのため省略

熊本高等専門学校専攻科修了生（八代キャンパス）採用企業様向けアンケート

Q1. 御社の業種を、次の選択肢からお答えください（複数選択可）。

製造業	鉱業	情報通信業	電気・ガス・水道
運輸業	サービス業	農林・水産業	建設業
商業	不動産業	金融・保険業	教育・学習支援業
その他（具体的に）			

Q2. 本校専攻科修了生（八代キャンパス）が配属された職種は、どの分野ですか。次の選択肢からお答えください（複数回答可）。

設計	研究・開発	製造・生産技術	生産管理
品質管理	システムエンジニア	セールスエンジニア	営業・販売
マーケティング・調査	商品企画・デザイン	その他（具体的に）	

Q3. 御社が採用した当該本校専攻科修了生（八代キャンパス）の専攻を、次の選択肢からお答えください。

生産情報工学専攻 環境建設工学専攻 生物工学専攻

以下の設問Q4～Q42までは、「熊本高等専門学校専攻科修了生（八代キャンパス）アンケート」のQ5～Q43と同じのため省略